

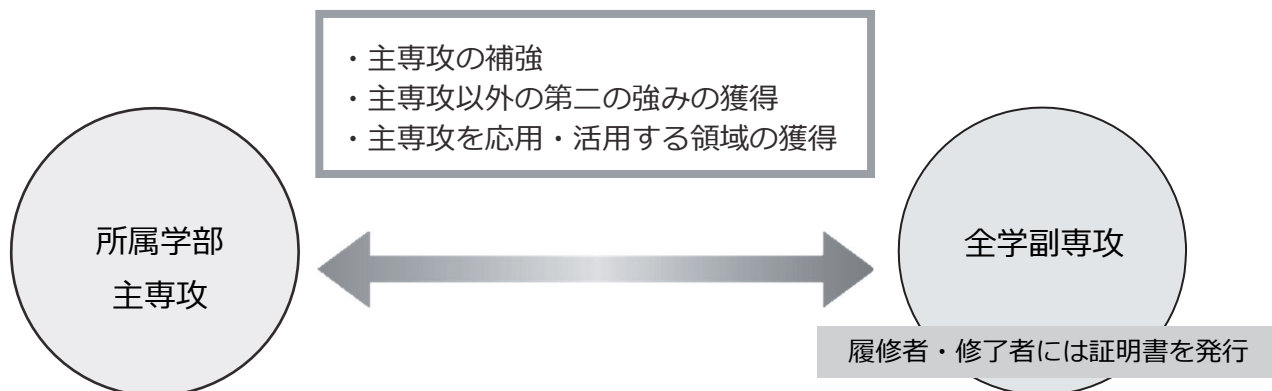
第1章 全学副専攻を知る

I. 全学副専攻について

1. 全学副専攻とは

全学副専攻とは、学部生であれば学部や学年を問わず誰でもチャレンジすることのできる制度で、所属する学部で主専攻の学問を学びながら、同時にその他の学問分野を体系的に学ぶことが出来ます。全学副専攻の制度を利用することで①**主専攻の補強**②**主専攻以外の第二の強みの獲得**③**主専攻を応用・活用する領域の獲得**などを可能とし、同時に独自の専門性の開拓を後押しする機会ともなります。全学副専攻履修者・修了者には証明書が発行されるため、対外的・社会的にも自分の取り組みを証明することも出来ます。また、他学部の学生と相互に刺激し合うことで広い視野の獲得や人的ネットワークの形成にも役立ちます。

GEC は、全学副専攻を上手に活用することで、みなさん一人ひとりが能力を最大限に発揮し、個性溢れる人材として社会で活躍できることを期待しています。



2. 副専攻とは

全学副専攻で用意されているさまざまな学問領域を「副専攻」と呼びます。副専攻はさらに「学術的副専攻」「学際的副専攻」に区別されており、各学部のプログラムを全学部生向けに開放したものを学術的副専攻、時代や社会の変化に即した視点に基づく分野、今後重要性を増す分野など学生の多様な関心に合わせて設置したものを学際的副専攻と言います。各副専攻の紹介は 78 ページ以降に記載してありますので、興味・関心に合うテーマの副専攻を選択してみましょう。

3. 指定科目とは

副専攻にはテーマに即した科目のラインナップが用意されています。みなさんが修了を目指して履修する科目を「指定科目」と呼びます。学術的副専攻では指定科目がさらに「基礎科目」と「発展科目」に区別されており、基礎科目は副専攻を学ぶ上で礎となる科目、発展科目は副専攻をより深く学ぶ上で必要となる科目となります。全学副専攻制度は全学部生がチャレンジできる制度であるため、指定科目は GEC 提供科目や、学部等提供オープン科目で構成されています。

4. 修了必要単位数とは

各副専攻では、修了のために必要な単位数が定められています。その単位数を取得しないと、副専攻修了とは認定されません。修了必要単位数は副専攻によって異なり、なかには履修必須科目を設けている副専攻もありますので、よく確認し、履修計画を立てるようにしてください。

5. コーディネーターとは

各副専攻にはコーディネーターと呼ばれる教員がいます。コーディネーターは副専攻の運営、指定科目の選定を行うほか、学生のみなさんの相談を受けたり、指導を行う存在です。全学副専攻の修了を目指す中で困ったことがあった場合には、コーディネーターに相談をしましょう。各副専攻のコーディネーターは 75～76 ページの一覧で確認してください。

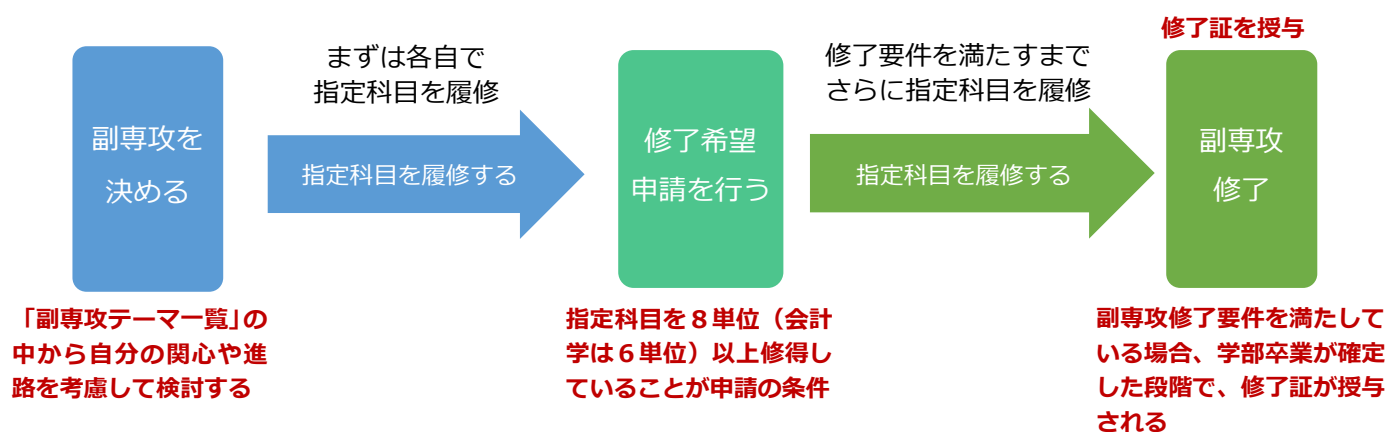
Ⅱ. 全学副専攻履修方法について

1. 基本ルール

まず確認しましょう！

1. 副専攻修了希望者に対する科目登録上の優遇措置はありません。
2. 副専攻修了に必要な単位は、卒業単位への算入／非算入を問いません。
3. 副専攻修了には、指定期間内に「修了希望申請」を行う必要があります。
4. 「修了希望申請」は、該当副専攻の指定科目を8単位以上修得済であることが条件です。
※ただし、「会計学」については、積み上げ式履修条件が厳しいため、6単位以上で可とします。
5. 複数の全学副専攻を修了することができます。
6. 全学副専攻の対象は学部学生のみです。大学院進学後や科目等履修生は修了することができません。
7. 2006年度以前に修得した単位は一律無効です。

2. 修了までの流れ



3. 副専攻指定科目の科目登録について

- ・副専攻指定科目は、学部やセンターで決められた期間や方法に従って登録してください。科目の設置箇所によって登録期間や登録方法が異なる場合がありますので、事前によく確認するようにしてください。
- ・指定科目の副専攻上の区分は、単位を修得した年度の要項に指定されていたものが適用されます。ただし「コリア研究」については例外対応がありますので、指定科目一覧を確認してください。
- ・副専攻指定科目の優先登録や、選外時の救済措置はありません。
- ・副専攻指定科目の卒業算入可否については、所属学部を確認してください。
- ・クラス番号が指定されている科目は、対象外のクラスを履修しても修了必要単位に算入されません。
- ・指定科目の一覧にある情報は2026年2月時点のものです。学期・曜日・時限などの変更が生じる可能性がありますので、科目登録前に必ずWebシラバスで最新の情報を確認するようにしてください。また、指定科目一覧には休講科目も含まれています。Webシラバス検索でヒットしない科目は休講科目です。

◆指定科目一覧に科目が追加された場合の、過年度履修分の取り扱い

追加年度以前に同科目を単位修得していた場合も、修了必要単位に算入されます。
科目区分は、科目が追加された年度のものが適用されます。

<例> 2027年度から「発展科目1」に「科目A」が追加された場合

⇒2007年度～2026年度に単位修得した場合、「発展科目1」として修了必要単位に算入されます。

◆指定科目の科目区分が変更となった場合の取り扱い

科目区分が変更となった場合には、単位を修得した年度の区分が適用されます。指定科目に追加された年度以前に単位修得していた場合、修了必要単位に算入されます。その場合、科目が追加された年度の科目区分が適用されます。

＜例＞2022年度から「基礎科目」に「科目A」が追加され、2024年度に区分が「基礎科目」から「発展科目」に変更となった場合

⇒2007年度～2021年度以前に単位修得した場合、「基礎科目」として修了必要単位に算入されます。

2022年度～2023年度に単位修得した場合、「基礎科目」として修了必要単位に算入されます。

2024年度以降に単位修得した場合、「発展科目1」として修了必要単位に算入されます。

4. 単位の修得・算入について

- ・単位が修得できた指定科目は、副専攻の修了必要単位に算入されます。修得単位数を確認し、不足分を次の科目登録時に登録するようにしてください。
- ・区分や領域分野ごとの必要単位数だけではなく、全体単位数も満たしていることを確認してください。
- ・卒業単位への算入／非算入に関わらず、指定科目の単位が修得できていれば修了必要単位に算入されます。
- ・高校生特別聴講制度により大学入学前に修得した指定科目は、修了必要単位として扱われません。
- ・複数の副専攻で指定科目となっている科目の単位を修得した場合、複数の副専攻の修得必要単位として認定されます。

5. 修了希望申請について

(1) 申請期間

春学期	3月17日（火）9：00～4月18日（土）16：00
秋学期	9月14日（月）9：00～10月8日（木）16：00

(2) 申請対象者

該当副専攻の指定科目の中から8単位（「会計学」は6単位）以上の単位を修得している方

※本申請は、申請期間後にも引き続き在学する方を対象としています。

2026年9月卒業者は2026年秋学期／2027年3月卒業者は2027年春学期に申請を行うことはできません。

(3) 申請方法

- ①GEC Web ページを開く。
- ②「学部学生の方へ」をクリックする。（図1）
- ③「全学副専攻制度」をクリックし、スケジュール内の【全学副専攻「修了希望申請」申請フォーム】を開く。（図2）
- ④申請フォームが開いたら、画面中央の【申請】ボタンをクリックする。
- ⑤必要事項を回答のうえ、画面右下の【保存】ボタンをクリックする。

〔図1〕



「学部学生の方へ」をクリック

〔図2〕

2021年度スケジュール		
項目	内容	日程
指定科目登録 (1次～3次)	学部提供の全学オープン科目は2次登録以降登録できません。 1次登録で登録してください。	【春学期】 登録期間：発表期間は所属学部で確認してください。
修了希望申請	以下内容から申請してください。 全学副専攻「修了希望申請」申請フォーム ※副専攻の指定科目を9単位以上修得していることが条件です。ただし、「会計学」については、積み上げ式修得条件が厳しいため、6単位以上で可とします。 ※旧制度の再定めて希望の方は、新制度への修了希望としてください。	【春学期】 3月18日（木）9:00～ 4月10日（金）17:00 【秋学期】 9月15日（金）9:00～ 10月1日（金）17:00

全学副専攻「修了希望申請」申請フォーム

6. 修了の条件について

全学副専攻の修了を認定されるためには以下の3点を満たす必要があります。

- ① 各副専攻で定められた修了要件を満たしていること
- ② 修了希望申請を行っていること
- ③ 所属学部で卒業が認定されること

※修了結果は、Waseda メールアドレス宛に3月中旬／9月中旬頃にお送りします。

※修了証のお渡しや、各種証明書の発行については、修了者に別途ご案内いたします。

※副専攻を修了できなかった場合でも、学部の卒業には影響を及ぼしません。

7. 発行可能な証明書・記念品について

副専攻制度に取り組むと、各種証明書を発行できます。また、修了者には記念品である「修了証」をお渡しします。発行は以下の表よりご確認ください。

	状況	単位修得証明書	修了証明書	修了証
在学中	副専攻修了希望申請が受理されている	○（有料）	×	×
卒業後	副専攻修了希望申請は受理されたが、副専攻を修了できなかった	×	×	×
	副専攻を修了した	○（有料）	○（有料） ※3月卒業者は3/15以降 9月卒業者は9/15以降	○（無料） ※1枚のみ ※再発行不可

※副専攻修了希望申請を行っていない方は、証明書を発行できません。

第2章 全学副専攻 各副専攻 紹介

<学術的副専攻>

No.	副専攻名	コーディネーター（○代表者）	所属
1	政治学	○稲村 一隆 国吉 知樹	政治経済学術院 政治経済学術院
2	経済学	○上田 晃三 玉置 健一郎	政治経済学術院 政治経済学術院
3	人権と法	○江原 勝行 田村 達久 渋谷 謙次郎	法学学術院 法学学術院 法学学術院
4	アジアの歴史と伝統文化	○飯山 知保 柿沼 陽平 植田 喜兵成智	文学学術院 文学学術院 文学学術院
5	東洋の思想と宗教	○渡邊 義浩 山部 能宜 師 茂樹	文学学術院 文学学術院 文学学術院
6	会計学	○大鹿 智基 奥村 雅史 清水 孝	商学学術院 商学学術院 商学学術院
7	ソフトウェア学	○山名 早人 米田 元 金光 永煥	理工学術院 理工学術院 グローバル・エデュケーション・センター
8	社会イノベーション	○棟居 徳子 佐藤 洋一 早田 宰	社会科学総合学術院 社会科学総合学術院 社会科学総合学術院
9	日本語教育学	○舩橋 瑞貴 舘岡 洋子 蒲谷 宏	国際学術院 国際学術院 国際学術院

<学際的副専攻>

No.	副専攻名	コーディネーター（○代表者）	所属
1	アーカイブズ学	○大橋 幸泰 三村 昌司 遠藤 美奈	教育・総合科学学術院 教育・総合科学学術院 教育・総合科学学術院
2	アントレプレナーシップ	○河村 耕平 井上 達彦 石井 裕之	政治経済学術院 商学学術院 理工学術院
3	映画・映像	○河合 隆史 藤井 仁子 土田 環	理工学術院 文学学術院 理工学術院
4	演劇・舞台芸術	○澤田 敬司 平林 宣和 八木 斉子 高井 詩穂	法学学術院 政治経済学術院 政治経済学術院 文学学術院
5	開発学	○堀 芳枝 金 敬黙 利根川 佳子	社会科学総合学術院 文学学術院 社会科学総合学術院
6	カーボンニュートラルリーダー	○所 千晴 有村 俊秀 赤尾 健一	理工学術院 政治経済学術院 社会科学総合学術院
7	健康・医療	○大島 登志男 野口 晴子	理工学術院 政治経済学術院
8	ことばの科学	○近藤 悠介 乙黒 亮 近藤 真理子	グローバル・エデュケーション・センター 法学学術院 国際学術院
9	コリア研究	○金 敬黙 植田 喜兵成智 山崎 玲美奈 崔 チョンア	文学学術院 文学学術院 文学学術院 グローバル・エデュケーション・センター
10	ジェンダー研究	○弓削 尚子 村田 晶子 松永 典子	法学学術院 文学学術院 教育・総合科学学術院
11	社会貢献とボランティア	○兵藤 智佳 筒井 久美子 落合 基継	平山郁夫記念ボランティアセンター 平山郁夫記念ボランティアセンター 社会科学総合学術院
12	ジャーナリズムとメディア表現	○澤 康臣 佐藤 洋一	教育・総合科学学術院 社会科学総合学術院
13	台湾研究	○梅森 直之 江 正殷 劉 傑	政治経済学術院 歴史館 社会科学総合学術院
14	地域連携・地域貢献	○加藤 基樹 松居 辰則 早田 幸	グローバル・エデュケーション・センター 人間科学学術院 社会科学総合学術院
15	ドイツ研究	○室井 禎之 生駒 美喜 星井 牧子	政治経済学術院 政治経済学術院 法学学術院
16	都市・地域研究	○矢口 哲也 有賀 隆 佐々木 葉	理工学術院 理工学術院 理工学術院
17	Conflict Resolution: From Asia's Perspective	○小山 淑子 梅森 直之 奥迫 元	社会科学総合学術院 政治経済学術院 社会科学総合学術院

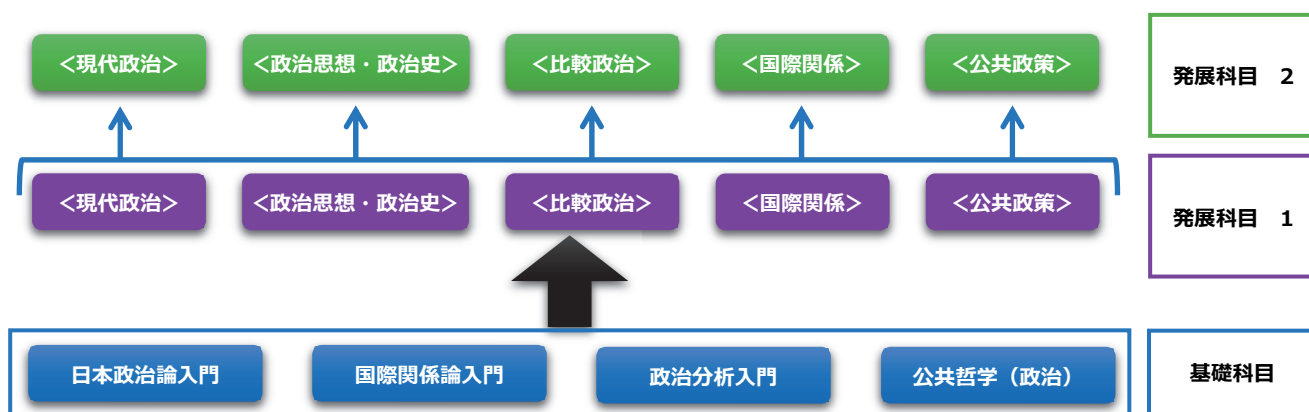
設置概要

政治経済学術院の政治学科目は、現代政治、政治思想・政治史、比較政治、国際関係、公共政策という5コア領域から構成され、研究対象領域も日本、地域、国際などに区分される。このような複数のコア領域と異なる対象領域をもつ政治学を基礎から理解するために、本副専攻は3段階の科目群から構成される。まず基礎科目においては、日本政治と国際関係の歴史・理論・問題点を学び、政治現象を分析し解釈するための理論・方法・概念を学ぶ。次に発展科目1においては、5コア領域の基幹科目が、さらに発展科目2においては、5コア領域の専門科目が配置されている。

到達点（学習成果）

履修学生には、日本政治と国際関係の歴史・理論・問題点、政治現象を分析し解釈するための基礎的な理論・方法・概念をすべて習得することが期待される。その後で、各履修生が自身の関心にしたがい、5コア領域から1つまたは2つの領域を選択し、当該領域の基幹科目・専門科目を履修することを通じて当該領域の政治学の大きな流れと主要な知見を習得することが期待される。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

まず、履修学生には、①日本政治論入門、②国際関係論入門、③政治分析入門、④公共哲学（政治）の基礎科目のすべてを履修することを薦める。それぞれが各分野の基礎知識を提供する。ただし、③と④は方法中心の科目であり、かなり内容が異なっている。③の政治分析入門は、政治現象を分析するための合理的選択理論や統計・計量分析手法を習得する科目であり、④の公共哲学（政治）は、政治現象を意味付けたり解釈するための規範理論や理念を習得する科目である。両科目を等しく履修することが理想的ではあるものの、学生個人の得手不得手があるので、いずれか一方を集中的に習得することも政治学を学習するための近道である。

指定科目一覧

修了必要単位

20 単位（基礎科目 6 単位、発展科目 1：8 単位、発展科目 2：6 単位）以上

注意事項

政治経済学部生は「政治学」副専攻を修了できません

★基礎科目

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	領域	備 考
1	政経	日本政治論入門 01	1 年以上	2		
2	政経	政治分析入門 01	1 年以上	4		自学部優先科目
3	政経	政治分析入門 02	1 年以上	4		自学部優先科目
4	政経	国際関係論入門 01	1 年以上	2		自学部優先科目
5	政経	公共哲学（政治） 01	1 年以上	2		自学部優先科目
6	政経	公共哲学（政治） 02	1 年以上	2		自学部優先科目
7	政経	公共哲学（政治） 03	1 年以上	2		自学部優先科目

★発展科目 1

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	領域	備 考
1	政経	現代政治分析 01	2 年以上	4	現代政治	
2	政経	政治理論史 01	2 年以上	4	政治思想・政治史	
3	政経	政治コミュニケーション 01	2 年以上	2	現代政治	2018 年度以前「コミュニケーション論」「政治コミュニケーション論 A」「政治コミュニケーション論 B」いずれかの単位修得者は履修不可
4	政経	憲法 01	2 年以上	4	政治思想・政治史	
5	政経	行政学 01	2 年以上	4	公共政策	
6	政経	公共政策 01	2 年以上	4	公共政策	
7	政経	国際政治学 01	2 年以上	4	国際関係	
8	政経	比較政治学 01	2 年以上	4	比較政治	
9	政経	国際関係史 I 01	2 年以上	2	国際関係	2018 年度以前「国際政治史」単位修得者は履修不可
10	政経	日本政治史 01	2 年以上	4	政治思想・政治史	
11	政経	国際社会関係論 01	2 年以上	2	国際関係	2018 年度以前「国際社会関係論」単位修得者は履修不可
12	政経	東アジアの比較政治 01	2 年以上	2	比較政治	

★発展科目 2

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	領域	備 考
1	政経	西洋政治史 01	2 年以上	4	政治思想・政治史	
2	政経	政治心理学 01	2 年以上	2	現代政治	
3	政経	現代政治理論 I 01	2 年以上	2	政治思想・政治史	
4	政経	現代政治理論 II 01	2 年以上	2	政治思想・政治史	2018 年度以前「現代政治理論」単位修得者は履修不可
5	政経	日本政治思想史 01	2 年以上	4	政治思想・政治史	
6	政経	比較憲法論 01	2 年以上	2	政治思想・政治史	
7	政経	自治体政策 01	2 年以上	2	公共政策	
8	政経	国際機構論 01	2 年以上	2	国際関係	2018 年度以前「国際機構論」「国際機構論 I」いずれかの単位修得者は履修不可
9	政経	西欧諸国の比較政治 01	2 年以上	2	比較政治	
10	政経	福祉行政 01	2 年以上	2	公共政策	
11	政経	日本外交論 01	2 年以上	2	国際関係	
12	政経	比較政治経済分析 01	2 年以上	2	現代政治	
13	政経	国際政治経済学 01	2 年以上	2	国際関係	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

設置概要

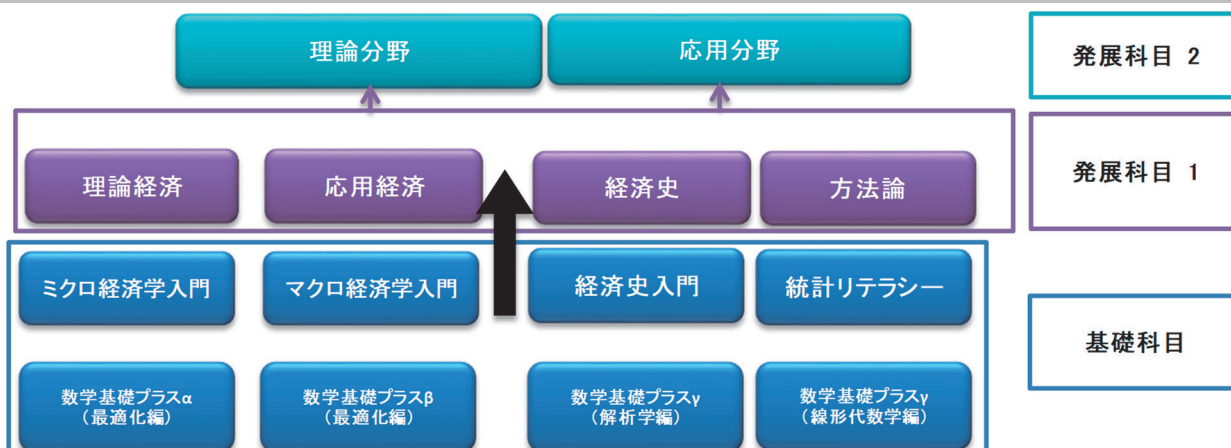
経済学を学ぶには、経済現象を多面的に理解するために基礎知識が必要である。これを提供するのが基礎科目であり、それにはミクロ経済学入門【必修】、マクロ経済学入門【必修】、経済史、統計リテラシー α 、数学基礎プラス α （最適化編）【選択必修】、数学基礎プラス β （最適化編）【選択必修】、数学基礎プラス γ （解析学編）【選択必修】、数学基礎プラス γ （線形代数学編）が含まれる。

基礎知識を獲得した上で取り組むのが、現在の経済現象の個別的な学問的知見を網羅する科目である。これが発展科目である。発展科目1は、理論経済（ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、ゲーム理論入門）、応用経済（財政学）、経済史（日本経済史、グローバル経済史、経済学史）、方法論（統計リテラシー β ）から構成される。発展科目2は、経済学で現在もっとも注目されている個別的な研究領域であり、それには理論分野（ゲーム理論、計量経済学）、応用分野（産業組織論、環境経済学、医療経済学）が含まれている。

到達点（学習成果）

理論モデルに基づいて経済現象を考察する思考力を養うことが期待できる。理論モデルを実際の問題に適用するには、種々の現象を整理し、ありうる因果関係を仮定した上で、その仮定のもとでどのような結論が得られるのかを注意深く考察する必要がある。対象が人間集団であることから、当該集団がどのような歴史を経て現在にいたったかも、理論モデル適用のために考慮しなければならない。そのように、理論的・歴史的な視点から社会現象を考察できるようになることが期待される。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

履修学生には、①ミクロ経済学入門、②マクロ経済学入門、③経済史入門、④統計リテラシー α という基礎科目をすべて履修することを薦める。それぞれが経済学を理解するために必要な基礎知識を提供する。ただし、③と④は内容において異なる。③の経済史入門は、経済現象や経済学の発展の歴史的知見を習得する科目であり、④の統計リテラシー α は、経済現象を学生自身で分析するための統計・数量分析の方法を習得する科目である。学生個人の選好にしたがい、いずれか一方を集中的に習得することも可能であるものの、経済学の理解のためにはいずれの方法の理解も必要である。また、統計リテラシー β は、環境経済学や計量経済学の学習に必要である。さらに、発展科目2には、理論・応用両面において高度な知識が必要とされる。経済学科目の中でも難しい部類に属するので、十分な準備をしてから履修することを勧める。

指定科目一覧

修了必要単位

22 単位（基礎科目：8 単位、発展科目 1：8 単位、発展科目 2：6 単位）以上

注意事項

政治経済学部生は「経済学」副専攻を修了できません

★基礎科目

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	経済史入門 A 01	1 年以上	2	
2	政経	経済史入門 A 02	1 年以上	2	
3	政経	経済史入門 B 01	1 年以上	2	
4	政経	経済史入門 B 02	1 年以上	2	
5	政経	ミクロ経済学入門 01	1 年以上	2	
6	政経	ミクロ経済学入門 02	1 年以上	2	いずれか 1 科目を履修必須／自学部優先科目
7	政経	マクロ経済学入門 01	1 年以上	2	
8	政経	マクロ経済学入門 02	1 年以上	2	いずれか 1 科目を履修必須／自学部優先科目
9	グローバル	数学基礎プラスα（最適化編） 01	1 年以上	1	
10	グローバル	数学基礎プラスα（最適化編） 02	1 年以上	1	
11	グローバル	数学基礎プラスα（最適化編） 03	1 年以上	1	
12	グローバル	数学基礎プラスβ（最適化編） 01	1 年以上	1	
13	グローバル	数学基礎プラスβ（最適化編） 02	1 年以上	1	
14	グローバル	数学基礎プラスβ（最適化編） 03	1 年以上	1	
15	グローバル	数学基礎プラスγ（解析学編） 01	1 年以上	1	「数学基礎プラスα（最適化編）」「数学基礎プラスβ（最適化編）」「数学基礎プラスγ（解析学編）」のうち 2 科目分を履修必須
16	グローバル	数学基礎プラスγ（解析学編） 02	1 年以上	1	
17	グローバル	数学基礎プラスγ（解析学編） 03	1 年以上	1	
18	グローバル	数学基礎プラスγ（線形代数学編） 01	1 年以上	1	
19	グローバル	統計リテラシーα 01	1 年以上	1	
20	グローバル	統計リテラシーα 02	1 年以上	1	
21	グローバル	統計リテラシーα 03	1 年以上	1	
22	グローバル	統計リテラシーα 04	1 年以上	1	
23	グローバル	統計リテラシーα（商学部） 01	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
24	グローバル	統計リテラシーα（商学部） 02	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
25	グローバル	統計リテラシーα（商学部） 03	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
26	グローバル	統計リテラシーα（商学部） 04	1 年以上	1	商学部生のみ履修可

★発展科目 1

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	ミクロ経済学 I 01	2 年以上	2	
2	政経	ミクロ経済学 I 02	2 年以上	2	自学部優先科目／ 2023 年度以前「ミクロ経済学 A」の単位修得者は履修不可
3	政経	ミクロ経済学 I 03	2 年以上	2	
4	政経	マクロ経済学 I 01	2 年以上	2	
5	政経	マクロ経済学 I 02	2 年以上	2	自学部優先科目／ 2023 年度以前「マクロ経済学 A」の単位修得者は履修不可
6	政経	マクロ経済学 I 03	2 年以上	2	
7	政経	経済学史 I 01	2 年以上	2	
8	政経	日本経済史 01	2 年以上	4	
9	政経	グローバル経済史 01	2 年以上	4	2022 年度以前「西洋経済史」「アジア経済史」単位修得者は履修不可
10	政経	財政学 A 01	2 年以上	2	2022 年度以前「財政学」単位修得者は履修不可
11	政経	財政学 B 01	2 年以上	2	2022 年度以前「財政学」単位修得者は履修不可
12	政経	ゲーム理論入門 01	1 年以上	2	
13	政経	ゲーム理論入門 02	1 年以上	2	
14	政経	ゲーム理論入門 03	1 年以上	2	
15	グローバル	統計リテラシーβ 01	1 年以上	1	
16	グローバル	統計リテラシーβ 02	1 年以上	1	
17	グローバル	統計リテラシーβ 03	1 年以上	1	
18	グローバル	統計リテラシーβ 04	1 年以上	1	
19	グローバル	統計リテラシーβ（商学部） 01	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
20	グローバル	統計リテラシーβ（商学部） 02	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
21	グローバル	統計リテラシーβ（商学部） 03	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
22	グローバル	統計リテラシーβ（商学部） 04	1 年以上	1	商学部生のみ履修可

★発展科目 2

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	計量経済学 I 01	2 年以上	2	2022 年度以前「計量経済学」の単位修得者は履修不可
2	政経	計量経済学 II 01	2 年以上	2	2022 年度以前「計量経済学」の単位修得者は履修不可
3	政経	産業組織論 01	2 年以上	2	
4	政経	ゲーム理論 01	2 年以上	4	
5	政経	環境経済学 01	3 年以上	2	
6	政経	医療経済学 01	3 年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（基礎科目：6 単位、発展科目 1：6 単位、発展科目 2：4 単位）以上

注意事項

法学部生は「人権と法」副専攻を修了できません

本副専攻の修了を目指さない他学部学生は、指定科目を履修しないこと

★基礎科目

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	総合講座「法批判への招待」	1 年以上	2	
2	法学	西洋史Ⅰ A（竹下）	1 年以上	2	
3	法学	ジェンダー論Ⅰ A（弓削）	1 年以上	2	
4	法学	憲法Ⅰ A	1 年以上	2	
5	法学	憲法Ⅰ B	1 年以上	2	
6	法学	憲法Ⅰ C	1 年以上	2	
7	法学	憲法Ⅱ A	1 年以上	2	
8	法学	憲法Ⅱ B	1 年以上	2	
9	法学	憲法Ⅱ C	1 年以上	2	

★発展科目 1

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	外国法総論（英米法Ⅱ） A	2 年以上	2	
2	法学	比較憲法Ⅰ	3 年以上	2	
3	法学	比較憲法Ⅱ	3 年以上	2	
4	法学	憲法特論Ⅰ（総論・統治）	2 年以上	2	
5	法学	憲法特論Ⅱ（人権）	2 年以上	2	
6	法学	教育法Ⅰ	2 年以上	2	
7	法学	教育法Ⅱ	2 年以上	2	

★発展科目 2

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	ジェンダーと法Ⅰ	3 年以上	2	
2	法学	ジェンダーと法Ⅱ	3 年以上	2	
3	法学	雇用関係法Ⅰ	3 年以上	2	
4	法学	雇用関係法Ⅱ	3 年以上	2	
5	法学	社会保障法Ⅰ	3 年以上	2	
6	法学	社会保障法Ⅱ	3 年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

履修を希望する学生へのメッセージ

他学部の皆さんの中には、法律という専門科目は、自分の専攻分野とは全く関係のないものだと考えている方もおられるかもしれません。まずは是非、皆さん自身の専攻分野の知識を活かしつつ、共通点・類似点・相違点は何であろうかと、想像力を働かせながら学んでみてください。一見するとかけ離れているように見えても存外繋がっていたりするものです。それは、法律は人間が人間のために定めた法（これを実定法と言います）であり、皆さんの専攻分野も、つまるところ何らかの形で人間の営みに関するものだからです。さすがに理系の分野は違うのではないかという声が聞こえてきそうですが、法律学が優れて論理的な学問だというのは耳にしたことがあるでしょう。また、科学技術の急速な発展が、法の役割を益々拡大させているというのも事実です。皆さん自身の主専攻分野と有機的に関連させることで、思いがけない相乗効果が生まれることを、我々は密かに期待しています。

アジアの歴史と伝統文化

History and Traditional Cultures of Asia

文学学術院提供副専攻

設置概要

アジアの歴史と伝統文化では、中国を中心として、朝鮮半島、さらには周辺地域も含めた「東アジア地域」の歴史と文化を専門的に学習します。

中国や朝鮮半島を中心とする東アジアと日本とのかかわりは、ますますその重要性を高めています。アジアの歴史と伝統文化では、史料にもとづいて歴史的に物事を見る眼を養い、日本と東アジア世界との間に現実に起こっていることを正しく把握し、考える力を持った学生を育てることを目指しています。中国・朝鮮の古代史においては、これまでに伝わる文献史料のほかに新たに出土した木簡・竹簡・石碑などの文字資料を組み合わせ、考古学的な視点をも導入した新領域の開拓に力を注いでいます。指定科目に設置されている「フィールド歴史学」がそれにあたります。

後期伝統中国史（前近代史）においては、東アジア全体を視野に入れ、社会史・文化史など多様な観点を取り入れて新しい歴史像を追究します。辛亥革命後の中国やアジア地域の近現代史をも考察の対象としています。他方、朝鮮史では、中国大陆や日本列島との関連を重視した東アジア史における展開とその位置づけに注目します。

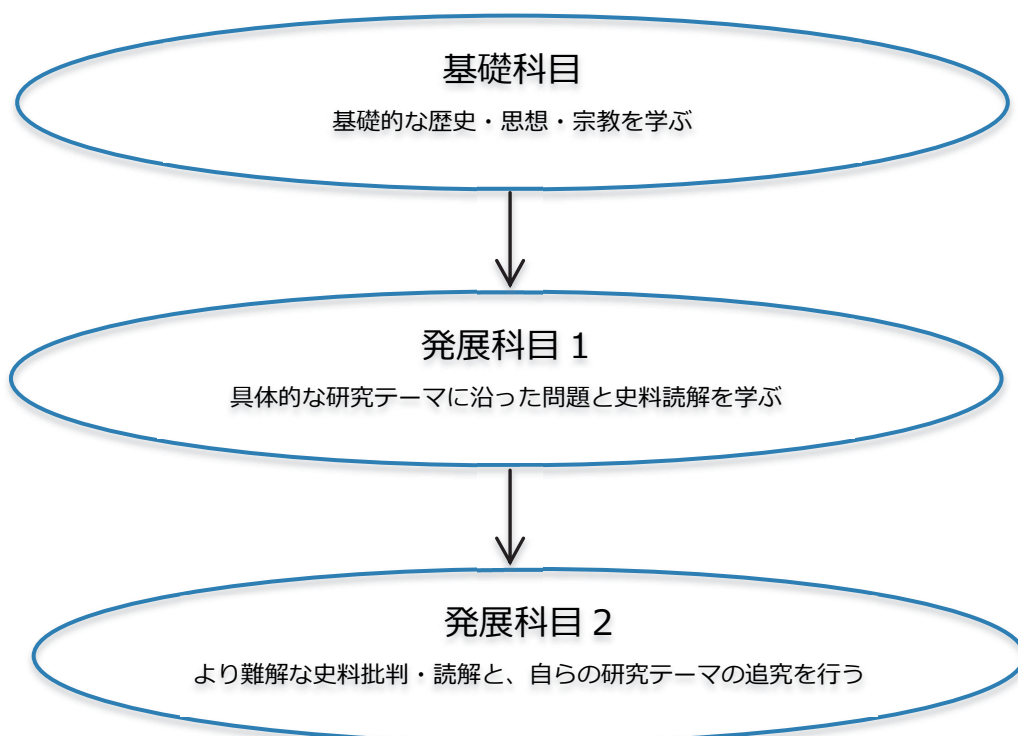
アジアの歴史と伝統文化では、これまで新しいアジア学の創生や資料のデジタル化などのプロジェクトを通じ、新たな歴史学の構築に向けて積極的に取り組んできました。アジアの歴史と伝統文化のカリキュラムには、上記のような基本方針を踏まえつつ、そうした学術成果が最大限に盛り込まれています。さらに長い伝統を有する東洋史学の蓄積を反映させ、東アジアの歴史を風土や地理とのかかわりから構造的・立体的に捉えることができる構成となっています。

到達点（学習成果）

中国や朝鮮半島を中心とする東アジアと日本とのかかわりは、ますますその重要性を高めています。本副専攻は、史料にもとづいて歴史的に物事を見る眼を養い、日本と東アジア世界との間に現実に起こっていることを正しく把握し、考える力を持った学生を育てることを目指しています。中国・朝鮮の歴史研究においては、これまでに伝わる文献史料のほかに新たに出土した木簡・竹簡・石碑などの文字資料を組み合わせ、考古学的な視点をも導入した新領域の開拓に力を注いでいます。一例として、「フィールド歴史学」がそれにあたります。

後期伝統中国史（前近代史）においては、東アジア全体を視野に入れ、社会史・文化史など多様な観点を取り入れて新しい歴史像を追究します。辛亥革命後の中国やアジア地域の近現代史をも考察の対象としています。他方、朝鮮史では、中国大陆や日本列島との関連を重視した東アジア史における展開とその位置づけに注目します。

カリキュラムマップ



指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（基礎科目：8 単位、発展科目 1：4 単位、発展科目 2：4 単位）以上

注意事項

2017 年度以降文化構想学部・文学部入学生は、文化構想学部・文学部副専攻（「アジアの歴史と伝統文化」）を履修してください。

2016 年度以前文化構想学部・文学部入学生（2017 年度入学の転部入学者、2017 年度・2018 年度入学の学士入学者を含む）は、本副専攻（GEC 設置）を履修してください。

再入学者は、2016 年度以前要項適用の場合は本副専攻（GEC 設置）を履修し、2017 年度以降要項適用の場合は文化構想学部・文学部副専攻を履修してください。要項適用年度について不明な場合は、文学学術院事務所までお問い合わせください。

★基礎科目

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	地域文化研究（東アジア） 01	2 年以上	2	
2	社会学	漢字文化圏論 1	1 年以上	2	
3	社会学	漢字文化圏論 2	1 年以上	2	
4	文	仏教概論	2 年以上	2	
5	文	儒教概論	2 年以上	2	
6	文	道教概論	2 年以上	2	
7	文	アジア史概論 1	2 年以上	2	自学部優先科目
8	文	アジア史概論 2	2 年以上	2	自学部優先科目
9	文	サブカルでよむ東洋史入門	1 年以上	2	
10	文	アジア考古学交流	2 年以上	2	
11	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（入門） 1	1 年以上	1	
12	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（入門） 2	1 年以上	1	
13	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（応用） 1	1 年以上	1	
14	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（応用） 2	1 年以上	1	

★発展科目 1

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	文構	アジア地域社会論	2 年以上	2	自学部優先科目
2	文	フィールド歴史学（東アジア）	2 年以上	2	自学部優先科目
3	文	朝鮮近現代史	2 年以上	2	自学部優先科目
4	文	東南アジア史	2 年以上	2	自学部優先科目

★発展科目 2

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	文	アジア史特殊講義 1（中国古代史）	2 年以上	2	自学部優先科目
2	文	アジア史特殊講義 2（朝鮮前近代史）	2 年以上	2	自学部優先科目
3	文	アジア史特殊講義 3（中国前近代史）	2 年以上	2	自学部優先科目
4	文	アジア史特殊講義 4（東アジア近現代史）	2 年以上	2	自学部優先科目

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

履修を希望する学生へのメッセージ

東アジア地域に横たわるさまざまな問題について、それがなぜ起こったのかという問題意識を持ってアジアの歴史と伝統文化を学んでください。歴史学は、過去と現在をつなぐ非常に面白い学問です。単に過去の失われたものをいつくしむのが歴史学ではありません。また、過去の止まった一点だけをじっと見る学問でもありません。われわれが目指すのは、過去が現在にどう結びつくのか、その接点を見出し、それを現代の問題を理解し、解決するための糧とする学問です。たとえば、前近代の史料に記されていることが、実は脈々と現在にまで受け継がれている、それを知ること、現今の問題を立体的に捉えることができるのです。

日本と中国や朝鮮半島との間で現在起こっている問題についても、単純に、感情的に見ているだけでは偏狭なナショナリズムしか生み出しません。また、中国・台湾や韓国といった、東アジア地域の諸国家の現状を理解し、自らの考えをもってそれらの将来的な動向を捉えてゆくためには、歴史的な分析能力が不可欠です。歴史学を通して、物事を複合的な視点から解釈する方法を学びましょう。

また、本副専攻の母体であるアジア史コースでは、これまで新しいアジア学の創生や資料のデジタル化などのプロジェクトを通じ、新たな歴史学の構築に向けて積極的に取り組んできました。本副専攻のカリキュラムには、上記のような基本方針を踏まえつつ、そうした学術成果が最大限に盛り込まれています。さらに長い伝統を有する東洋史学の蓄積を反映させ、東アジアの歴史を風土や地理とのかかわりから構造的・立体的に捉えることができる構成となっています。

東洋の思想と宗教

Thought and Religion of Asia

文学学院提供副専攻

設置概要

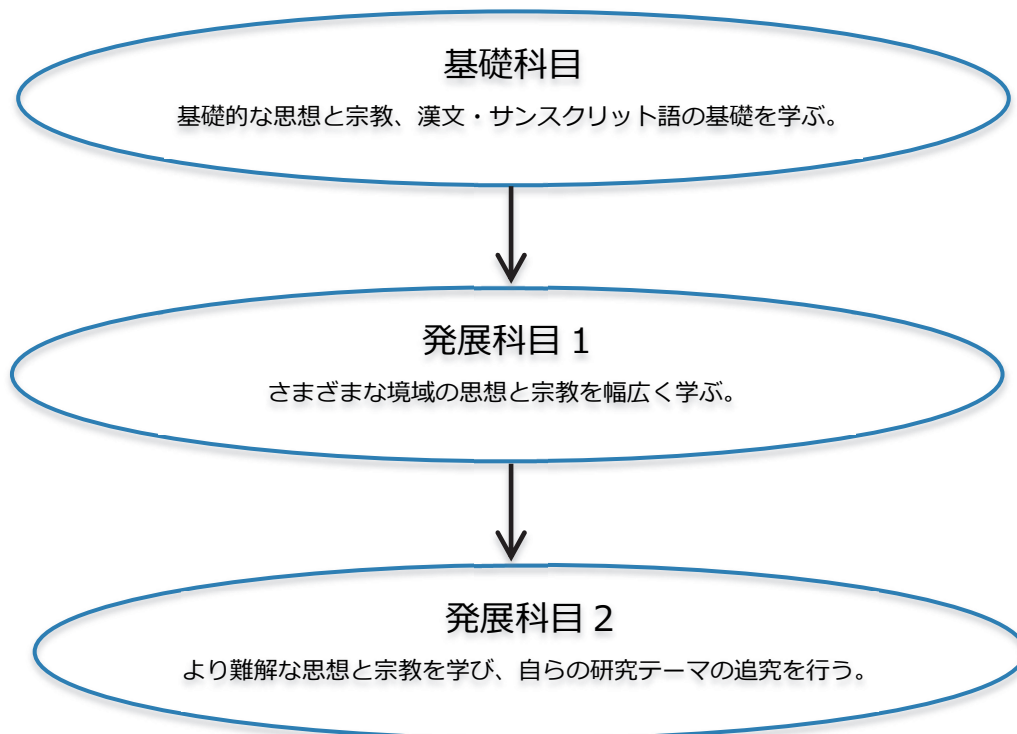
「東洋の思想と宗教」副専攻では、中国・インド・日本という三国を中心とした思想と宗教を広く体系的に学習します。その中心となるものは、中国です。「三国志」や「キングダム」でおなじみの中国古代の歴史も、中国古典の理解に基づいて成立しています。本副専攻では、そうした古典中国の基本となっている中国古典、中国思想が古代から中世（朱子学）へと展開する契機となった仏教、その故郷であるインドとそれが展開した日本の思想と宗教を正しく理解し、考える力を持った学生を育てることを目指しています。

思想と宗教の研究は、資料の解説が必須となります。本副専攻が対象とする領域の関係資料は、漢文、サンスクリット語が中心となります。本副専攻は、東洋の多くの地域に関し、もっとも豊富に資料を残している漢文テキストを主として、資料講読を訓練します。もちろん、インドを深く勉強したい場合には、サンスクリット語の習得が必要となります。資料を講読していく訓練は、思想と宗教を理解していくための修練となります。その結果、体得した読解力によって、各自の個別研究を深め、それによって新しい世界をひらいて行くことを、本副専攻の教育方針としています。

到達点（学習成果）

本副専攻は、中国・インド・日本における思想と宗教について、広い知識と深い洞察力を涵養することを目標とします。それをさらなる高みに導くためには、資料の読解力が必要となりますが、その基本を身につけることも目標としています。

カリキュラムマップ



指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（基礎科目：6 単位、発展科目 1：6 単位、発展科目 2：4 単位）以上

注意事項

2017 年度以降文化構想学部・文学部入学生は、文化構想学部・文学部副専攻（「東洋哲学」）を履修してください。

2016 年度以前文化構想学部・文学部入学生（2017 年度入学の転部入学者、2017 年度・2018 年度入学の学士入学者を含む）は、本副専攻（GEC 設置）を履修してください。

再入学者は、2016 年度以前要項適用の場合は本副専攻（GEC 設置）を履修し、2017 年度以降要項適用の場合は文化構想学部・文学部副専攻副専攻を履修してください。要項適用年度について不明な場合は、文学学術院事務局までお問い合わせください。

★基礎科目

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	文構	チベット文化論	1 年以上	2	
2	文構	神道概論	1 年以上	2	
3	文	サンスクリットの世界 1	1 年以上	2	
4	文	サンスクリットの世界 2	1 年以上	2	
5	文	漢文講読 1	1 年以上	2	
6	文	漢文講読 2	1 年以上	2	

★発展科目 1

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	東洋思想 01	1 年以上	2	
2	国際教養	APM- The Analects of Confucius: a Seminar of Close Reading (in Chinese) 01	3 年以上	2	
3	文	インド思想史	2 年以上	2	
4	文	中国思想の世界	2 年以上	2	
5	文	仏教漢文の世界	2 年以上	2	
6	文	仏教概論	2 年以上	2	
7	文	儒教概論	2 年以上	2	
8	文	道教概論	2 年以上	2	
9	文	日本思想概論	2 年以上	2	
10	文	日本中世思想	2 年以上	2	
11	文	日本近世思想	2 年以上	2	

★発展科目 2

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	文	インド哲学特論	2 年以上	2	自学部優先科目
2	文	中国哲学特論	2 年以上	2	自学部優先科目
3	文	日本思想特論	2 年以上	2	自学部優先科目
4	文	東洋思想特論	2 年以上	2	自学部優先科目

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

履修を希望する学生へのメッセージ

中国・インド・日本における思想と宗教について、幅広く学んでいきます。入り口は、「キングダム」や「三国志」への興味で大丈夫です。そうした関心を元に知識を得て、さらなる展開を目指せば、漢文やサンスクリットの基礎を学ぶこともできます。東洋思想は今や世界の思想でもあり、海外の人々も多く勉学にいらしています。また、日本を理解するためにも、東洋の思想と宗教を知ることが不可欠です。国際人として東洋の思想と宗教を履修してみませんか。

設置概要

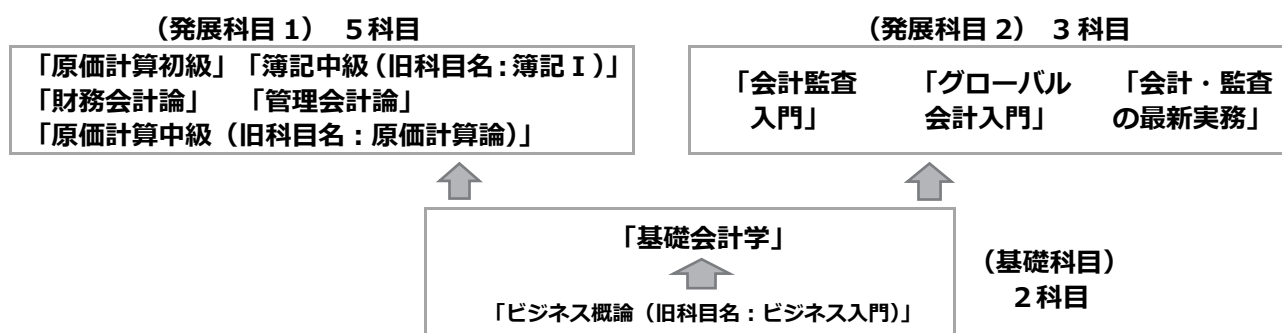
会計は、しばしば「ビジネスの言語」といわれる。これは、会計が企業と外部世界、すなわち利害関係者（株主、債権者、徴税当局など）とを繋げる必須の情報であり、また企業経営の場面においても経済活動の実態を理解するうえで欠かせない知識を提供するからに他ならない。いうまでもなく、本学の学生の多くは卒業後企業に就職する。このことを考えれば、自らの専門分野とは別に、会計に関する基本的なものの見方・考え方を身につけ、複眼的な視点を養うことが社会的にも要請されるであろうし、商学部はこれを支援できる環境を提供することができる学部であるといえる。事実、商学部はこれまでも、政治経済学部および法学部との合併科目として「基礎会計学」を設置してきたが、両学部においては公認会計士試験を意識した優秀な学生が多数存在する。今後、学術的副専攻という形でさらに体制を拡大・発展させることにより、そうした学生のニーズに幅広く応えられる環境を整備することができる。さらに、商学部にあつては会計研究科との連携も可能であることから、発展科目2により実践的な内容を有する科目も加えている。

到達点（学習成果）

副専攻「会計学」の修了要件を充たした学生は、社会における会計の役割とその貢献に関する体系的な理解が得られるとともに、簿記に限らずこれを活用するための基本的および実践的な技術に関しても相応の学習効果が見込まれる。具体的には、その想定される学習効果は、商学部内の会計トラックに所属する学生と比べても決して見劣りしないレベルとなることを想定している。正直なところ、公認会計士試験を受験するために必要とされる高度な知識の習得を期待できるレベルには及ばないものの、当該試験の受験に対する動機付けおよび今後の進路決定には大いに役立つものとなるにちがいない。この点に関しては、中小企業診断士や税理士試験に関しても同様である。

カリキュラムマップ

- ・基礎科目として「ビジネス概論 1（旧科目名：ビジネス入門 1）」と「基礎会計学」を置き、副専攻の必修科目とする。
- ・「ビジネス概論 1（旧科目名：ビジネス入門 1）」を履修し A 評価以上を修得した者は、全学副専攻の対象科目として「基礎会計学 10」の履修申請を可能とする。
- ・「ビジネス概論 1（旧科目名：ビジネス入門 1）」を履修し A 評価以上を修得し、かつ「基礎会計学」を履修し A 評価以上を修得した者は、全学副専攻の対象科目として「発展科目 1」および「発展科目 2」の履修申請を可能とする。



履修を希望する学生へのメッセージ

会計について深く知ることは、経済社会の動きをリアルタイムで把握し、的確な行動を選択することにつながる。会計は俗に「ビジネスの言語」と称されるが、同時に世界共通のグローバルな言語でもあることを知ってもらいたい。すなわち、世界経済を動かす人々は異なる言語を用いていても、彼らの行動やビジネスの在り方を律するルールは共通している。会計はまさにそうしたルールを代表する存在といえるであろう。社会の中には会計という仕組みがあり、これを通じて生み出された情報によって世界は動いているのである。外国語を学ぶことだけが世界につながる道では決してない。世界経済を動かしている共通な枠組みを学習し、これを理解することによってこそ、世界で活躍できるグローバルな人材が育つと考える。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（基礎科目：6 単位 発展科目 1：8 単位 発展科目 2：2 単位）以上

注意事項

商学部生は「会計学」副専攻を修了できません。

★基礎科目

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	基礎会計学 01	1 年以上	4	・「基礎会計学」は基礎科目 No.1～4 のうちからいずれか 1 科目を履修必須
2	政経	基礎会計学 02	1 年以上	4	・政治経済学部生のみ履修可
3	法学	基礎会計学（河内山）	1 年以上	4	・「基礎会計学」は基礎科目 No.1～4 のうちからいずれか 1 科目を履修必須 ・法学部生のみ履修可
4	商学	基礎会計学 10	1 年以上	4	・「基礎会計学」は基礎科目 No.1～4 のうちからいずれか 1 科目を履修必須 ・「基礎会計学 10」の履修には特別な条件がありますので、科目登録の際には十分注意してください。 【条件】 「ビジネス概論 1（旧科目名：ビジネス入門 1）」で A 評価以上を修得していること。 【科目登録方法】 各所属学部の一斉登録期間中に、Web 科目登録を行い、かつ上記の履修条件を満たしている旨を商学部事務所に申請してください（成績証明書は不要です）。申請方法は商学部 Web ページ/科目登録に掲載します。 (https://www.waseda.jp/fcom/soc/students/registration)
5	商学	ビジネス概論 1	1 年以上	2	履修必須（旧科目名：ビジネス入門 1）

★発展科目 1

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	商学	簿記中級 1	2 年以上	4	
2	商学	簿記中級 2	2 年以上	4	
3	商学	財務会計論 1	2 年以上	4	・「原価計算初級」は「原価計算中級（旧科目名：原価計算論）」の合格者は履修不可
4	商学	財務会計論 2	2 年以上	4	
5	商学	財務会計論 3	2 年以上	4	・「発展科目 1」のすべての科目の履修には特別な条件がありますので、科目登録の際には十分注意してください。
6	商学	管理会計論 1	2 年以上	4	
7	商学	管理会計論 2	2 年以上	4	
8	商学	管理会計論 3	2 年以上	4	【条件】 「ビジネス概論 1（旧科目名：ビジネス入門 1）」 「基礎会計学」で A 評価以上を修得していること。
9	商学	原価計算初級 1	1 年以上	2	
10	商学	原価計算初級 2	1 年以上	2	【科目登録方法】
11	商学	原価計算初級 3	1 年以上	2	各所属学部の一斉登録期間中に、Web 科目登録を行い、かつ上記の履修条件を満たしている旨を商学部事務所に申請してください（成績証明書が必要な場合があります）。
12	商学	原価計算初級 4	1 年以上	2	申請方法は商学部 Web ページ/科目登録に掲載します。
13	商学	原価計算中級 1	2 年以上	4	(https://www.waseda.jp/fcom/soc/students/registration)
14	商学	原価計算中級 2	2 年以上	4	
15	商学	原価計算中級 3	2 年以上	4	

★発展科目 2

修了必要単位：2 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	商学	グローバル会計入門 1	3 年以上	2	・「グローバル会計入門 1」「会計・監査の最新実務 1」の履修には特別な条件がありますので、科目登録の際には十分注意してください。 【条件】 「ビジネス概論 1（旧科目名：ビジネス入門 1）」 「基礎会計学」で A 評価以上を修得していること。
2	商学	会計・監査の最新実務 1	3 年以上	2	【科目登録方法】 各所属学部の一斉登録期間中に、Web 科目登録を行い、かつ上記の履修条件を満たしている旨を商学部事務所に申請してください（成績証明書が必要な場合があります）。申請方法は商学部 Web ページ/科目登録に掲載します。 (https://www.waseda.jp/fcom/soc/students/registration)
3	グローバル	会計監査入門	3 年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

ソフトウェア学

Software Study

理工学術院・グローバル・エデュケーション・センター共同提供副専攻

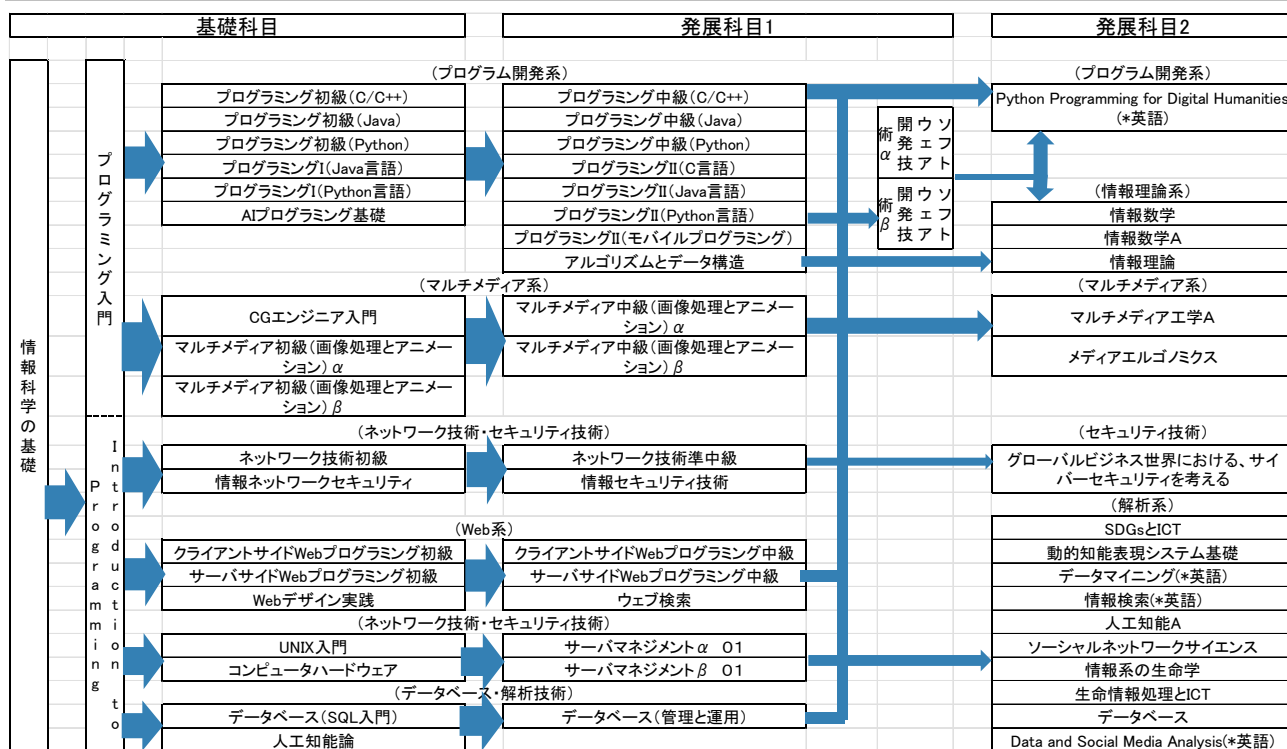
設置概要

ソフトウェア学は、様々なプログラミング言語を用いて「目的に応じたプログラムを構築できる能力」と「応用力」を身につけることを目的とした学術的副専攻である。本副専攻では、論理的思考力はもとより、ソフトウェア構築において必要となる、要件定義、設計、コーディング、テスト、運用といったソフトウェアのライフサイクルを総合的に学ぶ。特徴は、グローバル・エデュケーション・センターが提供する初級・中級の基盤科目に加え、学術院が提供する応用科目をセットで履修できる点にある。履修者はグローバル・エデュケーション・センターの科目でソフトウェア学の基礎を、学術院提供科目にてその応用を学ぶことができ、プログラミングの知識やスキルの修得に留まらず、総合的にソフトウェア学を学ぶことができる。

到達点（学習成果）

本副専攻（ソフトウェア学）では修了要件を満たした学生の到達点として、国家試験である「基本情報技術者試験」午後の試験に合格可能なレベルと同等な能力を持つことを想定している。そのため、本副専攻の履修者には是非、上記国家試験にチャレンジしていただきたい。将来システムエンジニアを目指す諸君は本レベルに達することが必須と考える。また社会における昨今のプログラミングスキルの重要性を勘案すると、本副専攻の内容はシステムエンジニアを目指すない諸君にとっても大いに役立つものと確信している。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

プログラミングスキルは、人文社会系、理工系を問わず、社会のあらゆる場面で必要とされる基礎能力の一つとなっている。身近な例では、各種業務におけるオフィスワークでのちょっとしたプログラムから、Webページ構築、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）、AI（人工知能）等、様々な場面でプログラミングが必要とされている。今やプログラムを内包しないWebページは皆無と言ってもよく、また、様々な業務プロセスを自動化するRPAは、破壊的技術として注目されている。このRPAのブレインであるAIを使う上でもプログラミングは必要不可欠となっている。本副専攻は、グローバル・エデュケーション・センターが提供する初級・中級の科目（基盤科目、発展科目1）と学術院が提供する応用科目（発展科目2）から構成されている。まず、グローバル・エデュケーション・センター提供の科目で学んだ後、自身が応用を目指す分野の科目を学術院提供科目の中から履修し、単にプログラミングに留まらないソフトウェア学（ソフトウェアのライフサイクル）を身につけてほしい。そして、この副専攻を通じてシステムエンジニアを目指す諸君のみならず、多くの学生諸君にソフトウェア学を一般教養の一つとして身につけてほしい。

指定科目一覧

修了必要単位

24 単位（基礎科目：12 単位、発展科目 1：8 単位、発展科目 2：4 単位）以上

★基礎科目

修了必要単位：12 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	人科	人工知能論	1年以上	2	
2	人科	コンピュータハードウェア	1年以上	2	
3	人科	プログラミング I (Java 言語)	1年以上	2	
4	人科	プログラミング I (Python 言語) 01	1年以上	2	
5	人科	プログラミング I (Python 言語) 02	1年以上	2	
6	人科	プログラミング I (Python 言語) 03	1年以上	2	
7	人科	プログラミング I (Perl 言語)	1年以上	2	
8	グローバル	情報科学の基礎 01	1年以上	2	
9	グローバル	情報科学の基礎 02	1年以上	2	
10	グローバル	情報科学の基礎 03	1年以上	2	
11	グローバル	情報科学の基礎 04	1年以上	2	
12	グローバル	プログラミング入門 01	1年以上	1	
13	グローバル	プログラミング入門 02	1年以上	1	
14	グローバル	プログラミング入門 03	1年以上	1	
15	グローバル	プログラミング入門 04	1年以上	1	
16	グローバル	Introduction to Programming 01	1年以上	1	
17	グローバル	Introduction to Programming 02	1年以上	1	
18	グローバル	Introduction to Programming 03	1年以上	1	
19	グローバル	Introduction to Programming 04	1年以上	1	
20	グローバル	プログラミング初級 (C/C++) 01	1年以上	2	
21	グローバル	プログラミング初級 (C/C++) 02	1年以上	2	
22	グローバル	プログラミング初級 (C/C++) 03	1年以上	2	
23	グローバル	プログラミング初級 (C/C++) 04	1年以上	2	
24	グローバル	プログラミング初級 (Java) 01	1年以上	2	
25	グローバル	プログラミング初級 (Java) 02	1年以上	2	
26	グローバル	プログラミング初級 (Java) 03	1年以上	2	
27	グローバル	プログラミング初級 (Java) 04	1年以上	2	
28	グローバル	UNIX 入門 01	1年以上	2	
29	グローバル	UNIX 入門 02	1年以上	2	
30	グローバル	ネットワーク技術初級 01	1年以上	2	
31	グローバル	ネットワーク技術初級 02	1年以上	2	
32	グローバル	ネットワーク技術初級 03	1年以上	2	
33	グローバル	情報ネットワークセキュリティ 01	1年以上	2	
34	グローバル	情報ネットワークセキュリティ 02	1年以上	2	
35	グローバル	サーバサイド Web プログラミング初級 01	1年以上	2	
36	グローバル	サーバサイド Web プログラミング初級 02	1年以上	2	
37	グローバル	サーバサイド Web プログラミング初級 03	1年以上	2	
38	グローバル	サーバサイド Web プログラミング初級 04	1年以上	2	
39	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング初級 01	1年以上	2	
40	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング初級 02	1年以上	2	
41	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング初級 03	1年以上	2	
42	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング初級 04	1年以上	2	
43	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング初級 05	1年以上	2	
44	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング初級 06	1年以上	2	
45	グローバル	CG エンジニア入門 01	1年以上	2	
46	グローバル	マルチメディア初級 (画像処理とアニメーション) α 01	1年以上	1	
47	グローバル	マルチメディア初級 (画像処理とアニメーション) α 02	1年以上	1	
48	グローバル	マルチメディア初級 (画像処理とアニメーション) β 01	1年以上	1	
49	グローバル	マルチメディア初級 (画像処理とアニメーション) β 02	1年以上	1	
50	グローバル	Web デザイン実践 01	1年以上	2	
51	グローバル	Web デザイン実践 02	1年以上	2	
52	グローバル	Web デザイン実践 03	1年以上	2	
53	グローバル	Web デザイン実践 04	1年以上	2	
54	グローバル	Web デザイン実践 05	1年以上	2	
55	グローバル	Web デザイン実践 06	1年以上	2	
56	グローバル	データベース (SQL 入門) 01	1年以上	2	
57	グローバル	データベース (SQL 入門) 02	1年以上	2	
58	グローバル	データベース (SQL 入門) 03	1年以上	2	
59	グローバル	プログラミング初級 (Python) 01	1年以上	2	
60	グローバル	プログラミング初級 (Python) 02	1年以上	2	
61	グローバル	プログラミング初級 (Python) 03	1年以上	2	
62	グローバル	プログラミング初級 (Python) 04	1年以上	2	
63	グローバル	プログラミング初級 (Python) 05	1年以上	2	
64	グローバル	プログラミング初級 (Python) 06	1年以上	2	
65	グローバル	プログラミング初級 (Python) 07	1年以上	2	
66	グローバル	プログラミング初級 (Python) 08	1年以上	2	
67	グローバル	AI プログラミング基礎 01	1年以上	2	
68	グローバル	AI プログラミング基礎 02	1年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

★発展科目 1

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	人科	アルゴリズムとデータ構造	1年以上	2	
2	人科	プログラミングⅡ (Java 言語)	1年以上	2	
3	人科	プログラミングⅡ (C 言語)	1年以上	2	
4	人科	プログラミングⅡ (モバイルプログラミング)	1年以上	2	
5	人科	プログラミングⅡ (Python 言語)	1年以上	2	
6	人科	ウェブ検索	1年以上	2	
7	グローバル	ネットワーク技術準中級 01	1年以上	2	
8	グローバル	ネットワーク技術準中級 02	1年以上	2	
9	グローバル	情報セキュリティ技術 01	1年以上	2	
10	グローバル	情報セキュリティ技術 02	1年以上	2	
11	グローバル	サーバマネジメントα 01	1年以上	1	
12	グローバル	サーバマネジメントα 02	1年以上	1	
13	グローバル	サーバマネジメントβ 01	1年以上	1	
14	グローバル	サーバマネジメントβ 02	1年以上	1	
15	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 01	1年以上	2	
16	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 02	1年以上	2	
17	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 03	1年以上	2	
18	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 04	1年以上	2	
19	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 05	1年以上	2	
20	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 06	1年以上	2	
21	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 07	1年以上	2	
22	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 08	1年以上	2	
23	グローバル	プログラミング中級 (Java) 01	1年以上	2	
24	グローバル	プログラミング中級 (Java) 02	1年以上	2	
25	グローバル	プログラミング中級 (Java) 03	1年以上	2	
26	グローバル	プログラミング中級 (Java) 04	1年以上	2	
27	グローバル	プログラミング中級 (Java) 05	1年以上	2	
28	グローバル	プログラミング中級 (Java) 06	1年以上	2	
29	グローバル	サーバサイド Web プログラミング中級 01	1年以上	2	
30	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング中級 01	1年以上	2	
31	グローバル	データベース (管理と運用) 01	1年以上	2	
32	グローバル	データベース (管理と運用) 02	1年以上	2	
33	グローバル	アルゴリズムとデータ構造α 01	1年以上	1	
34	グローバル	アルゴリズムとデータ構造α 02	1年以上	1	
35	グローバル	アルゴリズムとデータ構造β 01	1年以上	1	
36	グローバル	アルゴリズムとデータ構造β 02	1年以上	1	
37	グローバル	マルチメディア中級 (画像処理とアニメーション) α 01	1年以上	1	
38	グローバル	マルチメディア中級 (画像処理とアニメーション) β 01	1年以上	1	
39	グローバル	プログラミング中級 (Python) 01	1年以上	2	
40	グローバル	プログラミング中級 (Python) 02	1年以上	2	
41	グローバル	プログラミング中級 (Python) 03	1年以上	2	
42	グローバル	プログラミング中級 (Python) 04	1年以上	2	
43	グローバル	プログラミング中級 (Python) 05	1年以上	2	
44	グローバル	プログラミング中級 (Python) 06	1年以上	2	
45	グローバル	プログラミング中級 (Python) 07	1年以上	2	
46	グローバル	プログラミング中級 (Python) 08	1年以上	2	
47	グローバル	ソフトウェア開発技術α 01	1年以上	2	
48	グローバル	ソフトウェア開発技術β 01	1年以上	2	

★発展科目 2

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	教育	情報数学 3	2年以上	2	
2	教育	情報数学 4	2年以上	2	
3	教育	情報数学 5	2年以上	2	
4	教育	情報数学 6	2年以上	2	
5	国際教養	Python Programming for Digital Humanities 01	2年以上	4	
6	国際教養	Data and Social Media Analysis 51	3年以上	4	
7	基幹	情報数学 A	2年以上	2	
8	基幹	情報系の生命学	2年以上	2	
9	基幹	生命情報処理と ICT	3年以上	2	
10	基幹	データマイニング	3年以上	2	
11	基幹	情報検索	4年以上	2	
12	基幹	人工知能	3年以上	2	
13	基幹	グローバルビジネス世界における、サイバーセキュリティを考える	3年以上	2	
14	基幹	メディアエルゴノミクス	3年以上	2	
15	基幹	情報理論	2年以上	2	表現工学科設置科目
16	基幹	動的知能表現システム基礎	3年以上	2	
17	基幹	マルチメディア工学 A	3年以上	2	
18	基幹	データベース	3年以上	2	
19	基幹	ソーシャルネットワークサイエンス	4年以上	2	
20	基幹	SDGs と ICT	4年以上	2	
21	基幹	Information Retrieval	4年以上	2	基幹、創造、先進理工学部の英語学位プログラム学生のみ履修可
22	基幹	Databases	3年以上	2	基幹、創造、先進理工学部の英語学位プログラム学生のみ履修可

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

MEMO

社会イノベーション

Social Innovation

社会科学総合学術院提供副専攻

設置概要

グローバル課題の解決に向けて社会を変革する「ソーシャルイノベーター」が備えるべき、具体的な問題解決の提案力を学ぶ。

基礎として、学際的な理解を深める。重点課題として、①コミュニティ・社会開発、②平和構築・国際協力、③経済・環境持続可能性、④社会組織・働き方、の4つのテーマを設定する。

発展1として、臨床的なフィールドワークと国際的な理論研究の往還による分析で理解を深め、問題解決の糸口、社会的アクションの意義やそのきっかけのあり方を学ぶ。とくに地球規模のパースペクティブと現代日本からのパースペクティブを重視する。

さらに発展2として、効果的で持続可能な問題解決（社会イノベーション）のための実践知・専門知を養い、社会構想力を発揮するための基礎的な知識、スキル、プロフェッショナルとしての素養を習得する。

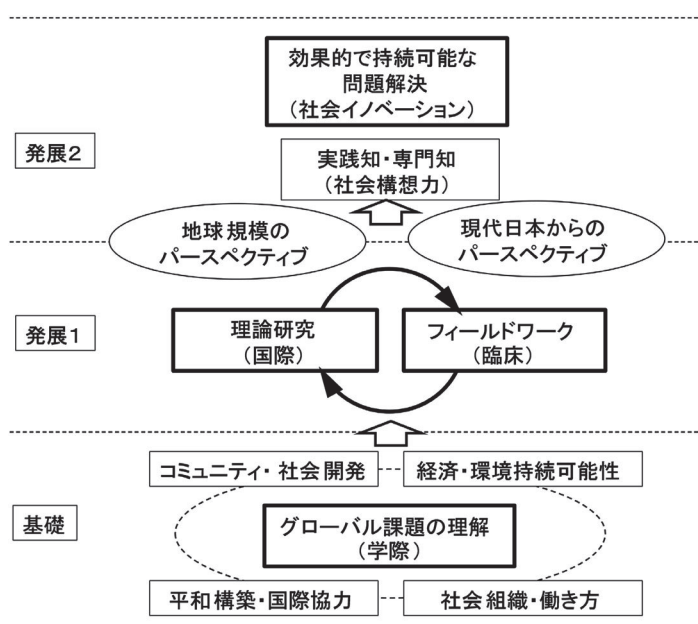
到達点（学習成果）

未知の問題や危機に対して、豊かな人間性とたくましい実践力を育み、豊かで多様な見方、感じ方、考え方を広げ、確かな現実認識と思考により、事物の全体像の中で自らが立てた問題意識を位置づけ、意味、その価値に気づき、社会創造に意識を向かわせることができる。

確かな学術的方法にもとづき社会の本質理解（法則・普遍性・一般性）を深めることができる。

さらに、思考と行動のフィードバック回路を確立し、矛盾（不合理や葛藤）を自らそして多様なステイクホルダーやコミュニティと対話しながら社会的に乗り越えることができる。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

地球規模や地域社会の現実的な課題、未来の危機に対して、社会的な対話を広げながら、現実的な問題解決策を提起できる真に国際社会の転換に貢献できる人材を育成する。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（基礎科目：6 単位、発展科目 1：4 単位、発展科目 2：6 単位）以上

★基礎科目

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	社会学	バイオエシックス	1 年以上	2	
2	社会学	歴史学（日中関係史）1	1 年以上	2	
3	社会学	漢字文化圏論 1	1 年以上	2	
4	社会学	漢字文化圏論 2	1 年以上	2	
5	社会学	平和学 I	2 年以上	2	
6	社会学	Social Innovation in Global Asia	1 年以上	2	

★発展科目 1

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	社会学	地理情報システム論 I	1 年以上	2	
2	社会学	地理情報システム論 II	1 年以上	2	前学期までに「I」を合格している場合のみ「II」を履修可
3	社会学	コミュニティデザイン	1 年以上	2	
4	社会学	国際金融論	2 年以上	2	
5	社会学	地域計画システム論 I	2 年以上	2	
6	社会学	地域計画システム論 II	2 年以上	2	前学期までに「I」を合格している場合のみ「II」を履修可
7	社会学	観光学	2 年以上	2	
8	社会学	Synthesis of Conflict Resolution and Social Innovation	1 年以上	2	

★発展科目 2

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	社会学	国際政治理論	2 年以上	2	
2	社会学	太平洋地域海洋国家研究	2 年以上	2	
3	社会学	国際 NGO 協力論	3 年以上	2	
4	社会学	国際開発制度論	3 年以上	2	
5	社会学	平和構築論	2 年以上	2	
6	社会学	環境法 1（公害規制法）	2 年以上	2	
7	社会学	環境法 2（自然保護法）	2 年以上	2	
8	社会学	環境表現論 I	1 年以上	2	
9	社会学	環境表現論 II	2 年以上	2	前学期までに「I」を合格している場合のみ「II」を履修可
10	社会学	ヴィジュアルイメージ研究	2 年以上	4	
11	社会学	紛争解決論実習 1	2 年以上	2	
12	社会学	紛争解決論実習 2	2 年以上	2	
13	社会学	紛争解決論実習 3	2 年以上	2	
14	社会学	平和学 II	2 年以上	2	前学期までに「I」を合格している場合のみ「II」を履修可
15	社会学	都市復興デザイン論	2 年以上	2	
16	社会学	イタリアの都市づくり	3 年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

日本語教育学

Study in Japanese Language Teaching

日本語教育研究科提供副専攻

設置概要

本学は1880年代より外国人留学生を受け入れ、現在、日本最大規模の5,000名超の留学生が学んでいます。そのうち半数の留学生が本学日本語教育研究センターで日本語科目を履修しています。

また、大学院日本語教育研究科は、第二言語として日本語を学ぶ学習者が日本語でコミュニケーションできるようにするための日本語教育のあり方と方法を理論的に研究し、「理論」と「実践」が統合された教育が展開できる日本語教師など日本語教育の専門家を養成しています。日本語教育研究科の修士生は、日本中、あるいは、世界各国の日本語教育機関等で幅広く活躍しています。

本副専攻では、分野としての日本語教育学を体系的に学びます。日本語教育学は「日本語」「教育／学習」「社会」の3本柱からなる分野です。日本語の教育や学習支援には、まず日本語に関する知識が不可欠です。しかし、それだけでは不十分で、日本語の教育や学習に関する知識や技術も必要です。さらに、日本語教育の専門家としては、第二言語として日本語を使って生きる人や彼らを受け入れる社会のあり方も視野に入れる必要があります。

〈基礎〉の科目群にある「日本語教育学入門」は、本副専攻の要となる科目で3本柱を広くカバーする科目で、その履修によって日本語教育学に関する全体図を得ることができます。「日本語」「教育／学習」「社会」の各柱には、それぞれ〈基礎〉〈発展1〉〈発展2〉の科目群があって、履修者は各自の専攻や興味・関心に応じて科目を選択しながら、日本語教育学を体系的に学ぶことができます。

到達点（学習成果）

本副専攻は、「日本語」「教育／学習」「社会」の3本柱からなり、それぞれが次のような到達目標をもっています。「日本語」は、個別言語の1つとして日本語を位置づけ、その体系、構造を理解し、日本語を客観的にとらえられるようになることを到達目標としています。「教育／学習」は、第二言語／母語として日本語を教えたり学んだりする際に必要な知識と技術を身につけることを到達目標としています。「社会」は、社会全体の中に日本語教育を位置づけ、その役割や意義が考えられるようになることを到達目標としています。

履修者は、各自の専攻や興味・関心に応じて本専攻の科目を選択して学習することができます。その到達点は多様で、海外留学先の大学で日本語教育のティーチング・アシスタントをする、日本語教師となって国内外で教える、国内外で日本語学習支援のボランティアをするなど、さまざまなケースがあります。

カリキュラムマップ

区分	日本語	教育／学習	社会
到達目標	個別言語の1つとして日本語を位置づけ、その体系、構造を理解し、客観的にとらえられるようになる。	第二言語／母語として日本語を教えたり学んだりする際に必要な知識や技術を身につける。	社会全体の中に日本語教育を位置づけ、その役割や意義を考えられるようになる。
基礎 7科目 (14単位)	日本語教育学入門 この科目では、日本語教育学の基本的な概念を知ることにより、その大まかな全体像を学びます。		
	日本語を知る この科目は日本語という言語の音声や語彙、文法、談話がどのような仕組みになっているかを考えます。	日本語を教える この科目では、日本語を母語としない人にどのように日本語を教えるかを学びます。	複言語社会を知る この科目は社会や個人において、どのようなことが使用されているかを日本語教育の視点から考えます。
	日本語使用を考える この科目は日本語がどのように使われているかを考える際にどのような捉え方があるかを学びます。	日本語学習を考える この科目では、人々が母語あるいは外国語／日本語として、日本語をどのように学んでいるかを学び、自身の言語学習についても内省する目を養います。	複言語社会を作る この科目は日本語教育がこれからの社会をつくるうえでどのようなことができるのかを考えます。
発展1 6科目 (12単位)	日本語を集める この科目は日本社会でどのような日本語が使われているかを知るために、いろいろな使用例を集めます。	日本語学習者を支援する この科目では、学習者がさまざまな場で日本語を学ぶことをどのように支援することができるかを学びます。	複言語社会を考える この科目は多様な背景をもつ人々が共に暮らす社会の中で、ことばと社会、そしてコミュニケーションに関する事象を日本語教育の視点から考えます。
	日本語を見る この科目は日本語を使ってどのようにコミュニケーションが行われるかを観察し、日本語によるコミュニケーションを見る目を養います。	日本語教師を養成する この科目では、外国語／第二言語としての日本語を教える教師をどのように養成するかを考えます。	複言語社会を生きる この科目は多様な背景をもつ人々が共に暮らす社会の中で、どのように暮らしているのかに関する事象を日本語教育の視点から考えます。
到達目標	「基礎」および「発展1」をふまえ、日本語教育学の広がりについて、さまざまな観点から学びます。		
発展2 9-12科目 (18-24単位)	「敬語コミュニケーション論1」、「敬語コミュニケーション論2」、「言語学入門」、「言語学1A」、「言語学1C」、「現代の日本語」、「ことばの世界」、「非言語行動論」、「心理学概論」、「国際教育論」、「参加のデザイン技術A」		

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（基礎科目：8 単位、発展科目 1：4 単位、発展科目 2：4 単位）以上

★基礎科目

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	グローバル	日本語教育学入門 1 01	1 年以上	1	
2	グローバル	日本語教育学入門 1 02	1 年以上	1	
3	グローバル	日本語教育学入門 2 01	1 年以上	1	
4	グローバル	日本語教育学入門 2 02	1 年以上	1	
5	グローバル	日本語を知る 1	1 年以上	1	
6	グローバル	日本語を知る 2	1 年以上	1	
7	グローバル	日本語使用を考える 1	1 年以上	1	
8	グローバル	日本語使用を考える 2	1 年以上	1	
9	グローバル	日本語を教える 1	1 年以上	1	
10	グローバル	日本語を教える 2	1 年以上	1	
11	グローバル	日本語学習を考える 1	1 年以上	1	
12	グローバル	日本語学習を考える 2	1 年以上	1	
13	グローバル	複言語社会を知る 1	1 年以上	1	
14	グローバル	複言語社会を知る 2	1 年以上	1	
15	グローバル	複言語社会を作る 1	1 年以上	1	
16	グローバル	複言語社会を作る 2	1 年以上	1	

★発展科目 1

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	グローバル	日本語を集める 1	1 年以上	1	
2	グローバル	日本語を集める 2	1 年以上	1	
3	グローバル	日本語を見る 1	1 年以上	1	
4	グローバル	日本語を見る 2	1 年以上	1	
5	グローバル	日本語学習者を支援する 1	1 年以上	1	
6	グローバル	日本語学習者を支援する 2	1 年以上	1	
7	グローバル	日本語教師を養成する 1	1 年以上	1	
8	グローバル	日本語教師を養成する 2	1 年以上	1	
9	グローバル	複言語社会を考える 1	1 年以上	1	
10	グローバル	複言語社会を考える 2	1 年以上	1	
11	グローバル	複言語社会を生きる 1	1 年以上	1	
12	グローバル	複言語社会を生きる 2	1 年以上	1	

★発展科目 2

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	言語学 I C (ストックウェル)	1 年以上	2	
2	法学	言語学 I A (首藤)	1 年以上	2	
3	社会学	社会デザインの思考と技法 4 (参加のデザイン技術)	2 年以上	2	
4	人科	非言語行動論	1 年以上	2	
5	文構	言語学入門	1 年以上	2	
6	文構	グローバル社会と教育	2 年以上	2	
7	文	現代の日本語	1 年以上	2	
8	グローバル	敬語コミュニケーション論 1 01	1 年以上	1	
9	グローバル	敬語コミュニケーション論 1 02	1 年以上	1	
10	グローバル	敬語コミュニケーション論 2 01	1 年以上	1	
11	グローバル	敬語コミュニケーション論 2 02	1 年以上	1	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

履修を希望する学生へのメッセージ

本副専攻では、分野としての日本語教育学を体系的に学びます。日本語教育学は「日本語」「教育／学習」「社会」の 3 本柱からなる分野です。日本語の教育や学習支援には、まず日本語に関する知識が不可欠です。しかし、それだけでは不十分で、日本語の教育や学習に関する知識や技術も必要です。さらに、日本語教育の専門家としては、第二言語として日本語を使って生きる人や彼らを受け入れる社会のあり方も視野に入れる必要があります。

＜基礎＞には 7 科目あり、「日本語教育学入門」はその 1 つですが、他の 6 科目とは異なり、本副専攻の 3 本柱の要となる科目なので、その履修を強く推奨します。本副専攻では、「日本語教育学入門」のみ春夏クォーター、秋冬クォーターのどちらも開講されます。それ以外の科目のほとんどが、春夏クォーター、または、秋冬クォーターのいずれかのみでの開講ですので、履修の時期にご注意ください。

本副専攻に設置されている科目の幅広い履修は、本副専攻の申請を特に考えていない方にも推奨します。地域や職場で日本語を母語としない人と接することが珍しくない現在、日本語教育学を学び、日本語や日本社会、日本文化を相対化して客観的に捉えられるようになることは、21 世紀を生きるための教養だからです。

アーカイブズ学

Archival Science

設置概要

人類の営みを示す記録やそれを収容する施設をアーカイブズと呼び、そこで働く専門職をアーキビストと称する。民主主義を機能させるには過去の記録を検証することが必要であるとの考えから、ヨーロッパでは早くからアーカイブズの理念を大事にしてきた。日本でも遅ればせながら 1987 年に「公文書館法」が、2009 年に「公文書等の管理に関する法律」がそれぞれ制定され、国・地方公共団体のほか、企業・学校などでも文書館などの名称で様々な記録を保存・管理する施設を持つところが多くなってきている。本学でもミュージアムとしての早稲田大学歴史館とともに、文書館としての東伏見アーカイブズがあり、早稲田大学のアーカイブズを、組織運営上、必要不可欠なものとして位置づけている。

しかし、日本のアーカイブズ学はまだ歴史が浅く、自治体のすべてが公文書館を設置しているわけではない。加えて、公文書の不正・改竄・廃棄など、近年しばしば接する日本の公文書をめぐる問題は、日本ではアーカイブズとアーキビストがいまだ十分に認知されていないことの証左である。過去の記録を検証できる組織は健全であり、アーカイブズとアーキビストがその国の民主主義を支えるのであるとすれば、多くの人がアーカイブズ学を学ぶことが求められる。本副専攻はそのような認識のもと、本学学生が広くアーカイブズ学について学ぶ機会を提供する、本学で初めての試みとして設置されるものである。

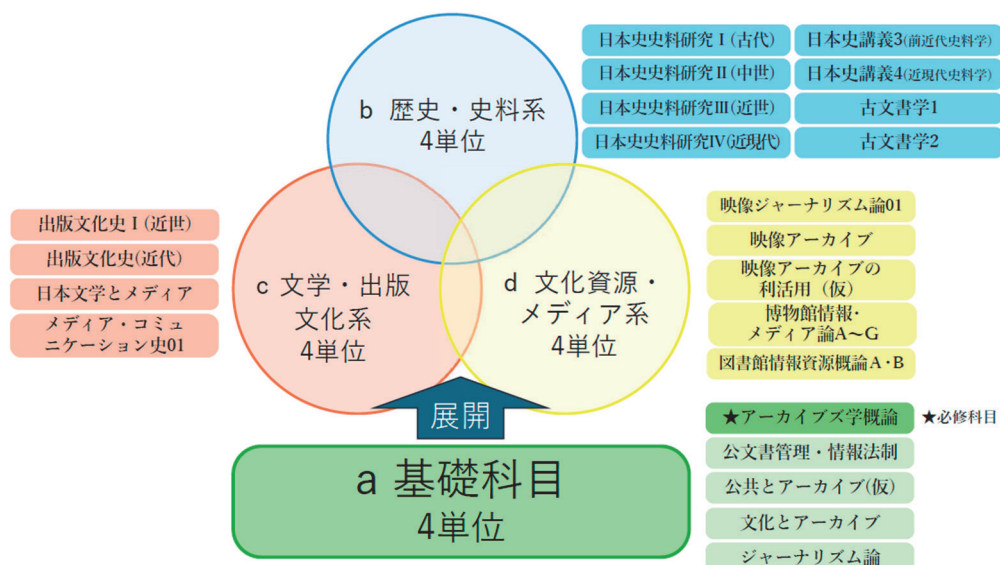
2012 年に始まった日本アーカイブズ学会による登録アーキビストの制度を基盤として、2021 年に国立公文書館長が認定者となる認証アーキビストの制度が整えられ、日本でもようやくアーキビストが公的なポジションとしての地位を確保できるようになった。日本の国家・社会が健全であり続けるためには、今後、全国各地に公文書館を設置すること、そこで働く認証アーキビストが必要とされるであろうし、企業や学校などにおいてもその専門的知識が求められるようになるであろう。

認証アーキビストの資格を得るためには、大学院修士課程以上のキャリアが必要とされるが、学部の課程においてそうした知識を学ぶことは、本学学生の進路として認証アーキビストの資格取得への道を開くとともに、必ずしも専門職を目指す学生にとっても、民主主義を担う市民としての基礎的素養を身に着けるという重要な意味がある。加えて、本副専攻は、優れたジャーナリストの育成を使命とする早稲田大学に設置されるものとして、ジャーナリズム及びメディアに関係する科目がカリキュラムに含まれるという特徴を持つ。このことを通じて、履修者がアーカイブズとジャーナリズムの関連についての理解を深め、公共的な情報流通の全体像の中でのアーカイブズの意義を了知することもまた、本副専攻の目指すところである。

到達点（学習成果）

アーカイブズが、人間の活動過程で作成される膨大で多様な記録（石板・粘土板・紙から、ボーンデジタルのものまで）のうち、さまざまな価値において長期的・永続的に保存すべきものであることを理解する。そのうえで、さまざまな価値をもつアーカイブズを取り扱うにあたって、適切な評価選別・収集・整理・保存・利用・活用を行うための理論や実践的な方法について学ぶ。また、アーカイブズを保管するさまざまな機関についても知る。さらに、未来を考えよりよい社会をつくるための素材であるアーカイブズが、われわれの社会とどのようにつながりながら存在し役立っているかをさまざまな場・学問分野から学び、人間の活動とアーカイブズの関係性について総合的に理解する。

カリキュラムマップ



指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：4 単位以上、領域・分野 b：4 単位以上、領域・分野 c：4 単位以上、領域・分野 d：4 単位以上）以上

★領域・分野 a 「基礎科目」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	教育	文化とアーカイブ	2 年以上	2	
2	教育	ジャーナリズム論	1 年以上	2	
3	教育	公文書管理・情報法制	2 年以上	1	
4	教育	公共とアーカイブ	2 年以上	1	
5	教育	アーカイブズ学概論	2 年以上	2	履修必須

★領域・分野 b 「歴史・史料系」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	教育	日本史史料研究Ⅰ（古代）	2 年以上	2	
2	教育	日本史史料研究Ⅱ（中世）	2 年以上	2	
3	教育	日本史史料研究Ⅲ（近世）	2 年以上	2	
4	教育	日本史史料研究Ⅳ（近現代）	2 年以上	2	
5	文	日本史講義Ⅲ（前近代史科学）	2 年以上	2	
6	文	日本史講義Ⅳ（近現代史科学）	2 年以上	2	
7	文	古文書学Ⅰ	2 年以上	2	
8	文	古文書学Ⅱ	2 年以上	2	

★領域・分野 c 「文学・出版文化系」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	メディア・コミュニケーション史 01	2 年以上	2	
2	教育	出版文化史Ⅰ（近世）	1 年以上	2	
3	教育	出版文化史Ⅱ（近代）	1 年以上	2	
4	教育	日本文学とメディア	2 年以上	2	

★領域・分野 d 「文化資源・メディア系」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	映像ジャーナリズム論 01	2 年以上	2	
2	教育	図書館情報資源概論 A	1 年以上	2	
3	教育	図書館情報資源概論 B	1 年以上	2	
4	教育	博物館情報・メディア論 A	2 年以上	2	
5	教育	博物館情報・メディア論 B	2 年以上	2	
6	教育	博物館情報・メディア論 C	2 年以上	2	
7	教育	博物館情報・メディア論 D	2 年以上	2	
8	教育	博物館情報・メディア論 F	2 年以上	2	教育学部生涯教育学専修生のみ履修可
9	教育	博物館情報・メディア論 G	2 年以上	2	教育学部生涯教育学専修生のみ履修可
10	教育	映像アーカイブの利活用	2 年以上	2	
11	文構	映像アーカイブ	2 年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

履修を希望する学生へのメッセージ

100 年前、人々は何をしていたかをどう調べますか。

政治の論点は帝国議会会議録で分かるかもしれませんが。各省庁の政策は行政文書が残っていたら確認できそうです。世間で何が議論になっていたかは新聞の縮刷版で見えてきます。記事にあった事件は裁判所や警察の記録があるかもしれません。流行の映画や音楽の題名からフィルムやレコードを見つければ当時の感性も判明するでしょう。

1 年前はどうでしょう。紙メディアはほぼ残っているでしょうが映像や音声、そしてネット上の情報はどう残すべきでしょうか。官庁の公文書はさっさと捨てられたりせずきちんと残されているのでしょうか。

官民問わず過去の記録は残されてアーカイブとなり、それを私たちは活用し、事実を知ります。とくに公文書が保存され、活用できるよう整えられていることは、私たちが民主主義の主権者として社会と政治を検証する大切な条件です。メディアや芸術の記録も、社会と文化の実相を知るための財産です。アーカイブは通常、一般市民や学術研究者（あなたです！）に開かれ、自らの手で歴史の生データに触れる喜びを得ることができます。

アーカイブの重要さは 2009 年に公文書管理法が作られて社会の共通認識となり、専門家であるアーキビストが社会の各現場で求められようとしています。この副専攻では、そのための基礎知識を身につけます。将来的にアーキビストを目指すならもちろん、自分の分野で史資料を上手く扱える人になる上でも、力を付けることができるはずです。

アントレプレナーシップ

<日本語版>

設置概要

現代社会は、AIの急激な進化や環境問題、少子高齢化、人権問題といった、単一の専門知識だけでは解決できない、複雑で予測困難な課題に直面しています。本副専攻は、各学部・GECに設置されている起業系科目群とビジネスクリエーション科目群を体系的に構成し、全学の学生が自身の関心や専門性を踏まえて、社会課題解決に向けた新しい価値を創造する精神と力（＝アントレプレナーシップ）を養成する一貫したカリキュラムを提供します。

本副専攻では多様なバックグラウンドを持つ学生が多岐にわたる社会課題に協働して取り組みます。その共通言語として、全ての学生に対して経営・経済の基礎知識と、データに基づいてアイデアを構想し検証するための基礎知識の習得を求めます。こうした早稲田大学ならではの「文理融合」によって、論理的思考力と実践力を兼ね備え、それぞれの特性を活かして社会に変革をもたらすアントレプレナーシップを持った人材を輩出することを目指します。

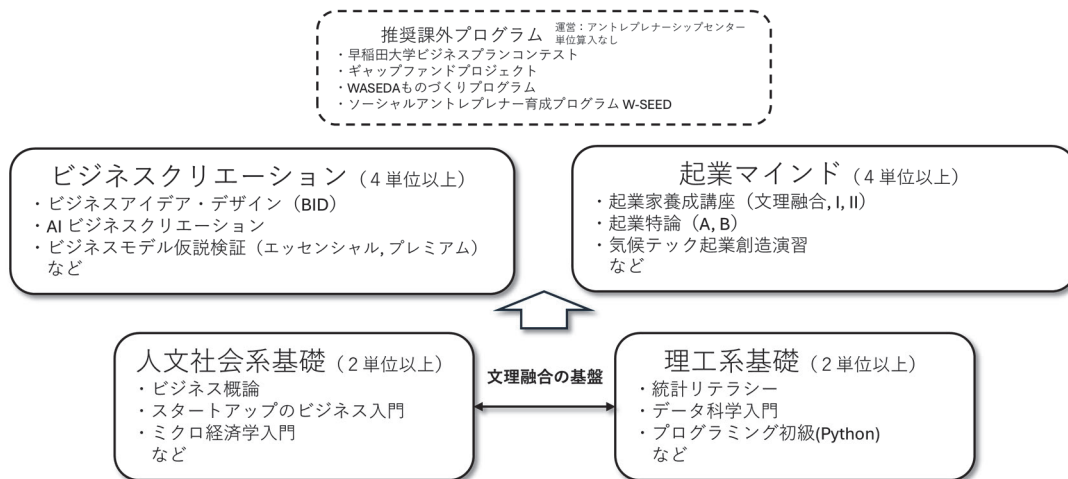
到達点（学習成果）

本副専攻を修了した学生は、自らの専門性を活かして社会課題を発見し、その持続可能な解決に向けた新たな価値創造に挑む力を身につけます。

具体的には、ビジネスや起業に関する体系的知識と、統計・プログラミング等のデータスキルを学び、実現可能性の高い事業計画を論理的に構想する力を養います。また、多様な専門性を持つ仲間と協働し、チームでアイデアを具現化するプロジェクト推進能力も体得します。

さらに、起業家や投資家との交流を通じて社会課題とその解決を「自分ごと」として捉え、起業が将来のキャリアの選択肢になるようなマインドを醸成します。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

「社会課題に主体的に取り組みたい」「社会に新たな価値を作りたい」という思いを持つすべての学生を歓迎します。

本副専攻は、履修生・修了生が起業すること自体を目的とはしません。社会に貢献するため、変革をもたらすため、そして予測困難な現代において充実したキャリアを歩むための手段として、起業が選択肢となり、いかなる組織や環境においてもアントレプレナーシップを発揮できるスキルとマインドを習得することが、本副専攻の真の目的です。

そのためには、それぞれの専門性や強みを活かしつつ、多様な仲間との議論や活動に積極的に参加し、自ら行動する主体性が求められます。そして文理の壁を越えて社会課題を解決していく「化学反応」を早稲田大学から起こしていきましょう！

Entrepreneurship

<English>

Overview

This interdisciplinary minor is designed to address the increasingly complex and unpredictable challenges facing contemporary society, such as rapid advances in artificial intelligence, environmental issues, demographic change, and human rights concerns, which cannot be adequately addressed by a single academic discipline alone.

The program systematically integrates entrepreneurship-related courses and business creation courses that are already offered across various faculties and the Global Education Center (GEC), and provides a coherent curriculum accessible to students from all undergraduate schools. Through this curriculum, students are encouraged to draw on their own academic interests and disciplinary expertise, while cultivating the mindset and capabilities necessary to create new social value and to address societal challenges, namely, entrepreneurship.

Students with diverse academic backgrounds collaboratively engage with a wide range of social challenges. As a shared foundation for such collaboration, all students are required to acquire basic knowledge in social sciences, as well as fundamental skills for designing and testing ideas based on data. By leveraging Waseda's distinctive strength in integrating the humanities and social sciences with science and engineering, the program aims to foster individuals who combine logical thinking with practical competence and who can bring about social transformation by making the most of their respective strengths.

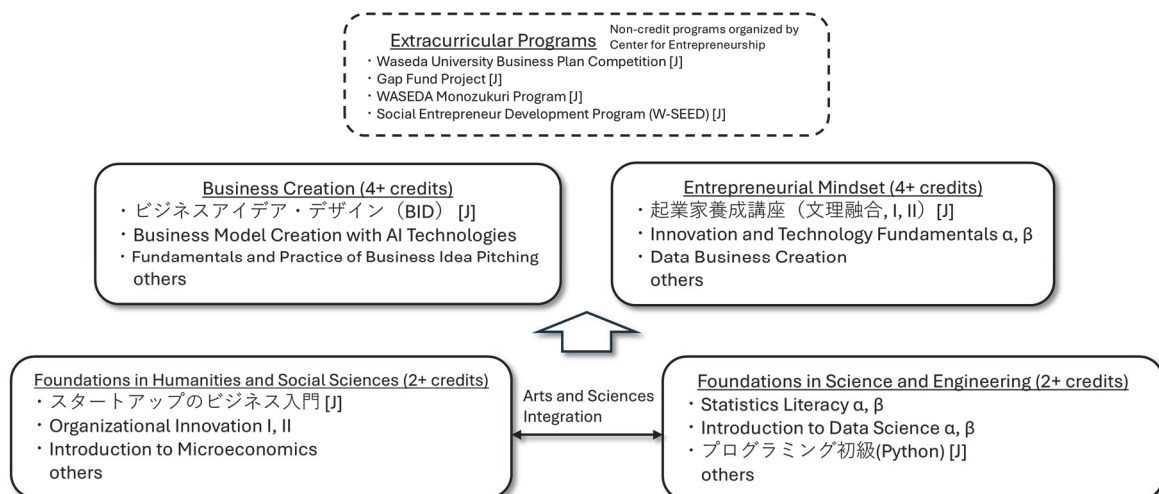
Learning Outcomes

Upon completion of the minor, students will have acquired the ability to identify social challenges by drawing on their own disciplinary expertise and to pursue the creation of new value aimed at sustainable solutions to those challenges.

Specifically, students will develop the capacity to logically design highly feasible business plans through the acquisition of systematic knowledge related to business and entrepreneurship, together with data skills such as statistics and programming. In addition, through collaboration with peers from diverse academic backgrounds, students will gain project management capabilities that enable them to translate ideas into concrete outcomes within a team-based setting.

Furthermore, interactions with entrepreneurs and investors will help students to perceive social challenges and their solutions as personally relevant issues, fostering a mindset in which entrepreneurship becomes a viable option in their future career paths. The learning experience provided by this minor thus equips students with the ability to respond proactively to contemporary and future societal challenges.

Curriculum



Message from Coordinators

This minor welcomes all students who aspire to engage proactively with social challenges and to create new value for society.

The primary objective of the program is not to encourage students to start businesses per se. Rather, its true purpose is to enable students to acquire the skills and mindset through which entrepreneurship becomes one possible means of contributing to society, driving transformation, and building a fulfilling career in an unpredictable world, regardless of the organization or environment in which they may work.

To achieve this, students are expected to actively participate in discussions and activities with peers from diverse backgrounds while making the most of their own disciplinary strengths and taking initiative in their learning. By transcending the arts-science divide, the program seeks to generate the “chemical reactions” that lead to Waseda’s innovative solutions to social challenges.

指定科目一覽

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：2 単位 領域・分野 b：2 単位 領域・分野 c：4 単位 領域・分野 d：4 単位）以上

★領域・分野 a 「人文社会系基礎／Fundamentals in Humanities and Social Sciences」 修了必要単位：2 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	Introduction to Microeconomics 01	1 年以上	2	
2	政経	ミクロ経済学入門 01	1 年以上	2	
3	政経	ミクロ経済学入門 02	1 年以上	2	
4	法	International Business Law	2 年以上	2	
5	商	ビジネス概論 1	1 年以上	2	
6	商	ビジネス概論 2	1 年以上	2	商学部生のみ履修可
7	商	スタートアップのビジネス入門 1	1 年以上	2	
8	社学	International Business	2 年以上	2	
9	社学	Organizational Innovation 1	2 年以上	2	
10	社学	Organizational Innovation 2	2 年以上	2	
11	社学	Social Innovation in Global Asia	1 年以上	2	
12	社学	科学技術・イノベーション概論	1 年以上	2	
13	国教	Introduction to Microeconomics 01	1 年以上	2	
14	国教	Japanese Economy 01	2 年以上	2	
15	国教	Monetary & Financial Economics 01	2 年以上	2	

★領域・分野 b 「理工系基礎／Fundamentals in Science and Engineering」 修了必要単位：2 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	Statistics I 01	1 年以上	2	政治経済学部生のみ履修可
2	政経	Statistics I 02	1 年以上	2	政治経済学部生のみ履修可
3	政経	Statistics I 03	1 年以上	2	政治経済学部生のみ履修可
4	政経	Introduction to Probability and Statistics 01	1 年以上	2	政治経済学部生のみ履修可
5	政経	Introduction to Probability and Statistics 02	1 年以上	2	政治経済学部生のみ履修可
6	国際教養	Python Programming for Digital Humanities 01	2 年以上	4	
7	基幹	Introduction to Probability and Statistics (1)	1 年以上	2	基幹理工学部生のみ履修可
8	基幹	Introduction to Probability and Statistics (2)	1 年以上	2	基幹理工学部生のみ履修可
9	創造	Introduction to Probability and Statistics (1)	1 年以上	2	創造理工学部生のみ履修可
10	創造	Introduction to Probability and Statistics (2)	1 年以上	2	創造理工学部生のみ履修可
11	先進	Introduction to Probability and Statistics (1)	1 年以上	2	先進理工学部生のみ履修可
12	先進	Introduction to Probability and Statistics (2)	1 年以上	2	先進理工学部生のみ履修可
13	先進	基礎統計学	1 年以上	2	先進理工学部生のみ履修可
14	グローバル	統計リテラシー α 01	1 年以上	1	
15	グローバル	統計リテラシー α 02	1 年以上	1	
16	グローバル	統計リテラシー α 03	1 年以上	1	
17	グローバル	統計リテラシー α 04	1 年以上	1	
18	グローバル	統計リテラシー α (商学部) 01	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
19	グローバル	統計リテラシー α (商学部) 02	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
20	グローバル	統計リテラシー α (商学部) 03	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
21	グローバル	統計リテラシー α (商学部) 04	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
22	グローバル	統計リテラシー β 01	1 年以上	1	
23	グローバル	統計リテラシー β 02	1 年以上	1	
24	グローバル	統計リテラシー β 03	1 年以上	1	
25	グローバル	統計リテラシー β 04	1 年以上	1	
26	グローバル	統計リテラシー β (商学部) 01	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
27	グローバル	統計リテラシー β (商学部) 02	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
28	グローバル	統計リテラシー β (商学部) 03	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
29	グローバル	統計リテラシー β (商学部) 04	1 年以上	1	商学部生のみ履修可
30	グローバル	データ科学入門 α 01	1 年以上	1	
31	グローバル	データ科学入門 α 02	1 年以上	1	
32	グローバル	データ科学入門 α 03	1 年以上	1	
33	グローバル	データ科学入門 α 04	1 年以上	1	
34	グローバル	データ科学入門 β 01	1 年以上	1	
35	グローバル	データ科学入門 β 02	1 年以上	1	
36	グローバル	データ科学入門 β 03	1 年以上	1	
37	グローバル	データ科学入門 β 04	1 年以上	1	
38	グローバル	Statistics Literacy α 01	1 年以上	1	
39	グローバル	Statistics Literacy α 03	1 年以上	1	
40	グローバル	Statistics Literacy β 02	1 年以上	1	
41	グローバル	Statistics Literacy β 04	1 年以上	1	
42	グローバル	Introduction to Data Science α 01	1 年以上	1	
43	グローバル	Introduction to Data Science α 03	1 年以上	1	
44	グローバル	Introduction to Data Science β 02	1 年以上	1	
45	グローバル	Introduction to Data Science β 04	1 年以上	1	
46	グローバル	データ科学入門 1 (統計学既習者用) 01	1 年以上	1	
47	グローバル	データ科学入門 1 (統計学既習者用) 02	1 年以上	1	

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
48	グローバル	データ科学入門 1 (統計学既習者用) 03	1年以上	1	
49	グローバル	データ科学入門 1 (統計学既習者用) 04	1年以上	1	
50	グローバル	データ科学入門 2 (統計学既習者用) 01	1年以上	1	
51	グローバル	データ科学入門 2 (統計学既習者用) 02	1年以上	1	
52	グローバル	データ科学入門 2 (統計学既習者用) 03	1年以上	1	
53	グローバル	データ科学入門 2 (統計学既習者用) 04	1年以上	1	
54	グローバル	Web デザイン実践 01	1年以上	2	
55	グローバル	Web デザイン実践 02	1年以上	2	
56	グローバル	Web デザイン実践 03	1年以上	2	
57	グローバル	Web デザイン実践 04	1年以上	2	
58	グローバル	Web デザイン実践 05	1年以上	2	
59	グローバル	Web デザイン実践 06	1年以上	2	
60	グローバル	プログラミング初級 (Python) 01	1年以上	2	
61	グローバル	プログラミング初級 (Python) 02	1年以上	2	
62	グローバル	プログラミング初級 (Python) 03	1年以上	2	
63	グローバル	プログラミング初級 (Python) 04	1年以上	2	
64	グローバル	プログラミング初級 (Python) 05	1年以上	2	
65	グローバル	プログラミング初級 (Python) 06	1年以上	2	
66	グローバル	プログラミング初級 (Python) 07	1年以上	2	
67	グローバル	プログラミング初級 (Python) 08	1年以上	2	
68	グローバル	AI プログラミング基礎 01	1年以上	2	
69	グローバル	AI プログラミング基礎 02	1年以上	2	

★領域・分野 c 「ビジネスクリエーション／Business Creation」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	商	ビジネスアイデア・デザイン (BID) 1	2年以上	2	
2	グローバル	Advanced Course on Entrepreneurship	1年以上	1	
3	グローバル	イノベーション概論 1：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1年以上	1	
4	グローバル	イノベーション概論 2：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1年以上	1	
5	グローバル	人工知能とビジネスモデル創出	1年以上	1	
6	グローバル	Business Model Creation with AI Technologies	1年以上	1	
7	グローバル	実践データ分析ビジネスコンサルティング	1年以上	2	
8	グローバル	デザインシンキング	1年以上	1	
9	グローバル	Design Thinking	1年以上	1	
10	グローバル	ビジネスアイデア・デザイン (BID)	1年以上	2	
11	グローバル	ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) 01	1年以上	1	
12	グローバル	ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) 02	1年以上	1	
13	グローバル	ビジネスモデル仮説検証 (プレミアム)	1年以上	2	
14	グローバル	イノベーション人材になるためのコーチング研修 (ベーシック)	1年以上	1	
15	グローバル	AI ビジネスクリエーション	1年以上	1	
16	グローバル	AI Business Creation	1年以上	1	
17	グローバル	Fundamentals and Practice of Business Idea Pitching	1年以上	1	
18	グローバル	イノベーション概論 α：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ (学部生用)		1	過年度科目
19	グローバル	イノベーション概論 β：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ (学部生用)		1	過年度科目
20	グローバル	Advanced Course on Entrepreneurship D (学部生用)		1	過年度科目
21	グローバル	データビジネスクリエーション β (学部生用)		2	過年度科目
22	グローバル	デザインシンキング (学部生用) 01		1	過年度科目
23	グローバル	デザインシンキング (学部生用) 02		1	過年度科目
24	グローバル	ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) (学部生用) 01		1	過年度科目
25	グローバル	ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) (学部生用) 02		1	過年度科目
26	グローバル	ビジネスモデル仮説検証 (プレミアム) (学部生用) 01		2	過年度科目
27	グローバル	イノベーション人材になるためのコーチング研修 (ベーシック) (学部生用)		1	過年度科目
28	グローバル	AI ビジネスクリエーション α (学部生用)		1	過年度科目
29	グローバル	人工知能とビジネスモデル創出 α (学部生用)		1	過年度科目
30	グローバル	Business Model Creation with AI Technologies β (for undergraduates)		1	過年度科目
31	グローバル	AI Business Creation β (for undergraduates)		1	過年度科目

★領域・分野 d 「起業マインド／Entrepreneurial Mindset」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	100 年ファンド寄附講座 気候テック起業創造演習 01	2 年以上	2	
2	政経	兼松株式会社寄附講座 起業家養成講座（文理融合） 01	1 年以上	2	
3	商	株式会社日本 M&A センター寄附講座 起業家養成講座Ⅰ	1 年以上	2	
4	商	起業家養成講座Ⅱ 1	1 年以上	2	
5	商	ベンチャー企業の成長と証券市場との関わり 1	1 年以上	2	
6	商	兼松株式会社寄附講座 起業家養成講座（文理融合） 1	1 年以上	2	
7	基幹	兼松株式会社寄附講座 起業家養成講座（文理融合）	1 年以上	2	
8	創造	兼松株式会社寄附講座 起業家養成講座（文理融合）	1 年以上	2	
9	先進	兼松株式会社寄附講座 起業家養成講座（文理融合）	1 年以上	2	
10	グローバル	アントレプレナーシップとインパクト投資	1 年以上	1	
11	グローバル	起業特論 A：トップリーダーマネジメント	1 年以上	1	
12	グローバル	起業特論 B：いかに企業内/企業と共に新規事業を立ち上げられる人材になるか	1 年以上	1	
13	グローバル	CSR マネジメント実践	1 年以上	1	
14	グローバル	Examining Corporate Social Responsibility from a Global Perspective	1 年以上	1	
15	グローバル	Data Business Creation	1 年以上	1	
16	グローバル	Innovation and Technology Fundamentals α	1 年以上	1	
17	グローバル	Innovation and Technology Fundamentals β	1 年以上	1	
18	グローバル	Innovation and Technology Practice α	1 年以上	1	
19	グローバル	Innovation and Technology Practice β	1 年以上	1	
20	グローバル	Innovation and Technology Practice β (for undergraduates)		1	過年度科目
21	グローバル	イノベーションとテクノロジー基礎 α：人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ（学部生用）		1	過年度科目
22	グローバル	イノベーションとテクノロジー実践 α：人工知能・先端ロボットテクノロジー実践（学部生用）		1	過年度科目
23	グローバル	起業特論 A：トップリーダーマネジメント（学部生用）		1	過年度科目
24	グローバル	起業特論 B：企業内新規事業開発（学部生用）		1	過年度科目
25	グローバル	データビジネスクリエーション α（学部生用）		1	過年度科目
26	グローバル	CSR マネジメント実践（学部生用）		2	過年度科目
27	グローバル	Innovation and Technology Fundamentals β (for undergraduates)		1	過年度科目

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

MEMO

映画・映像

Cinema and Audiovisual

設置概要

早稲田大学は、今村昌平、小栗康平をはじめとして映画・映像の制作者のみならず、映画史・映画美学の研究者や、日々更新される映像技術の研究者を多く輩出してきました。それは、「専門」の枠にとどまらずに、学術的な研究・教育と、実践的な知がたえず融合されるカリキュラムを学生たちが自主的に選択し、創作者や研究者としての道を切り開いてきたことに大きく依るものだと考えています。現在、映画・映像を専門とする教員は、様々な学部にも所属していますが、リベラル・アーツを掲げる GEC においてこそ、複数の学問領域が相関的に織りなす、「総合芸術」としての映画・映像の世界を深く掘り下げることができると信じています。

教育の目標としては、①「何を表現するのか」、②「どのように表現するのか」、③「社会のなかでその表現が果たす役割とは何か」を主眼としたカリキュラムを展開していくことを計画しています。そのためには、学生自身が①映画映像に対する「見方」を創り、②創造行為をとおして、技術のみならず共同作業に必要な議論・交流を行い、③多様な価値観に直面しながら自ら決定することを重視します。副専攻のなかの領域・分野は、この3つの重点目標に対応するものといえます。

教育方法としては、まず、作品に多く触れることにより、様々な表現様式を学ぶと同時に知的好奇心を広げていくことを目指します。そして、批評意識を育むために授業に対話形式を積極的に取り入れるほか、全学部生が集まる少人数形式の授業を基盤とすることで、他者を知り自らの思考を深めることを目指します。また、実践的な知識や技術を学び、変革期を迎えつつある産業や社会のなかで、映画・映像の果たす役割を検討するために、実務家による指導や受講者によるイベントの運営等を実施していきます。上記のような教育目標・教育方法を実現するために、学際的副専攻「映画・映像」では、別紙に記すような段階に応じたカリキュラムの流れを想定します。

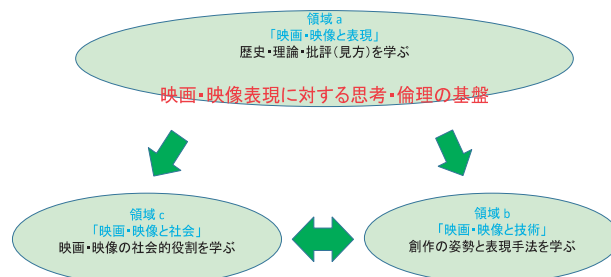
到達点（学習成果）

理修了者が、批評眼を持って映画・映像と向き合うことが、到達点の根幹にあります。作品を語る言葉と思考を自ら持つことなしには、制作者、技術者、研究者へと進む道は、いずれも切り開かれなければならないからです。そのうえで、歴史・文化、表現手法、マネジメントに関する基本的かつ包括的な知識を修得し、多面的に映画・映像の世界を理解することができる人間を育成します。その意味においては、映画・映像に対する批評的な思考、制作する技術、完成したものを人に届けることのできるコミュニケーション能力が身につくことと考えています。

また、映画・映像の領域で活躍する社会人として、必要な知識・技術・姿勢を修得するばかりでなく、他の領域であっても、社会のなかで映像表現を介したコミュニケーションの豊かさや広がりの実現に寄与することのできるような力を養うことも目標＝到達点です。

カリキュラムマップ

GEC 学際的副専攻 <映画・映像> 領域相關図



映画・映像 カリキュラムの流れ

映像の言語化	表現手法	社会との関連性
何を表現するのか	どのように表現するのか	表現の社会的な役割
基礎		
映像論1/映画作家論	マスターズ・オブ・シネマ1、2 映画監督と学ぶ映像表現	プロデュース概論
習熟		
映画から学ぶ映像表現 映画ジャンル論(要検討)	映像制作技術基礎 メディアエルゴノミクス	奇想のテレビドキュメンタリー論 映像・芸術表現
実践		
テレビ論	映像制作実習1、2	制作プロジェクト研究
研究・高度な実践		
各大学院等のカリキュラムあるいは映画映像業界でキャリアデザイン		

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：6 単位、領域・分野 b：6 単位、領域・分野 c：4 単位）以上

★領域・分野 a 「映画・映像と表現」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	映像論 I（谷）	1 年以上	2	
2	文	映画研究入門	1 年以上	2	
3	文	映画作家論	2 年以上	2	
4	文	映画ジャンル論	2 年以上	2	
5	文	女性と映画	1 年以上	2	
6	基幹	映画から学ぶ映像表現	2 年以上	4	
7	グローバル	映画監督と学ぶ映像表現 ※ 1	1 年以上	2	

※ 1 基幹・創造・先進理工学部生は、理工設置科目を受講してください。

★領域・分野 b 「映画・映像と技術」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	文	大衆映画論	1 年以上	2	
2	基幹	メディアエルゴノミクス	3 年以上	2	
3	基幹	映像制作実習 I	3 年以上	4	
4	基幹	映像制作実習 II	3 年以上	4	
5	グローバル	映画のすべて マスターズ・オブ・シネマ 1 ※ 1	1 年以上	1	
6	グローバル	映画のすべて マスターズ・オブ・シネマ 2 ※ 1	1 年以上	1	
7	グローバル	映像史（理論） ※ 1	1 年以上	2	
8	グローバル	映像史（社会・歴史） ※ 1	1 年以上	2	

※ 1 基幹・創造・先進理工学部生は、理工設置科目を受講してください。

★領域・分野 c 「映画・映像と社会」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	メディアの世界 01	1 年以上	2	
2	法学	芸術論 I E（谷）	1 年以上	2	
3	社会学	社会デザインの思考と技法 3（社会言語としての写真・映像）	2 年以上	2	
4	基幹	奇想のテレビドキュメンタリー論	2 年以上	2	
5	基幹	Artistic Expression（芸術表現）	2 年以上	2	
6	グローバル	プロデュース概論 ※ 1	1 年以上	1	
7	グローバル	映像・芸術表現	1 年以上	2	
8	グローバル	制作プロジェクト研究	1 年以上	2	

※ 1 基幹・創造・先進理工学部生は、理工設置科目を受講してください。

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

履修を希望する学生へのメッセージ

まずは、映画映像に対する関心や好奇心を際限なく拡げていってください。そのなかで出会うさまざまなイメージや表現行為が、どのように私たちと関係を築き上げているのか自らにたえず問い続けてほしいと思います。「教員」と「学生」という一方的な関係のなかで基礎知識が「与えられる」のではなく、講義という出会いを通じて、世界のなかで他者と無数の線を引き続けられることが映画映像を学ぶためには必要です。

演劇・舞台芸術

Theatre・Performing Arts

設置概要

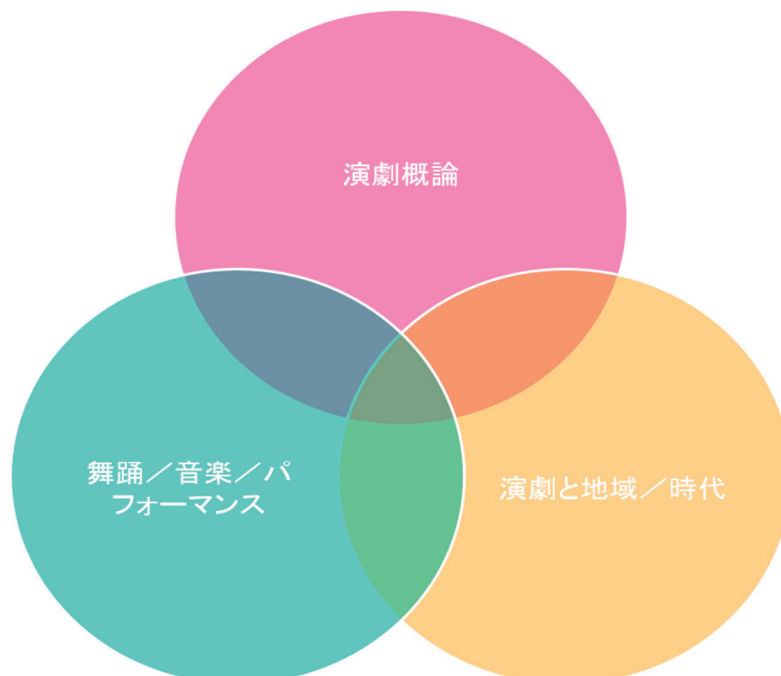
演劇／舞台芸術は、様々なジャンルを派生させながら、人類の歴史を通じて豊かなエンターテインメントや情報、生きる知恵をわれわれに与えてきた。何事にも効率性が重視され、ヴァーチャルな領域へとメディアが「発達」していく現代において、演劇／舞台芸術は、「ライブ」であることの魅力、人間同士の生身のコミュニケーションの重要性を実感できるものとして、むしろこの時代にかこ大きな役割を担っている。本副専攻は、演劇／舞台芸術が今を生きるわれわれにとってどのような意味を持っているのかを、過去から現在、様々な場所・地域で行われてきた実践を概観しながら学ぶ。

早稲田大学は本部キャンパスに演劇／舞台芸術研究の世界的中心である演劇博物館を擁する。本副専攻では、演劇博物館と連携して演博が蓄えてきた豊富な文化資源を学習に活用する。また本学は箇所をまたいで演劇／舞台芸術の研究に従事する教員が充実し、学内には数多くの演劇／舞台芸術を実践する学生サークル・劇団が存在する。GEC 設置と全学にまたがるオープン科目からなる指定科目は、きわめて広範囲の領域をカバーしている。その中には、実践／実技系の科目も多く含まれている点も特徴的である（たとえば能の実践科目では、能楽シテ方公式団体から感謝状が寄せられるなど、伝統演劇の普及にも貢献している）。戸山キャンパスの演劇映像コースとも連携し、演劇の実践と研究に関わる活動を共同で開催する。このように、「副専攻」として演劇／舞台芸術を学ぶコースとしては、早稲田大学以外にはまねの出来ないものである。

到達点（学習成果）

日本を含めた世界の演劇、代表的な作品、様々な舞台芸術ジャンル、演劇の構成要素、文化的背景などについて、幅広い知識・経験、批評眼を持つ。演劇／舞台芸術に関わるマネジメントや政策決定、教育などの分野に進むための十分な素養を身につけている。習得した知識を活かした、演劇／舞台芸術の実践活動を行うことができる。大学院で専門的に演劇／舞台芸術を学ぶための十分な知識を身につけている。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

演劇・舞台芸術は誰でも鑑賞することができ、また自分でやってみるのも決して不可能なことではありません。専門的な知識は鑑賞や実践を豊かなものにしますが、教養・たしなみ・純粹な楽しみ・コミュニケーションの手段として、舞台を学んだり実践したりする人もたくさんいます。つまり演劇・舞台芸術は、教養を身につけることを目標にする「副専攻」として学ぶのがもっともふさわしい分野だと言えます。学部を問わず多くの人たちに開かれた演劇・舞台芸術副専攻を通して、舞台の楽しさと奥深さを探求してほしいと思います。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：6 単位、領域・分野 b：6 単位、領域・分野 c：4 単位）以上

★領域・分野 a 「演劇概論」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	Drama and Society 01	1 年以上	2	
2	法学	演劇論 I（澤田）	1 年以上	2	
3	教育	舞台芸術入門 I	1 年以上	2	
4	教育	舞台芸術入門 II	1 年以上	2	
5	文	演劇研究入門	1 年以上	2	
6	グローバル	演劇の鑑賞と理解・演習（入門）	1 年以上	2	
7	グローバル	演劇の鑑賞と理解・演習（発展）	1 年以上	2	
8	グローバル	現代演劇と多文化主義（入門）（学部生用）	1 年以上	2	
9	グローバル	現代演劇と多文化主義（発展）（学部生用）	1 年以上	2	

★領域・分野 b 「演劇と地域／時代」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	国際教養	Selected Topics in Irish Studies	3 年以上	4	
2	国際教養	Selected Topics in Irish Studies 51	3 年以上	4	
3	国際教養	Contemporary Performing Arts 01	2 年以上	4	
4	国際教養	Contemporary Performing Arts	2 年以上	4	
5	文構	英米演劇の伝統と変容	2 年以上	2	
6	文構	英語圏文化研究 2	2 年以上	2	
7	文	中国伝統演劇概論	2 年以上	2	
8	文	ロシア芸術の現在 1	1 年以上	2	
9	文	ロシア芸術の現在 2	1 年以上	2	
10	文	日本演劇史 1	2 年以上	2	
11	文	日本演劇史 2	2 年以上	2	
12	文	西洋演劇 1	2 年以上	2	
13	文	西洋演劇 2	2 年以上	2	
14	グローバル	シェイクスピアと映像（学部生用）	1 年以上	2	

★領域・分野 c 「舞踊／音楽／パフォーマンス」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	文構	民族音楽論	1 年以上	2	
2	文構	パフォーマンス・スタディーズ	1 年以上	2	
3	文	舞踊史	2 年以上	2	
4	グローバル	アジアのフィジカルエクササイズ（カラリパヤット） 01	1 年以上	1	
5	グローバル	アジアのフィジカルエクササイズ（カラリパヤット） 02	1 年以上	1	
6	グローバル	ダンス・クリエイション 01	1 年以上	1	
7	グローバル	ダンス・パフォーマンス 01	1 年以上	1	
8	グローバル	バレエ 基礎 01	1 年以上	1	
9	グローバル	バレエ 基礎 02	1 年以上	1	
10	グローバル	バレエ 基礎 03	1 年以上	1	
11	グローバル	バレエ 基礎 04	1 年以上	1	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

設置概要

開発学は第二次世界大戦後に独立した途上国の貧困や低開発を克服するため、工業化、近代化論にもとづく経済学から始まった。しかし、グローバル化の進展にともなう都市―農村、貧富の格差、そして紛争やテロ、さらには環境の悪化と経済成長の限界という問題の指摘から、開発のパラダイムも経済だけでなく、学際的なアプローチが求められている。本学の実践に関するカリキュラムを俯瞰してみると、開発に関する数多くの科目が複数の学部にもまたがって設置されている。そこで、本副専攻では、本学で開発を学びたい学生が開発の変遷と多様なアクターおよび、開発の今日的課題について多角的に学習できるように、①「開発と NGO」、②「紛争と平和構築」、③「開発と環境」、の 3 つの領域を設けた。

①「開発と NGO」では政府の開発援助の変遷と経験を学ぶだけでなく、市民社会側からのアプローチとして開発における NGO について学ぶ。②「紛争と平和構築」は冷戦終結後の地域紛争やテロの増加に対して国連を中心に、問題解決を模索する、開発分野の中でも新しい領域である。学生は授業だけでなく「紛争解決実習 I～Ⅲ」などの実践科目の履修も奨励することで、世界の紛争や難民問題についてより実践的に考える力を身につけることもできる。③「開発と環境」は、今日の国際社会で SDGs が大きなテーマとなっていることからわかるように、開発を考える上で環境を考えることは必要不可欠である。したがって、地球環境というマクロ的視点から、環境人類学や地域・コミュニティや生態系といったミクロレベルの環境について視野を持つことができるように科目設置を工夫した。

到達点（学習成果）

以下の 5 点を到達目標とする。

- ①開発学についての様々なアプローチや問題点を理解できる（テーマやイシューから、開発学のどの領域のどのようなアプローチを中心に論じられているのか、自分で理解・解釈できるようになる）。
- ②日本の政府開発援助の変遷や国際協力における NGO の役割、開発における国家と市民社会の役割やアプローチの違いを理解できるようになる。
- ③今日の途上国における紛争解決に開発がどのように関連しているのか、位置づけ、理解できるようになる。
- ④環境問題についてマクロ・ミクロ的視点を養い、開発との関連について理解できるようになる。
- ⑤開発についての今日的課題を理解し、実習科目を通して問題解決方法について具体的かつ実践的に考える力を身につける。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

なぜ途上国は貧しいのだろうか？なぜ紛争はなくなるのだろうか？それに対して私たちはどうしたらよいのだろうか？ということに関心がある学生は多くいるのではないのでしょうか。また、将来 JICA や NGO、あるいは UNHCR などの国際機関で働きたいけど、どうしたら良いか、実現可能なことなのだろうか、とモヤモヤしているのではないのでしょうか。開発学はそうしたみなさんのためにある副専攻です。

早稲田では開発に関する学部やコースはありませんが、学部にもたがって開発を学ぶことができる科目があります。本副専攻は学部を越えて学際的かつ総合的に学べるように設置しました。開発は第二次世界大戦後に独立した途上国の近代化（工業化）を進め、貧困をなくすために始まりました。開発とは国際社会の平和と安定だけでなく、人々の暮らしにかかわる重要なテーマです。その一方で、今日では紛争解決のための平和構築、SDGs や持続可能な開発といった観点から開発をとらえなおすことが求められます。また、開発のアクターも政府、国際機関、NGO と多様です。本副専攻で開発についての様々なアプローチを学び、開発について理解を深め、将来開発にかかわることを人生の選択肢のひとつとして考えるきっかけになってもらえると嬉しいです。ぜひチャレンジしてみてください。

指定科目一覧

修了必要単位

18 単位（領域・分野 a：6 単位、領域・分野 b：6 単位、領域・分野 c：6 単位）以上

★領域・分野 a 「開発と NGO」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	社会学	国際 NGO 協力論	3 年以上	2	
2	社会学	国際開発制度論	3 年以上	2	
3	社会学	開発社会論	2 年以上	2	
4	社会学	Development Studies	1 年以上	2	
5	社会学	Critical Development Studies	1 年以上	2	
6	人科	NPO / NGO 論	1 年以上	2	
7	人科	国際保健医療協力論	1 年以上	2	
8	文構	市民活動論	1 年以上	2	
9	基幹	開発協力論	1 年以上	2	
10	基幹	開発文化論	2 年以上	2	

★領域・分野 b 「紛争と平和構築」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	地域研究（アフリカ）	3 年以上	2	
2	社会学	太平洋地域海洋国家研究	2 年以上	2	
3	社会学	国際関係論	2 年以上	2	
4	社会学	平和構築論	2 年以上	2	
5	社会学	紛争解決論実習 1	2 年以上	2	
6	社会学	紛争解決論実習 2	2 年以上	2	
7	社会学	平和学 I	2 年以上	2	
8	社会学	人間の安全保障論	3 年以上	2	
9	社会学	紛争解決論実習 3	2 年以上	2	
10	社会学	国際教育協力論	3 年以上	2	
11	社会学	平和学 II	2 年以上	2	
12	社会学	Japan and Peacebuilding : UN Policies	1 年以上	2	
13	社会学	Education and Development	2 年以上	2	
14	文構	平和・人権論	1 年以上	2	
15	文構	国際協力・人間の安全保障論	1 年以上	2	

★領域・分野 c 「開発と環境」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	社会学	環境社会学 1	2 年以上	2	
2	社会学	環境社会学 2	2 年以上	2	
3	人科	ヒトと陸上生態系	1 年以上	2	
4	人科	地域資源論	1 年以上	2	
5	人科	環境経済学	1 年以上	2	
6	人科	環境人類学	1 年以上	2	
7	文構	環境と人間	2 年以上	2	
8	グローバル	環境問題と持続可能な社会	1 年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

カーボンニュートラルリーダー

Net Zero Leader

設置概要

現在、地球温暖化に起因する気候変動は、世界中に大規模水害や熱波などの異常気象をもたらし、生態系に深刻な影響を与え、地球は存続の危機に直面しています。2018年、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、「1.5℃特別報告書」にて、地球温暖化を2℃ではなく1.5℃に抑制することによって、持続可能な開発の達成や貧困の撲滅等、様々な弊害を解決できる可能性を示唆しました。しかし、2021年8月、IPCCは、今後20年以内に気温上昇は1.5度に達する可能性があるとし、温暖化の原因は「人間の活動」によって排出された温室効果ガスであることについて「疑う余地がない」と強く断定しました。

2040年以降の気候変動を決めるのは、今後の脱炭素化が鍵になると言われており、カーボンニュートラルの実現へと力強く導く人材があらゆる業界・業種で求められています。早稲田大学では、2021年11月1日に、「Waseda Carbon Net Zero Challenge (<https://www.waseda.jp/netzero/>)」を宣言しました。この宣言において、とりわけ人材育成は最重要課題としており、本学学生が在学中はもちろん卒業後も、日本全国、世界各国で、またあらゆる業界で活躍しながら世界的な視野でカーボンニュートラルを推進できる人材育成プログラムを提供すべく、文系理系を超えた全学部生を対象とした教育プログラムを学際的副専攻として設置しました。

到達点（学習成果）

気候変動に関する国際的動向、カーボンニュートラルに寄与する技術の開発と社会実装、国内外のエネルギー事情など、カーボンニュートラルに直結する知識や情報を修得すると共に、環境経済や環境法令、資源循環など、カーボンニュートラルの根底にある「法律」「経済」「社会科学」「理工学」等の環境全般の基礎知識を併せて修得することによって、深度と奥行きのある思考力を備えたカーボンニュートラルリーダーとなることを到達点としています。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

早稲田大学では、人材育成・最先端研究力によるカーボンニュートラルへの貢献と同時に、大学のエネルギー利用やその他の事業活動についても、今後、カーボンニュートラルを達成していくことが求められています。都市型大規模キャンパスにおいて、カーボンニュートラルを達成していくことは容易なことではありません。本副専攻を履修した学生の皆さんには、知識の修得のみで終わらせるのではなく、是非、大学のカーボンニュートラル達成に対しても沢山のご提案をいただき、得られた知識を実践的に活用することを期待しています。皆さんと共に早稲田大学のカーボンニュートラルを達成していくことも本副専攻設置の目的のひとつです。

2024年度より、この副専攻を更に発展させ、大学院修士・博士課程向けの「[大学院分野横断型副専攻](#)」を設置しました。履修者自身の主専攻に加えて、ライフ、国際関係、経済・経営、人文・学際、公共政策といった副専攻での専門知識も修得することで、より幅広い実践的な視点からカーボンニュートラル社会の実現とウェルビーイングの向上に貢献できる高度大学院人材の育成を目指しています。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：4 単位以上、領域・分野 b：4 単位以上、領域・分野 c：4 単位以上）以上

★領域・分野 a 「法学・実践・学際」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	産業エコロジー 01	3 年以上	2	
2	法学	環境法 I	3 年以上	2	自学部優先科目
3	法学	環境法 II	3 年以上	2	自学部優先科目
4	社会学	環境社会学 1	2 年以上	2	
5	人科	環境社会学	1 年以上	2	
6	国際教養	Global Environmental Politics and Policies 51	3 年以上	4	
7	文構	環境変容と地域・都市の社会変動	1 年以上	2	
8	文構	グローバル・イシューとコミュニティ	2 年以上	2	
9	基幹	開発協力論	1 年以上	2	
10	グローバル	環境問題と持続可能な社会	1 年以上	2	
11	グローバル	再生可能エネルギーを地域から考える。	1 年以上	2	
12	グローバル	地域、環境、エネルギーを考える	1 年以上	2	

★領域・分野 b 「経済・経営系」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	国際公共政策 01	3 年以上	2	
2	政経	環境経済学 01	3 年以上	2	
3	政経	資源・食料経済学 01	3 年以上	2	
4	商学	Business in the Natural Environment 1	2 年以上	2	
5	社会学	環境の産業連関分析	2 年以上	2	
6	人科	地域資源論	1 年以上	2	
7	創造	環境資源経済論	2 年以上	2	
8	グローバル	EU 科学技術政策	1 年以上	2	
9	グローバル	環境イシューを再編集する	1 年以上	2	
10	グローバル	環境イシューを深く読み解く	1 年以上	2	
11	グローバル	カーボンニュートラルと社会（学部生用）	1 年以上	1	履修必須

★領域・分野 c 「理工学系」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	人科	環境行動学	1 年以上	2	
2	創造	建築環境学	3 年以上	2	
3	創造	広域環境論	3 年以上	2	
4	創造	環境工学	2 年以上	2	
5	創造	循環工学概論	2 年以上	2	
6	先進	電気エネルギーシステムと環境	3 年以上	2	
7	グローバル	環境科学基礎講座 1	1 年以上	1	
8	グローバル	環境科学基礎講座 2	1 年以上	1	
9	グローバル	世界資源エネルギー入門 01	1 年以上	2	
10	グローバル	世界資源エネルギー入門 02	1 年以上	2	
11	グローバル	カーボンニュートラル技術概論 α（学部生用）	1 年以上	1	履修必須
12	グローバル	カーボンニュートラル技術概論 β（学部生用）	1 年以上	1	履修必須

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

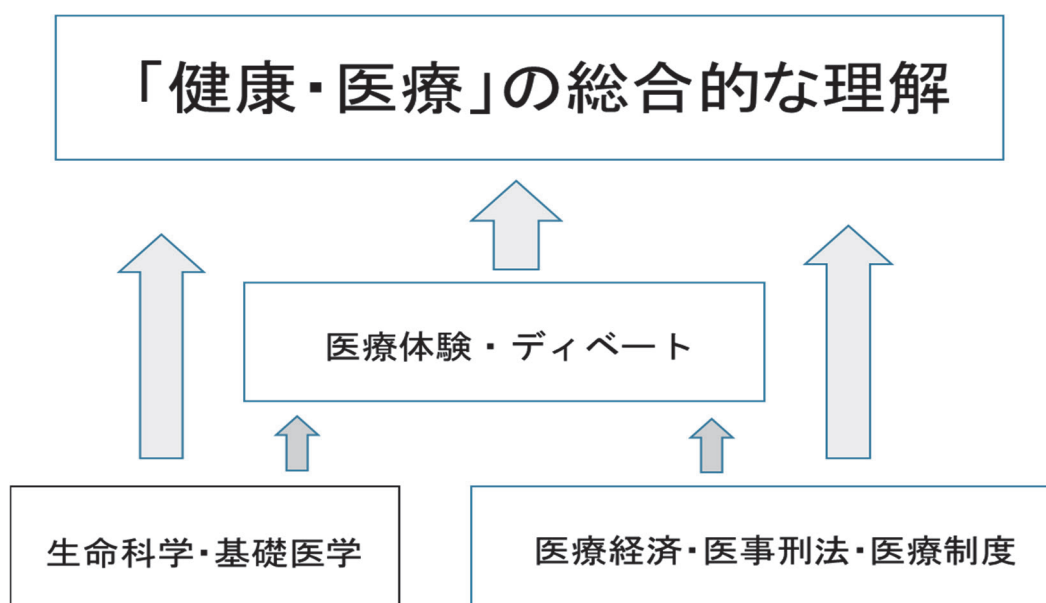
設置概要

健康・医療への人々の関心は高く、関連する業種も拡大している。医学部のない早稲田大学は、医師の育成は出来ないが、健康・医療に関わる行政、法律、経済、経営など人文社会系の人材や研究・開発に関わる医理工系人材の育成を行なうことにより、社会に貢献できる。総合大学として、健康・医療の専門的な教育のみならず、学部横断的に学際的に学生を教育することが、副専攻という制度を用いて実現可能である。これまで全学共通副専攻「健康・医療」でも、多くの学部にも所属する学部生が修了していることから、多くの学部からの履修者や修了生が期待できる。

到達点（学習成果）

学生の所属する学部教育で得られる専門的知識に加え、他学部特に人文・社会系の学生にとっては、健康・医療における生命科学や基礎医学の知識を、理工系の学生には、医療行政や医療経済、医療にかかわる法律、医療倫理などの知識を得ることにより、健康・医療の問題を多面的、俯瞰的に捉えることが出来ることが求められる。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

本副専攻では、健康・医療を理解する上で基礎となる生命科学、基礎医学と医療経済、医事刑法、医療制度などの講義科目を学び、「医療ボランティア実習」で医療を体験し、「ディベート科目」で、討論を交わすことを通じて、健康・医療について学際的、総合的に学べるよう科目を設置しています。将来、健康・医療の分野に就職したい方、この分野に関心を持ち、自身の研究テーマとしたい方などの参加を期待しています。健康・医療を人文社会学、生命科学の両面から学んだ人材は、“医療”の時代といわれる 21 世紀において待望されており、学生諸君にとっては新しいキャリアを形成する機会となります。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：10 単位、領域・分野 b：4 単位、領域・分野 c：2 単位）以上

★領域・分野 a 「生命科学・基礎医学」

修了必要単位：10 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	教育	環境の生物学	1 年以上	2	
2	教育	細胞機能の生物学	1 年以上	2	
3	人科	バイオエシックス	1 年以上	2	
4	人科	生命科学のための体のしくみと働き	1 年以上	2	
5	国際教養	Human Biology 51	2 年以上	4	
6	基幹	健康の生態学	2 年以上	2	
7	先進	薬理学 A	3 年以上	1	
8	グローバル	生命科学概論 01 ※ 1	1 年以上	2	
9	グローバル	生命科学概論 02 ※ 1	1 年以上	2	
10	グローバル	メンタルヘルスマネジメント概論	1 年以上	2	
11	グローバル	こころとからだの健康 1 01	1 年以上	1	
12	グローバル	こころとからだの健康 1 02	1 年以上	1	
13	グローバル	こころとからだの健康 2 01	1 年以上	1	
14	グローバル	こころとからだの健康 2 02	1 年以上	1	
15	グローバル	医学入門（東京女子医科大学）	2 年以上	2	

※ 1 基幹・創造・先進理工学部生は、「生命科学概論 A・B」（理工設置科目）を受講してください。

★領域・分野 b 「医療経済・医事刑法・医療制度」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	医療経済学 01	3 年以上	2	
2	法学	医事刑法	2 年以上	2	
3	社会学	医事法	1 年以上	2	
4	社会学	生命倫理と法 1（生命の始期に関わる諸問題）	3 年以上	2	
5	社会学	生命倫理と法 2（生命の終期に関わる諸問題）	3 年以上	2	
6	人科	保健福祉制度	1 年以上	2	
7	文構	応用倫理学	1 年以上	2	
8	文構	生命倫理	1 年以上	2	
9	先進	臨床医学概論	3 年以上	2	
10	グローバル	医療×AI・ビッグデータ・IoT（早稲田大学校友会支援講座）	1 年以上	1	
11	グローバル	医療×ビジネス・経済・経営（早稲田大学校友会支援講座）	1 年以上	1	
12	グローバル	医療×超高齢化社会・キャリアデザイン（早稲田大学校友会支援講座）	1 年以上	1	
13	グローバル	医療×行政・法・倫理（早稲田大学校友会支援講座）	1 年以上	1	

★領域・分野 c 「医療体験・ディベート」

修了必要単位：2 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	グローバル	先端ロボティクスと医療	1 年以上	2	
2	グローバル	ディベートで学ぶ現代医療最前線と医療問題	1 年以上	2	
3	グローバル	医療ボランティア実習 01	1 年以上	2	
4	グローバル	医療ボランティア実習 02	1 年以上	2	
5	グローバル	地域医療学概論	1 年以上	2	

※新型コロナウイルスの影響で実習等の実施が難しく、休講科目が多くなっております。本副専攻の修了をご希望の方は、科目の開講状況を十分確認してください。

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

ことばの科学

Science of Language

設置概要

早稲田大学において、言語を対象とした研究に関する科目が複数の箇所で開催されており、それらの多くがオープン科目となっている。それらをまとめ、互いに関連し合う科目の位置付けを示した上で、ひとつの副専攻として学生に提示する。

工学的な観点から言語を研究対象とした分野は計算言語学・自然言語処理（あるいは音声言語に特化した場合音声工学）と呼ばれ、いわゆる理系の学問として扱われている。一方で言語学は、形態論、統語論、音韻論、語用論、意味論などに細分化され、文系の学問として扱われている。また、自然言語処理、言語学の成果を応用して言語教育における問題を解決しようとする外国語教育という分野は、昨今、英語学習・教育に注目が集まる中、重要な分野となってきている。早稲田大学においては、ここで挙げたそれぞれの分野を単独で学ぶことが可能ではあるが、これらの分野が互いに関連していることは学生に明示されていない。個々の科目としては優れた内容の科目がすでに数多くオープン科目として提供されているため、これらの分野を科目群として提示することは、それぞれの分野に興味を持つ学生にとって有益である。例えば、現在の英語教育においては自然言語処理の成果を利用したさまざまな学習システムが利用されているが、外国語教育という分野では、これら学習システムがどのような技術に支えられているかを学ぶ機会はない。また、自然言語処理を学ぶ学生は、その技術が利用される外国語教育においてどのようなニーズがあるかを知らない。さらに、言語学を学ぶ学生は言語学の理論が自然言語処理においてどのように活用されているかを知る機会が少ない。本副専攻は、言語を対象とした研究に関する科目をひとつのまとまりとして学生に提示し、言語に関する研究をまったく知らない学生にとっては言語に関する研究の概要を理解できる学際的副専攻でありながら、計算言語学・自然言語処理、言語学、外国語教育を主専攻として学ぶ学生の視野を広げるという目的がある。

到達点（学習成果）

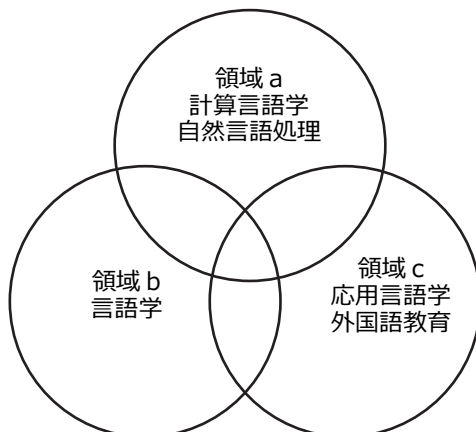
自然言語処理、言語学、応用言語学・外国語教育、それぞれの研究目的を理解し、受講者自らがこれら分野の相互関連性を見出せるような知識を身に付ける。多様な視点から言語を捉えることができる知識を身に付ける。また、自然言語処理、言語学、応用言語学・外国語教育のいずれかを主専攻として学ぶ学生は自らの主専攻を異なる視点から捉えることができるような知識、考え方を身に付ける。

カリキュラムマップ

本副専攻で対象とする言語に関する研究は言うまでもなくそれぞれが独立した分野ではない。計算言語学・自然言語処理における研究は伝統的な言語学の知見に基づいている。外国語教育・学習においては自然言語処理の研究成果が応用されたさまざまな語学支援システムが利用されている。言語学の成果が外国語教育・学習に応用されている例は枚挙にいとまがない。

下図に示すように、本副専攻が提供する科目は相互に関連しあっている。

本副専攻の特徴は、これらの分野の科目を同時に履修することで、単独の分野の科目を履修するだけでは得られない知見を受講者が得ることである。



履修を希望する学生へのメッセージ

自分を表現するため、他者を理解するための手段である「ことば」に関するさまざまな知識を身につけ、それらを自身の学習、研究に役立てて欲しいと思います。また、「ことば」に関する研究はいくつもの学問分野で行われており、「ことば」に対するアプローチがいかに多様であるかを理解することにより、さまざまな考えを取り入れ自ら考える機会を本副専攻が提供できればと思っています。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：6 単位、領域・分野 b：6 単位、領域・分野 c：4 単位）以上

★領域・分野 a 「計算言語学・自然言語処理」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	国際教養	Data and Social Media Analysis 51	3 年以上	4	
2	国際教養	Introduction to Digital Humanities 01	1 年以上	2	
3	国際教養	Python Programming for Digital Humanities 01	2 年以上	4	
4	文構	ことばの統計	1 年以上	2	
5	グローバル	言語学（形式意味論入門）	1 年以上	2	
6	グローバル	初めて学ぶ『言語と情報の脳科学』	1 年以上	2	
7	グローバル	初めて学ぶ『自然言語と人工知能』	1 年以上	2	
8	グローバル	文法理論入門 1	1 年以上	1	
9	グローバル	文法理論入門 2	1 年以上	1	
10	グローバル	学習者言語の分析（基礎）1	1 年以上	1	
11	グローバル	学習者言語の分析（基礎）2	1 年以上	1	
12	グローバル	学習者言語の分析（応用）1	1 年以上	1	
13	グローバル	学習者言語の分析（応用）2	1 年以上	1	

★領域・分野 b 「言語学」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	言語学 I B（武黒）	1 年以上	2	
2	法学	言語学 I A（首藤）	1 年以上	2	
3	法学	言語学 I D（乙黒）	1 年以上	2	
4	教育	音韻論	2 年以上	2	
5	教育	形態論	2 年以上	2	
6	教育	認知言語学	2 年以上	2	
7	教育	英語史研究 I	3 年以上	2	
8	教育	英語史研究 II	3 年以上	2	
9	国際教養	Acoustics and Auditory Phonetics	3 年以上	4	
10	文構	世界の言語と日本語	1 年以上	2	
11	文構	語用論入門	1 年以上	2	
12	文構	認知言語学入門	1 年以上	2	
13	文構	音から見ることばと文化	1 年以上	2	
14	グローバル	言語学（形態論）	1 年以上	2	
15	グローバル	言語学（言語類型論）	1 年以上	2	
16	グローバル	言語学（統語論・入門）	1 年以上	2	
17	グローバル	心理言語実験からみる比喩と思考 1	1 年以上	1	
18	グローバル	心理言語実験からみる比喩と思考 2	1 年以上	1	
19	グローバル	ことばを科学する 1	1 年以上	1	
20	グローバル	ことばを科学する 2	1 年以上	1	

★領域・分野 c 「応用言語学・外国語教育」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	言語学 I C（ストックウェル）	1 年以上	2	
2	法学	言語学 I E（星井）	1 年以上	2	
3	教育	Language and Society	2 年以上	2	
4	教育	Content and Language Integrated Learning	2 年以上	2	
5	教育	Bilingualism and Bilingual Education	2 年以上	2	
6	教育	Language Assessment for Classroom Teachers	2 年以上	2	
7	教育	Language, Culture and Cognition	2 年以上	2	
8	国際教養	English Phonetics and Phonology 01	2 年以上	2	
9	国際教養	Japanese Phonetics and Phonology 51	2 年以上	2	
10	文構	日本の英語教育	2 年以上	2	
11	文構	言語学入門	1 年以上	2	
12	グローバル	ことばのリサーチ	1 年以上	1	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

設置概要

近年、韓国発のドラマや音楽などが世界的な人気を集め、朝鮮半島の文化や社会、歴史への関心がこれまで以上に高まっています。「コリア研究」は、そうした関心を学問的に深め、韓国・朝鮮を多角的に探究するための副専攻です。

早稲田大学では、多くの学部で朝鮮語を学ぶことができ、多くの学生が日々その習得に励んでいます。しかし、学部によってはコリアに関する専門的な科目が十分に設置されていない場合もあり、せっかく身につけた朝鮮語を活かせる場が限られているのが現状です。

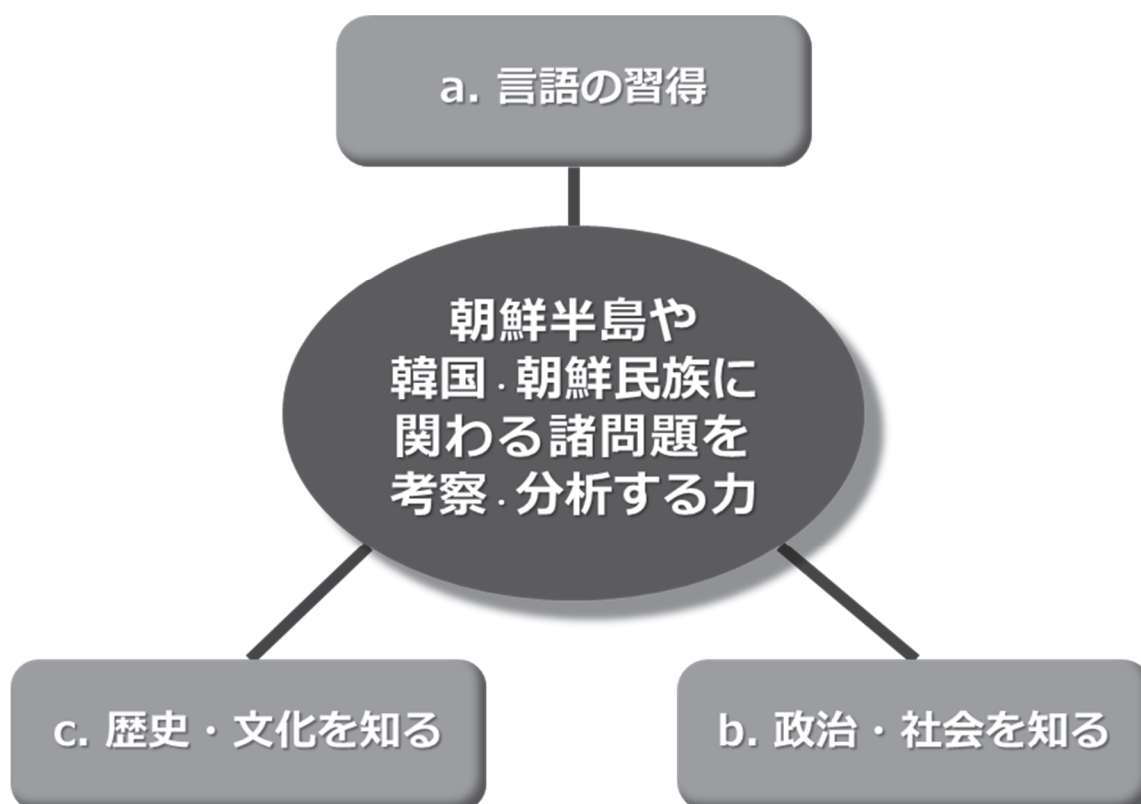
本副専攻では、政治・歴史・文学・言語など、各分野で韓国・朝鮮を研究する教員が最先端の研究成果をもとに授業を提供します。これにより、学生は朝鮮語の知識を活かしながら、韓国・朝鮮に対する専門的かつ包括的な理解を深めることができます。

「コリア研究」を通じて、韓国・朝鮮に対する専門知を習得し、広い視野から多角的に地域研究としてのコリア・スタディーズを体系的に学び、アジアと世界をつなぐ広い視野を身につけましょう。

到達点（学習成果）

朝鮮語の文献をもちいて、朝鮮半島および韓国・朝鮮民族の過去と現在に関わる歴史や文化等について、広い視野から多角的に分析し、自分の考えを述べられるようになることを目指します。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

外国語科目で朝鮮語を学んでいる皆さん、グローバル・エデュケーション・センターや学部で設置されている韓国、朝鮮関係の授業や演習で具体的な課題が見つけれられると、確実に朝鮮語を学ぶ意欲や楽しさが増していきます。その逆に、早稲田大学で開講されている韓国、朝鮮を主題にした様々な授業をきっかけに、朝鮮語を学習すると、その世界はますます広がり、深まっていくはずです。きっかけはどちらでもかまいません。コリア研究の担当教員は、皆さんの興味や関心を広げたり、深めたりするお手伝いをします。

指定科目一覧

※2026 年度以降の判定は、以下の新カリキュラムをもとに行います。

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：6 単位、領域・分野 b：6 単位、領域・分野 c：4 単位）以上

★領域・分野 a 「言語の習得」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	国際教養	国際教養学部提供朝鮮語科目			
2	文構・文	文化構想学部・文学部提供朝鮮語科目			
3	グローバル	グローバル・エデュケーション・センター提供朝鮮語科目			

★領域・分野 b 「政治・社会を知る」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	地域研究（韓国）	3 年以上	2	2025 年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
2	国際教養	APM- Realist Literature in Korea(in English) 01	1 年以上	2	
3	国際教養	APM- Realist Literature in Korea(in English) 51	1 年以上	2	
4	国際教養	APM- Understanding the Korean Democracy Movement (in English and Korean) 01	2 年以上	2	
5	国際教養	APM- Understanding the Korean Democracy Movement (in English and Korean) 51	2 年以上	2	
6	国際教養	APM- A Critical Understanding of Korean Society through the Lens of Sexuality (in English) 01	2 年以上	2	2025 年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
7	国際教養	APM- A Critical Understanding of Korean Society through the Lens of Sexuality (in English) 51	2 年以上	2	2025 年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
8	国際教養	APM- Building Nation States in Two Koreas after Colonialism (In English and Korean) 51	3 年以上	2	2025 年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
9	文構	エスニシティ・ナショナリズム論	1 年以上	2	2025 年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
10	文構	トランスナショナル関係論	1 年以上	2	2025 年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
11	文構	国際協力・人間の安全保障論	1 年以上	2	2025 年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
12	グローバル	現代韓国・北朝鮮研究入門 1	1 年以上	1	
13	グローバル	現代韓国・北朝鮮研究入門 2	1 年以上	1	
14	グローバル	近現代朝鮮社会史 1	1 年以上	1	2025 年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
15	グローバル	近現代朝鮮社会史 2	1 年以上	1	2025 年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
16	グローバル	海外・在日コリアンを考える	1 年以上	2	

★領域・分野 c 「歴史・文化を知る」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	国際教養	APM- Recent Approaches to Korean Culture and Society (in Korean) 01	3 年以上	2	
2	国際教養	APM- Recent Approaches to Korean Culture and Society (in Korean) 51	3 年以上	2	
3	文	近代日本社会論	1 年以上	2	
4	文	アジア史特殊講義 2（朝鮮前近代史）	2 年以上	2	
5	文	朝鮮近現代史	2 年以上	2	
6	文	アジア史概論 1	2 年以上	2	
7	グローバル	朝鮮半島の文化と社会（入門）	1 年以上	2	
8	グローバル	近現代朝鮮文化史 1	1 年以上	1	
9	グローバル	近現代朝鮮文化史 2	1 年以上	1	
10	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（入門） 1	1 年以上	1	
11	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（入門） 2	1 年以上	1	
12	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（応用） 1	1 年以上	1	2025 年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 c として扱います。
13	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（応用） 2	1 年以上	1	2025 年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 c として扱います。

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせをご確認ください。

ジェンダー研究

Gender Studies

設置概要

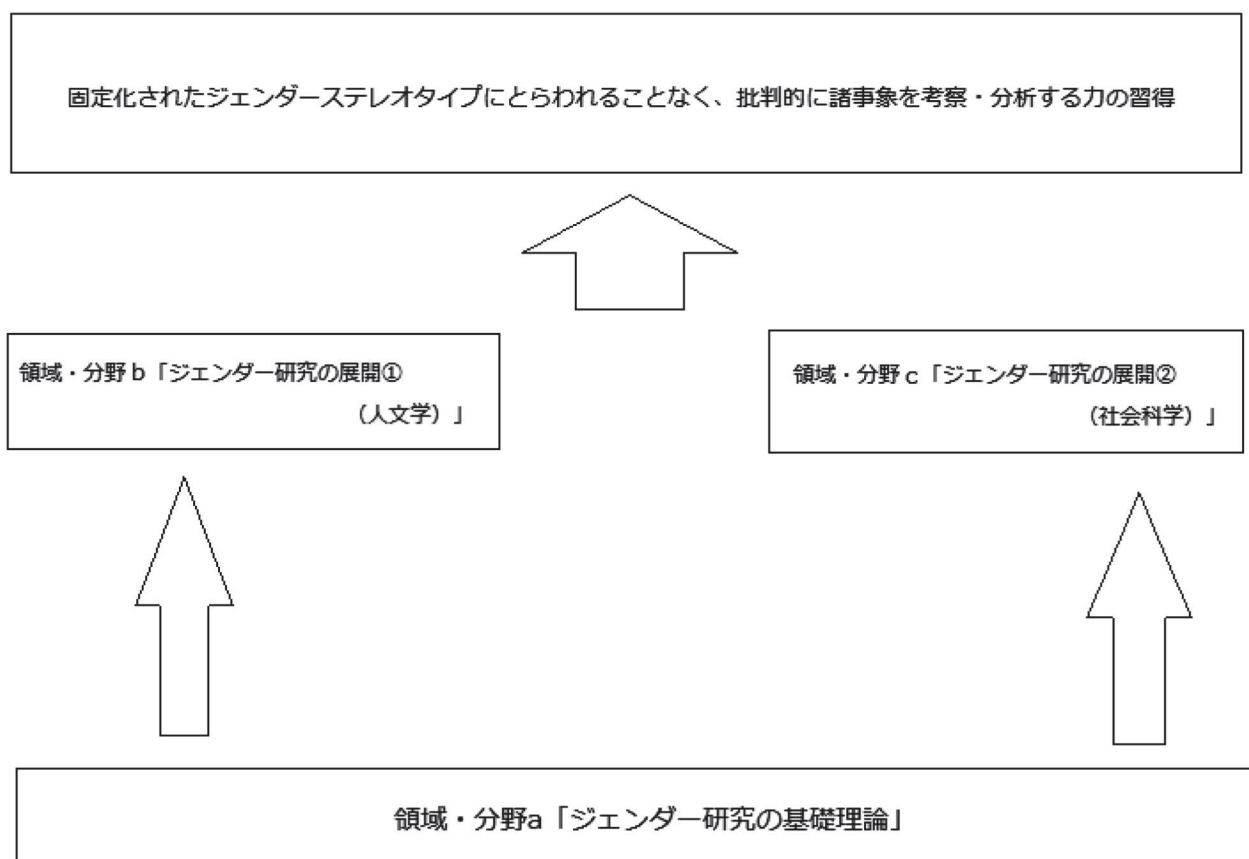
「ジェンダーの主流化」が国際的な共通課題である時代、ジェンダーの視点を備えていることは、国内外で活躍する理性的な市民として不可欠なことである。

早稲田大学は、社会科学、人文科学、理工系の学部を備える総合大学である。学生たちは、各専門領域においてその専門性を高めることはもとより、ジェンダーの分析視点を習得し、ジェンダーに関する課題を深く学ぶことで、質の高い知性と感受性を備え、ダイバーシティや社会的正義を重んじる社会人へと成長する。20年以上、活動が続いている早稲田大学ジェンダー研究所のメンバーを中心として、早稲田大学にはこうした視点から研究・教育を行っている教員が、多様な学部にあたって所属している。学際的副専攻として設置することで、これらの豊かな研究蓄積を学部の垣根にこだわらず広く学生たちに提供し、早稲田大学のジェンダー教育をいっそう充実させることになる。

到達点（学習成果）

ジェンダーやセクシュアリティの問題に関心を持つ学生たちが、法律や文学、社会学、教育学等の多様な学問領域において、伝統的な価値観や固定観念にとらわれることなく、批判的に諸事象を考察・分析する力を習得する。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

これまで、ジェンダーについて学んだことはありますか？

大学だからこそ、ジェンダーについて総合的に学び、とことん議論をすることが可能です。「社会に出る前に知っておくべきこと、考えておくべきこと」が当副専攻にはあふれています。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：8 単位、領域・分野 b：4 単位、領域・分野 c：4 単位）以上

★領域・分野 a 「ジェンダー研究の基礎理論」

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	ジェンダー論Ⅰ B（金）	1 年以上	2	
2	法学	ジェンダー論Ⅰ A（月）	1 年以上	2	
3	教育	ジェンダー・スタディーズⅠ（身近なことを視座にして）	1 年以上	2	
4	人科	ジェンダー論	1 年以上	2	
5	文構	クィア・スタディーズ入門	1 年以上	2	
6	文構	グローバル化とジェンダー	1 年以上	2	
7	文構	ジェンダー論	1 年以上	2	
8	文	ダイバーシティ教育実践のデザイン	2 年以上	2	
9	グローバル	ダイバーシティを学ぶ	1 年以上	1	
10	グローバル	ジェンダーを考える 1	1 年以上	1	
11	グローバル	ジェンダーを考える 2	1 年以上	1	
12	グローバル	ウーマン・キャリアクリエイト講座	1 年以上	2	
13	グローバル	女性・しごと・ライフデザインα	1 年以上	1	
14	グローバル	女性・しごと・ライフデザインβ	1 年以上	1	
15	グローバル	ジェンダーと教育 1	1 年以上	1	
16	グローバル	ジェンダーと教育 2	1 年以上	1	

★領域・分野 b 「ジェンダー研究の展開①（人文学）」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	アカデミックリテラシー演習（ジェンダーの視点から見たフランス社会） 01	2 年以上	2	
2	法学	English: Advanced 3（春）	3 年以上	1	
3	教育	ジェンダー・スタディーズⅡ（文学を視座にして）	1 年以上	2	
4	教育	女性史	1 年以上	2	
5	教育	英語文学講読Ⅴ	1 年以上	2	
6	社会学	Women in Modern Japan: Outside Encounters and Early Changes	1 年以上	2	
7	文構	ジェンダーとイメージ	2 年以上	2	文／文構生のみ履修可。
8	文構	文学とジェンダー 1	1 年以上	2	
9	文構	文学とジェンダー 2	1 年以上	2	
10	グローバル	英米文学とジェンダー 1	1 年以上	1	
11	グローバル	英米文学とジェンダー 2	1 年以上	1	

★領域・分野 c 「ジェンダー研究の展開②（社会科学）」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	ジェンダーと法Ⅰ	3 年以上	2	
2	法学	ジェンダーと法Ⅱ	3 年以上	2	
3	教育	青少年教育論	1 年以上	2	
4	商学	ジェンダー社会学のアプローチ 1	1 年以上	2	
5	商学	文化人類学と文化 1	1 年以上	2	
6	商学	家族社会学のアプローチ 1	1 年以上	2	
7	社会学	社会科学総合研究（ジェンダーとセクシュアリティ）	3 年以上	2	
8	社会学	ジェンダーの社会学 1	1 年以上	2	社会科学部生のみ履修可。
9	社会学	ジェンダーの社会学 2	2 年以上	2	社会科学部生のみ履修可。
10	文構	アジアのジェンダーとセクシュアリティ	1 年以上	2	
11	文構	セクシュアリティの社会学	1 年以上	2	
12	文構	性暴力の社会学	1 年以上	2	
13	文構	グローバル時代の戦争とジェンダー	2 年以上	2	
14	文	教育とジェンダー	2 年以上	2	
15	グローバル	LGBTQ+をめぐる法と社会	1 年以上	1	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

社会貢献とボランティア

Social Contribution and Volunteering

設置概要

「ボランティアをやってみたい」「誰かのためになりたい」「世界をもっとよくしたい」、そんな想いをみなさんはもっているのではないのでしょうか。

「でも、どうしたらいいかわからない」「どこからはじめていいかわからない」と思っている人も同様に多いでしょう。

また、「けっきょく偽善じゃないか」「自己満足じゃないか」「自分がやっても社会は変わらない」というためらいを感じている人もいるかもしれません。

本副専攻では、そういったみなさんが、それぞれの興味・関心に応じた分野から社会貢献やボランティアについて学び、実際に社会問題の現場で当事者と接し、よりよい社会への変革に向けて実際に行動する機会を提供します。

みなさんは、科目をとおして、これまでの「学校」や「サークル」といった同年代に閉じられた人間関係やコミュニティとは異なる、新しい世界を体験することになるでしょう。それは、海外の現場はもちろんのこと、日本国内の現場でもあります。その中で、自分とは異なる多様な価値観に接し、時にはぶつかりながら、そしてそれを乗り越えて問題解決に取り組み、社会に貢献する力を養います。

本副専攻の特色は、「現場で体験する」だけではなく、その先に必要となる「体験を言語化する力」も同時に身につけていきます。必修科目である「体験の言語化」をはじめとした領域a「体験し言語化する実践科目」を受講することで、「体験・思考を言語化し、他者に伝える力」（コミュニケーション力）を身につけます。それは、単に「自分の体験」を伝えるだけではなく、ボランティア活動をつうじて「相手を理解する力」を養った上で可能になる、「相手を想像しながらのコミュニケーション力」となるでしょう。

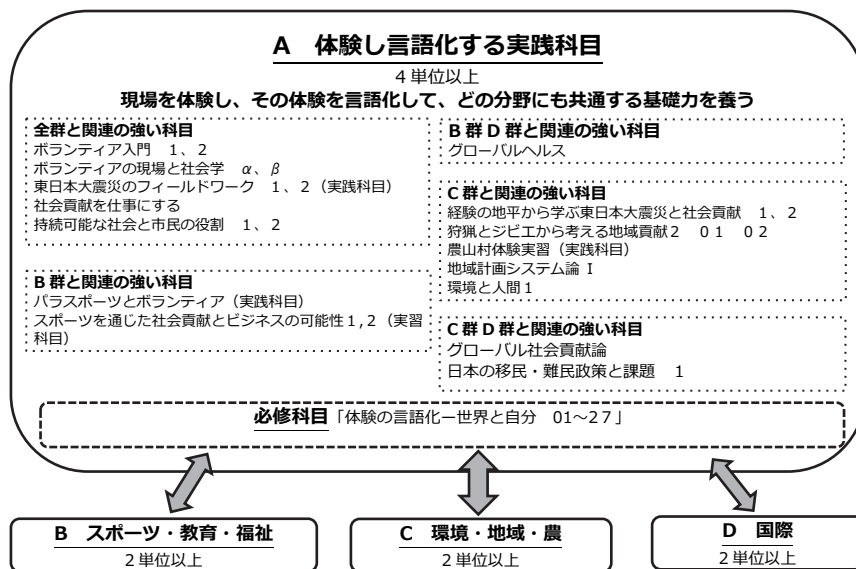
また、領域b「スポーツ・教育・福祉」、領域c「環境・地域・農」、領域d「国際」は、領域aで体験的に学んだ内容を、より抽象的な学術的理解につなげる科目群です。あるいはその逆で、領域bcdで知識として学んだ内容を、領域aの科目の現場で実践を試みてもよいです。社会問題は、多様な分野にまたがった要因が、複雑にからみあって生じています。その根本的な原因を追究し、改善方法を発想するには、学際的な視点が不可欠です。領域bcdを、「ボランティア」「社会貢献」というキーワードで横断しながら科目を履修することによって、学際的な視点を身につけることができるでしょう。

＜本副専攻は、平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）が運営しています＞

到達点（学習成果）

- 1) 社会問題の改善に向けて主体的に行動する力が身につく
- 2) 社会問題を構造的に分析する力が身につく
- 3) 自己満足を越えて、社会とつながるボランティアを構想できる
- 4) 相手（当事者、支援される側）を想像しながらコミュニケーションする力が身につく

カリキュラムマップ



BCDの多様な分野を学ぶことで、ボランティアに必要な「現場を多角的に理解する力」を養う。

履修を希望する学生へのメッセージ

まだボランティアに取り組んでいない人は、「ボランティアって、自己満じゃないか」「意識高い系って思われそう」と思うかもしれませんが、すでに取り組んできた人は、「ボランティアを続けてきたけど、そこで起きている問題を解決できる方法が見つからない」という壁を感じているかもしれません。

そんな「もどかしさ」を抱えているみなさん、本副専攻の中で、自分なりの指針や行動するための方向性を見いだしてください。この副専攻で身につける力は、社会貢献やボランティア活動のみならず、卒業後の社会生活の中でもみなさんを支えることでしょう。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：4 単位以上、領域・分野 b：2 単位以上、領域・分野 c：2 単位以上、領域・分野 d：2 単位以上）以上

★領域・分野 a 「体験し言語化する実践科目」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	グローバル	グローバルヘルス	1 年以上	2	
2	グローバル	医療×超高齢社会・キャリアデザイン（早稲田大学校友会支援講座）	1 年以上	1	
3	グローバル	震災後を考える	1 年以上	1	
4	グローバル	ボランティア入門 1 01	1 年以上	1	
5	グローバル	ボランティア入門 1 02	1 年以上	1	
6	グローバル	ボランティア入門 2	1 年以上	1	
7	グローバル	ボランティアの現場と社会学 α	1 年以上	1	
8	グローバル	ボランティアの現場と社会学 β	1 年以上	1	
9	グローバル	経験の地平から学ぶ東日本大震災と社会貢献 1	1 年以上	1	
10	グローバル	経験の地平から学ぶ東日本大震災と社会貢献 2	1 年以上	1	
11	グローバル	狩猟とジビエから考える地域貢献 2 01	1 年以上	2	
12	グローバル	狩猟とジビエから考える地域貢献 2 02	1 年以上	2	
13	グローバル	農山村体験実習	1 年以上	2	
14	グローバル	バラスーツとボランティア	1 年以上	2	
15	グローバル	東日本大震災のフィールドワーク 1	1 年以上	1	
16	グローバル	東日本大震災のフィールドワーク 2	1 年以上	3	
17	グローバル	スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性 1	1 年以上	1	
18	グローバル	スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性 2	1 年以上	3	
19	グローバル	体験の言語化―世界と自分 01～27	1 年以上	1	いずれか 1 クラスを履修必須

★領域・分野 b 「スポーツ・教育・福祉」

修了必要単位：2 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	ジェンダーと法 I	3 年以上	2	
2	法学	ジェンダーと法 II	3 年以上	2	
3	教育	教育福祉論	1 年以上	2	
4	教育	NPO・NGO 論とボランティア	1 年以上	2	
5	人科	NPO/NGO 論	1 年以上	2	
6	スポーツ	スポーツボランティア	1 年以上	2	
7	スポーツ	スポーツ心理学	2 年以上	2	
8	スポーツ	スポーツ文化論	1 年以上	2	
9	スポーツ	スポーツ産業論	2 年以上	2	
10	スポーツ	コーチング心理学	2 年以上	2	
12	文構	ソーシャルワーク概論	1 年以上	2	
13	文構	障害と自立生活	1 年以上	2	
14	文構	市民活動論	1 年以上	2	
15	グローバル	持続可能な社会と市民の役割 1	1 年以上	1	
16	グローバル	持続可能な社会と市民の役割 2	1 年以上	1	
17	グローバル	女性・しごと・ライフデザイン α	1 年以上	1	
18	グローバル	女性・しごと・ライフデザイン β	1 年以上	1	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

★領域・分野 c 「環境・地域・農」

修了必要単位：2 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	商学	株式会社日本 M&A センター寄附講座 起業家養成講座 I 1	1 年以上	2	
2	社会学	コミュニティデザイン	1 年以上	2	
3	社会学	環境表現論 I	1 年以上	2	
4	社会学	地域計画システム論 I	2 年以上	2	
5	人科	環境社会学	1 年以上	2	
6	文構	環境と人間	2 年以上	2	
7	文構	環境変容と地域・都市の社会変動	1 年以上	2	
8	グローバル	環境問題と持続可能な社会	1 年以上	2	
9	グローバル	再生可能エネルギーを地域から考える。	1 年以上	2	
10	グローバル	地域、環境、エネルギーを考える	1 年以上	2	
11	グローバル	食と経済 講義	1 年以上	1	
12	グローバル	協同組合論	1 年以上	2	
13	グローバル	食と経済 演習	1 年以上	1	
14	グローバル	狩猟とジビエから考える地域貢献 1	1 年以上	1	

★領域・分野 d 「国際」

修了必要単位：2 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	国際社会と法	1 年以上	2	
2	法学	地域研究（アフリカ）	3 年以上	2	
3	社会学	国際 N G O 協力論	3 年以上	2	
4	社会学	平和構築論	2 年以上	2	
5	社会学	Politics in Modern Japan	1 年以上	2	
6	社会学	Contemporary Japanese Foreign Policy	1 年以上	2	
7	人科	アジア地域研究	1 年以上	2	
8	国際教養	Introduction to Urban Studies 01	1 年以上	2	
9	文構	グローバル社会と教育	2 年以上	2	
10	グローバル	グローバル社会貢献論	1 年以上	1	
11	グローバル	日本の移民・難民政策と課題 1	1 年以上	1	
12	グローバル	日本の移民・難民政策と課題 2	1 年以上	1	
13	グローバル	文化遺産と保全 1	1 年以上	1	
14	グローバル	文化遺産と保全 2	1 年以上	1	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

MEMO

履全
修学
ガ副
イ専
ド攻

ジャーナリズムとメディア表現

Journalism and Media Practice

設置概要

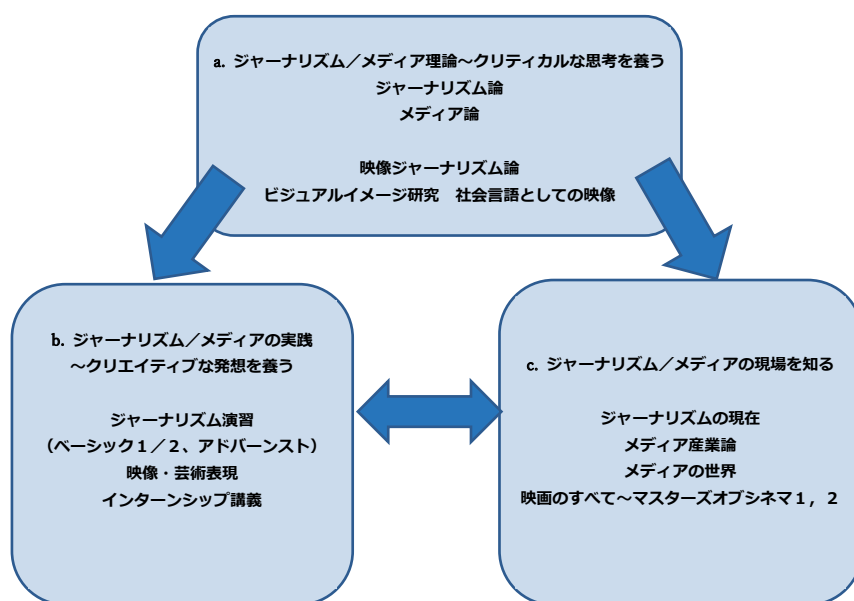
現在、ジャーナリズムは危機の時代を迎えています。権力を掌握する人物が根拠のない発言をする、自己の主張に合わない意見を退ける、多様な価値観を認めないなど閉塞的な状況が世界中で見られ、真実が犠牲になる「ポスト真実」の時代といわれています。マスメディアはこれまで、ニュースのゲート・キーパー（門番）として、出来事を発見し、解釈し、発信してきましたが、テクノロジーが発達し、あらゆる情報がネットを通して入手できる今日、私たちはマスメディアから発信される情報を待つのではなく、それぞれの都合に合った時間に自由に情報を入手します。情報をコントロールする主体がメディアから市民へ移行するパラダイムシフトが起きようとしている今、ジャーナリズムは従来の一方通行的な情報提供から、双方向的な対話型へと変換を迫られています。しかし、テクノロジーが発達し、ジャーナリズムの表現形式が変わろうとしても、「公共性」「公平性」「正確性」などのジャーナリズムの使命には変化はありません。むしろ、フェイクニュースといわれる誤報、ねつ造、誇張、プロパガンダがネット上に流布される時代だからこそ、ジャーナリストを志す人だけでなく、メディアの発信者となり得るすべての人がジャーナリズムについて考え、学ぶことが重要です。カリキュラムは、クリティカルな思考を養う領域（a）、実践活動からクリエイティブな発想を養う領域（b）、新聞記者、テレビディレクター、メディア・プランナーの経験知からメディアの生産、経営、流通、テクノロジーなどの報道の現場を知る領域（c）から構成されています。

到達点（学習成果）

- ・ジャーナリズムとは何か、ジャーナリストの役割や使命はどのようなものか、ジャーナリズムはどのように変わろうとしているかについて十分に考察し、理解できる。
- ・メディアが発信する情報や現実をクリティカルかつ多角的に見ることができる。
- ・取材や映像作品の制作などの実践を体験することで、メディアを主体的に活用できるようになる。
- ・メディア作品の鑑賞やメディア制作のためのディスカッションを通して、コミュニケーション力を養うことができる。

カリキュラムマップ

領域相関図



履修を希望する学生へのメッセージ

将来、ジャーナリストを志す人、メディア産業に関心がある人、メディアを通じて発信を試みたい人、社会で起きていることに関心を持ち、より良い社会を形成したいと考えている人を歓迎します。主体的に授業に参加することを期待します。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：6 単位 領域・分野 b：6 単位 領域・分野 c：4 単位）以上

★領域・分野 a 「ジャーナリズム／メディア理論～クリティカルな思考を養う」 修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	メディア論 01	3 年以上	2	
2	政経	メディア・コミュニケーション史 01	2 年以上	2	
3	政経	映像ジャーナリズム論 01	2 年以上	2	
4	教育	ジャーナリズム論	1 年以上	2	
5	社会学	社会デザインの思考と技法 3（社会言語としての写真・映像）	2 年以上	2	
6	社会学	ヴィジュアルイメージ研究	2 年以上	4	
7	グローバル	映像史（理論） ※ 1	1 年以上	2	
8	グローバル	映像史（社会・歴史） ※ 1	1 年以上	2	

※ 1 基幹・創造・先進理工学部生は、理工設置科目を受講してください。

★領域・分野 b 「ジャーナリズム／メディアの実践～クリエイティブな発想を養う」 修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	グローバル	視覚文化研究のための写真入門 1	1 年以上	2	
2	グローバル	視覚文化研究のための写真入門 2	1 年以上	2	
3	グローバル	映像・芸術表現	1 年以上	2	
4	グローバル	ジャーナリズム演習 ベーシック 1	1 年以上	2	
5	グローバル	ジャーナリズム演習 ベーシック 2	1 年以上	2	
6	グローバル	ジャーナリズム演習 アドバンスド	2 年以上	2	
7	グローバル	インターンシップ入門	1 年以上	1	

★領域・分野 c 「ジャーナリズム／メディアの現場を知る」 修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	メディア産業論 01	3 年以上	2	
2	政経	メディアの世界 01	1 年以上	2	
3	基幹	奇想のテレビドキュメンタリー論	2 年以上	2	
4	グローバル	プロデュース概論 ※ 1	1 年以上	1	
5	グローバル	ジャーナリズムの現在（石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞記念講座）	1 年以上	1	
6	グローバル	スポーツジャーナリズム論 1（大久保建男スポーツジャーナリズム講座）	1 年以上	1	
7	グローバル	スポーツジャーナリズム論 2（大久保建男スポーツジャーナリズム講座）	1 年以上	1	
8	グローバル	映画のすべて マスターズ・オブ・シネマ 1 ※ 1	1 年以上	1	
9	グローバル	映画のすべて マスターズ・オブ・シネマ 2 ※ 1	1 年以上	1	

※ 1 基幹・創造・先進理工学部生は、理工設置科目を受講してください。

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

設置概要

「台湾研究」は、「地域研究」という学問領域の一分野である。台湾という地域は、地理的には、日本の沖縄県南方、西太平洋海上交通路の中央に位置し、台湾海峡を挟んで中国大陆と向かい合っている。民族的には、本来、オーストロネシア語族に属する先住民族の居住地であったが、現代に到るまで、オランダ、清朝、日本、中華民国という様々な政権により統治されてきた。そのため政治的・経済的・文化的に多面的な発展を遂げてきたことが、台湾社会の特徴の一つと考えられる。このような地理的・民族的・歴史的事情は、台湾という地域に、学際的な (interdisciplinary) 地域研究 (area studies) の対象の一つにふさわしい濃厚な個性を付与している。また、現今の国際社会における台湾とは「国家承認されていない国民国家」という特殊性を有している。さらに近年は、アジア初の同性婚法や、「原住民族」のコミュニティや文化の保存発展をめざすプログラムなど、人権・民主主義に関連した先進的取り組みについても注目が集まっている。

このような、日本の身近に存在しつつも複雑で個性的な存在である台湾を考えることは、日本と東アジアとの関係を理解する上でも、従来私たちが慣れ親しんできた国際社会や国家という概念を再考する上でも、日本という国家・社会を反省的に振り返るためにも、きわめて有意義である。上記の趣旨をふまえ、本学では、2003年より、早稲田大学台湾研究所を立ち上げ、様々な研究プロジェクトを実践するほか、日本初の台湾研究のプログラムとして、本学で学ぶ学部学生を対象に「台湾テーマスタディ」を運営するなど、教育面でも積極的に活動してきた。本副専攻は、「台湾テーマスタディ」での経験・内容を継承しつつ、多様な科目群よりなる体系化されたカリキュラムを通じて、「台湾研究」の面白さを受講生に伝えたい。

到達点 (学習成果)

受講生は、本副専攻で提供される多彩な講義・演習科目および中国語学科目および英語で開講される専門科目の履修に加えて、フィールドワークや学生交流、研究会や読書会などの様々な課外活動への参加機会の提供を通じて、台湾に関する幅広い専門知識を身に着けると同時に、中国語および英語についても一定のコミュニケーション力の習得を到達点として設定する。また本副専攻では、通常の学部カリキュラムと異なり「台湾」という研究対象を軸としながら、文学、歴史学、経済学、政治学、国際関係論、地域研究、語学など、多岐にわたるディシプリンを学際的に学び、多言語運用力を涵養しながら、グローバルな視点に立った台湾研究の在り方・学問の奥深さ、面白さを理解してもらうことを目指す。

カリキュラムマップ

「東アジア地域から見た台湾」を幅広く学ぶため、本学際副専攻では、学内で開講している台湾をはじめとする関連の科目を有機的に連動させ、受講生が自身のレベルにあわせて、台湾および東アジア地域に対する理解を深めることを目指している。そのために通常の講義科目に加え、語学の学習プログラムや台湾研究所の協力の下、講演会、シンポジウム、現地調査などへの参加も一部可能にし、受講生の理解を促進していきたい。具体的な科目配置及び関連図は下記の通りである。

＜領域・分野 a「社会・文化」(旧:「複合領域」) 科目群＞

東アジア論 01、台湾を知る (入門/発展)、中国総合講座 (入門/発展)、

台湾現代文化研究 (1/2)、文学 ID、グローバリゼーションと性、エスニシティ論、早稲田大学と近代台湾

＜領域・分野 b「歴史」(旧:「歴史学」) 科目群＞

帝国思想と台湾 (1/2)、台湾通史 (近世) (1/2)、台湾通史 (近現代) (1/2)、日本政治思想史 01、

歴史学 (日中関係史) (1/2)、Japanese Political Thought A 01/B 01、東洋史 I

＜領域・分野 c「現代政治経済・国際関係」(旧:「国際関係」) 科目群＞

台湾政治研究 (1/2)、台湾をめぐる戦後東アジア国際関係史、東アジアの比較政治 01、

国際協力・人間の安全保障、台湾経済概論 (1/2)、Introduction to Taiwanese History、

国際関係論入門 01、Introduction to International Relations 01、Japanese Political History 01

地域研究としての台湾 (01/02)

＜領域分野 d「中国語」(旧:「語学」) 科目群＞

海外語学・文化研修プログラム (春季/夏季)、中国の社会 α/β

各学部・グローバル・エデュケーション・センター提供中国語科目/外国語 (中国語) 購読科目



指定科目一覧

修了必要単位

18 単位（領域・分野 a：6 単位 領域・分野 b：6 単位 領域・分野 c：4 単位 領域・分野 d：2 単位）以上

★領域・分野 a 「社会・文化」（旧：「複合領域」）

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	東アジア論 01	3 年以上	2	
2	文構	グローバルゼーションと性	1 年以上	2	
3	文構	エスニシティ論	1 年以上	2	
4	グローバル	台湾を知る（入門）	1 年以上	2	
5	グローバル	台湾を知る（発展）	1 年以上	2	
6	グローバル	中国総合講座（入門）	1 年以上	2	
7	グローバル	中国総合講座（発展）	1 年以上	2	
8	グローバル	早稲田大学と近代中国	1 年以上	2	

★領域・分野 b 「歴史」（旧：「歴史学」）

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	日本政治思想史 01	2 年以上	4	
2	政経	Japanese Political Thought A 01	2 年以上	2	
3	政経	Japanese Political Thought B 01	2 年以上	2	
4	法学	東洋史 I（張）	1 年以上	2	
5	社会学	歴史学（日中関係史）1	1 年以上	2	
6	社会学	歴史学（日中関係史）2	2 年以上	2	
7	グローバル	台湾通史（近世）1	1 年以上	1	
8	グローバル	台湾通史（近世）2	1 年以上	1	
9	グローバル	台湾通史（近現代）1	1 年以上	1	
10	グローバル	台湾通史（近現代）2	1 年以上	1	
11	グローバル	帝国思想と台湾 1	1 年以上	1	
12	グローバル	帝国思想と台湾 2	1 年以上	1	

★領域・分野 c 「現代政治経済・国際関係」（旧：「国際関係」）

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	東アジアの比較政治 01	2 年以上	2	
2	政経	国際関係論入門 01	1 年以上	2	
3	政経	Japanese Political History 01	2 年以上	2	
4	政経	Introduction to International Relations 01	1 年以上	2	
5	文構	国際協力・人間の安全保障論	1 年以上	2	
6	グローバル	Introduction to Taiwanese History	1 年以上	2	
7	グローバル	台湾をめぐる戦後東アジア国際関係史	1 年以上	2	
8	グローバル	台湾政治研究 1	1 年以上	1	
9	グローバル	台湾政治研究 2	1 年以上	1	
10	グローバル	地域研究としての台湾 1	1 年以上	1	
11	グローバル	地域研究としての台湾 2	1 年以上	1	

★領域・分野 d 「中国語」（旧：「語学」）

修了必要単位：2 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	各学部・グローバル	各学部・グローバル・エデュケーション・センター提供中国語科目／外国書（中国語）講読科目			
2	留学	海外語学・文化研修プログラム（夏季）A 01	1 年以上	2	
3	留学	海外語学・文化研修プログラム（春季）A 01	1 年以上	2	
4	留学	海外語学・文化研修プログラム（春季）B 01	1 年以上	4	
5	留学	海外語学・文化研修プログラム（夏季）B 01	1 年以上	4	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

地域連携・地域貢献

Regional Collaboration/Regional Contribution

設置概要

学際的副専攻「地域連携・地域貢献」は、地域社会との連携と地域への貢献のための学びを認定するもので、学際的なアプローチを取り入れながら、学生が地域の課題を理解し、さらに、地域の諸課題に対する解決策を提案する能力を養うことを目指しています。

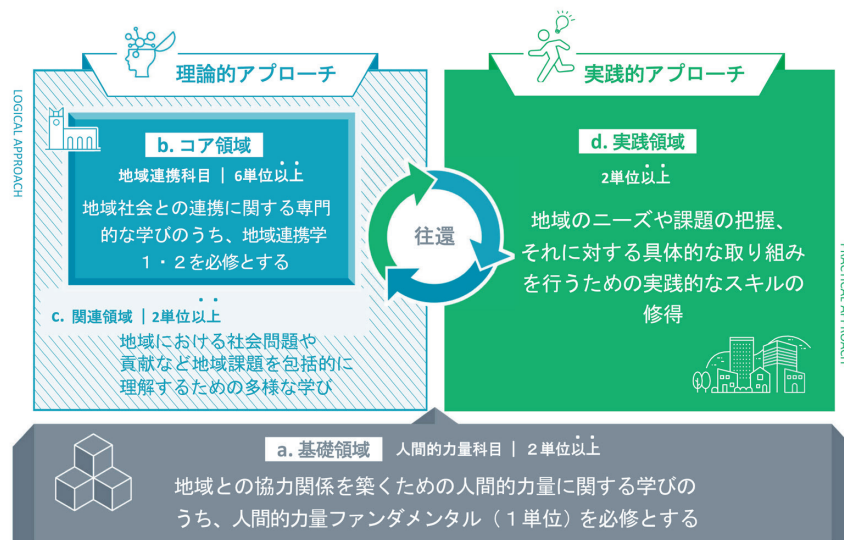
特徴としては、人間的力科目を基礎領域、地域連携科目をコア領域として、地域研究、ボランティアに関わる科目など、さまざまな学問分野から学ぶことで、地域連携と地域貢献を理解することがあります。また、専門的な知識と実践的なスキルを組み合わせることで、地域の問題解決に取り組む能力を育成します。

この副専攻の設置趣旨は、地域への貢献と、それを目的とした地域社会との連携について体系的に、また、実践的に学ぶことです。早稲田大学は、地域社会との関わりを重視しており、地域の発展に貢献することを使命としています。そこで、この副専攻では、実習科目や指定の課外活動を実践することを認定の要件とします。これらによって地域のニーズや課題を把握し、それに対して具体的な取り組みを行うための知識やスキルを学んでもらいます。また、地域との協力関係を築くためのコミュニケーション能力やリーダーシップも重要な要素として扱われます。これにより、学生は地域社会の現実に直面することで、課題を解決するための創造的なアイデアや提案を生み出す能力を身につけることができます。

到達点（学習成果）

- ・基礎領域、コア領域、関連領域の学びによって、地域の諸問題を学際的に分析し、地域の課題を的確に発見することができるようになります。
- ・発見した課題に対して、どのようにすれば解決、克服に近づけることができるか。そのアプローチについて考えることができるようになります。具体的には、地域連携を通じて、地域の資源を最大限に活用し、地域の特産品や文化を活かしたビジネスモデルやイノベーションを創出することが可能です。これにより、地域ブランドの向上や少子高齢化など、地域の諸課題に対するアプローチが可能になります。
- ・コミュニケーション能力の向上も目指します。地域において、多様なステークホルダーと円滑な対話を行いながら、共通の目標に向けて協働することで、より豊かな地域連携・地域貢献が可能になります。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

学際的アプローチ：本副専攻では、複数の学問分野から統合的に学ぶことで、文化、経済、社会など多角的な視点から地域の実態と課題に対する深い理解が得られます。

地域との連携：実践的な経験を通じて、地域のニーズや課題を把握し、解決に向けた提案を学びます。実践型授業や課外活動を通じて、現地の課題に取り組む機会を大いに活用してください。

地域貢献：地域との連携を通じて、学んだ知識やスキルを実際の地域課題の解決に活かすことができます。社会に貢献することで自分の成長を実感することができます。

ネットワーク構築：多様なバックグラウンドを持つ学生と一緒に取り組むことで、新たな視点やアイデアを得ることができます。

このように、本副専攻を修了するメリットは多岐にわたります。このカリキュラムのなかで、地域社会の実態や課題を知り、そのアプローチを学ぶことは、将来のキャリアにおいても、地域の発展に貢献できるだけでなく、問題解決能力やその考え方を身につけることにもつながります。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：2 単位以上、領域・分野 b：6 単位以上、領域・分野 c：2 単位以上、領域・分野 d：2 単位以上）以上

★領域・分野 a 「基礎領域（地域連携・地域貢献を学ぶための基礎力を養う）」 修了必要単位：2 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	グローバル	人間的力量ファンダメンタル 01	1 年以上	1	いずれか 1 クラスを履修必須
2	グローバル	人間的力量ファンダメンタル 02	1 年以上	1	
3	グローバル	人間的力量ファンダメンタル 03	1 年以上	1	
4	グローバル	人間的力量ファンダメンタル 04	1 年以上	1	
5	グローバル	ダイバーシティを学ぶ	1 年以上	1	
6	グローバル	人間的力量学 1 01	1 年以上	1	
7	グローバル	人間的力量学 1 02	1 年以上	1	
8	グローバル	人間的力量学 2 01	1 年以上	1	
9	グローバル	人間的力量学 2 02	1 年以上	1	
10	グローバル	体験の言語化ー世界と自分 01～29	1 年以上	1	
11	グローバル	リーダーシップ開発：理論とスキル 01～08	1 年以上	2	
12	グローバル	リーダーシップ開発：問題解決プロジェクト 01～08	1 年以上	2	
13	グローバル	リーダーシップ開発：社会人へのトランジション 01	1 年以上	2	
14	グローバル	リーダーシップ開発：社会人へのトランジション 02	1 年以上	2	

★領域・分野 b 「コア領域（地域連携・地域貢献を学ぶ）」 修了必要単位：6 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	グローバル	地域連携学 1	1 年以上	1	履修必須
2	グローバル	地域連携学 2	1 年以上	1	履修必須
3	グローバル	地域貢献論	1 年以上	1	
4	グローバル	地域資源活用論 1	1 年以上	1	
5	グローバル	地域資源活用論 2	1 年以上	1	
6	グローバル	地域連携実践論	1 年以上	1	領域・分野 d「実践領域」より前の履修を推奨
7	グローバル	農山漁村地域システム論 1	1 年以上	1	
8	グローバル	農山漁村地域システム論 2	1 年以上	1	
9	グローバル	地域連携基礎演習	1 年のみ	2	
10	グローバル	地域連携ケーススタディ 1	2 年以上	1	
11	グローバル	地域連携ケーススタディ 2	2 年以上	1	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

★領域・分野 c 「関連領域（地域連携・地域貢献に関連する領域を学ぶ）」

修了必要単位：2 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	公共政策 01	2 年以上	4	
2	政経	自治体政策 01	2 年以上	2	
3	政経	地方自治制度 01	3 年以上	2	
4	教育	経済地理学 I	2 年以上	2	
5	教育	経済地理学 II	2 年以上	2	
6	社会学	地域計画システム論 I	2 年以上	2	
7	社会学	地域計画システム論 II	2 年以上	2	
8	社会学	観光学	2 年以上	2	
9	人科	地域資源論	1 年以上	2	
10	人科	人口社会学	1 年以上	2	
11	人科	都市社会学	1 年以上	2	
12	創造	現代都市・地域論 A	2 年以上	2	
13	創造	現代都市・地域論 B	2 年以上	2	
14	創造	交通まちづくり	3 年以上	2	
15	グローバル	再生可能エネルギーを地域から考える。	1 年以上	2	
16	グローバル	地域、環境、エネルギーを考える	1 年以上	2	
17	グローバル	協同組合論	1 年以上	2	
18	グローバル	文化遺産と保全 1	1 年以上	1	
19	グローバル	文化遺産と保全 2	1 年以上	1	
20	グローバル	ボランティア入門 1 01	1 年以上	1	
21	グローバル	ボランティア入門 1 02	1 年以上	1	
22	グローバル	ボランティア入門 2	1 年以上	1	
23	グローバル	狩猟とジビエから考える地域貢献 1	1 年以上	1	
24	グローバル	ボランティアの現場と社会学 α	1 年以上	1	
25	グローバル	ボランティアの現場と社会学 β	1 年以上	1	
26	グローバル	経験の地平から学ぶ東日本大震災と社会貢献 1	1 年以上	1	
27	グローバル	経験の地平から学ぶ東日本大震災と社会貢献 2	1 年以上	1	
28	グローバル	社会貢献を仕事にする	1 年以上	1	
29	グローバル	スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性 1	1 年以上	1	

★領域・分野 d 「実践領域（地域連携・地域貢献を実践する）」

修了必要単位：2 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	グローバル	狩猟とジビエから考える地域貢献 2 01	1 年以上	2	
2	グローバル	狩猟とジビエから考える地域貢献 2 02	1 年以上	2	
3	グローバル	農山村体験実習	1 年以上	2	
4	グローバル	東日本大震災のフィールドワーク 1	1 年以上	1	
5	グローバル	東日本大震災のフィールドワーク 2	1 年以上	3	
6	GCC	【課外活動】地域連携ワークショップ		2 単位相当	<3 月卒業予定で副専攻修了を目指すされる方> 卒業直前の 3 月までかかる課外活動は、認定手続きの都合上、副専攻の単位相当にはなりません。
7	GCC	【課外活動】地域連携スタディツアー		1 単位相当	
8	GCC	【課外活動】企業連携ワークショップのうち、地域と関わる活動		2 単位相当	<9 月卒業予定で副専攻修了を目指すされる方> 卒業直前の 9 月までかかる課外活動は、認定手続きの都合上、副専攻の単位相当にはなりません。
9	WAVOC	【課外活動】ボランティアスタディツアー		1 単位相当	
10	WAVOC	【課外活動】早稲田ボランティアプロジェクトのうち、地域と関わる活動		1 単位相当	課外活動（本学指定）

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

※（領域・分野 d）9,10 の対象の活動についてはボランティアセンター（WAVOC）にお問い合わせください。

MEMO

設置概要

グローバル化が時代のキーワードである。世界の人・物・情報の動きは拡大の一途をたどり、地域ごとの差違は見過ごされがちになってきているが、まさにそのためにこそ、複雑に絡まる現代社会の諸問題を解明しようと試みるときに、地域を足掛かりとした多角的な視点を持つことが重要となる。

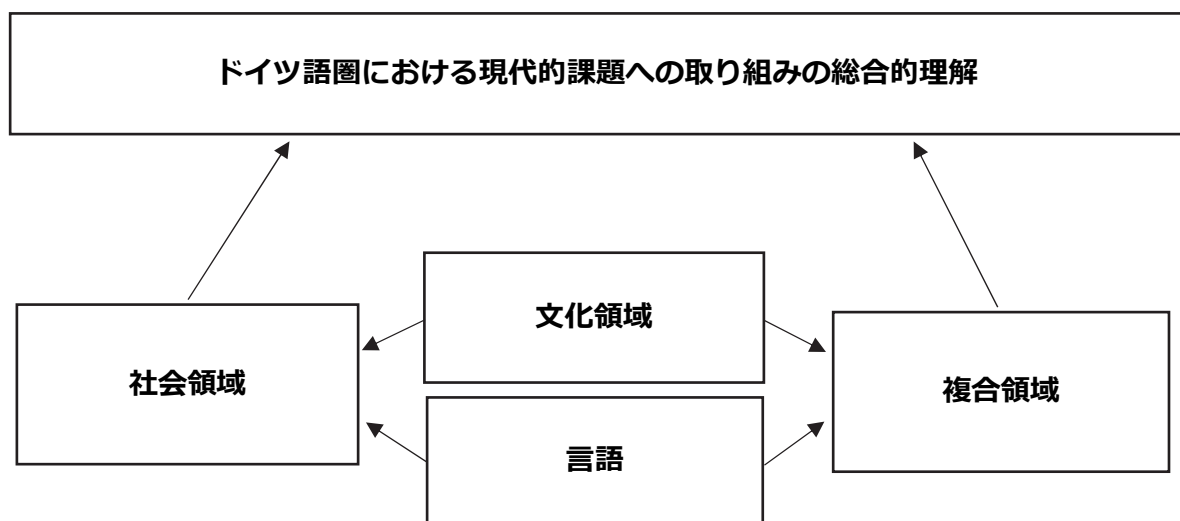
ドイツ語圏はかつて学術の中心地として知られ、また今日でも現代社会が突きつけるさまざまな課題に対して、それらを正面から受け止め、独自の道を歩みつつ解決への努力を行っている地域として注目されている。その姿を知ることが、グローバル化の中における日本の位置を知るための手がかりとなり、将来の日本を背負う学生は多くの示唆を得ることができる。

ドイツの社会や文化について、幅広い分野からの専門家を集め、多彩なテーマについての科目を配置し、多角的・学際的な視点から議論を深める。日本では残念ながら、ドイツ文化圏の上記のような取り組みについて十分知られているとはいえず、この副専攻ではそれを深く学ぶことができる。

到達点（学習成果）

ドイツ語圏の文化・社会の諸相に触れることで、より広い視野のもとで世界を見ることができる。他文化との取り組みは、知の組み換えをももたらす高度な知的作業である。知ると同時にその知を得るすべ、活かすすべを学ぶことは変革の激しい現代社会を生きる上で大いに役立つこととなろう。ドイツ語で行われる科目も開講するので、ドイツ語圏への留学を考えている学生にもその準備のために履修することができる。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

本副専攻の科目を体系的に履修することで、ドイツ語圏社会を広範に深く理解することができるでしょう。また、それぞれのテーマはドイツ語圏に固有なものではなく、世界に共通する問題も扱います。したがって、ドイツ語圏に直接関心を持たない学生でも、自らの問題を探求する場としてこの副専攻を利用することができます。

ほとんどの指定科目はドイツ語の知識なしに履修できますが、もちろんドイツ語を知っていれば理解がさらに深まりますし、最低限のドイツ語の知識は不可欠です。また、ドイツ語で行われる科目も用意していますので、ドイツ語圏への留学を考えている学生にもぜひ履修を勧めたいと思います。

指定科目一覽

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：2 単位以上、領域・分野 b：2 単位以上、領域・分野 c：2 単位以上、領域・分野 d：2～4 単位）以上

★領域・分野 a 「社会領域」

修了必要単位：2 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	アカデミックリテラシー演習（ドイツ語で学ぶヨーロッパの現代社会） 01	2 年以上	2	
2	政経	独語実践演習 I 01	3 年以上	3	
3	政経	独語実践演習 I 02	3 年以上	3	
4	政経	独語実践演習 II 01	3 年以上	3	
5	政経	独語実践演習 III A 01	3 年以上	3	
6	政経	独語実践演習 III B 01	3 年以上	3	
7	法学	社会学 I B（井関）	1 年以上	2	
8	法学	外国法総論（ドイツ法 II）	2 年以上	2	

★領域・分野 b 「文化領域」

修了必要単位：2 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	アカデミックリテラシー演習（ドイツの文化） 01	2 年以上	2	
2	教育	ドイツ語圏の文学	2 年以上	2	
3	文	ドイツ文学概論 1	2 年以上	2	
4	文	ドイツ文学概論 2	2 年以上	2	
5	文	ドイツ言語文化論	2 年以上	2	
6	文	ドイツ文化特論	2 年以上	2	
7	文	ウィーン文化論	1 年以上	2	
8	文	ドイツ比較文化論	2 年以上	2	
9	文	ドイツ語圏の思想	2 年以上	2	
10	文	ドイツ語圏の文化	2 年以上	2	
11	基幹	ドイツ文化研究	2 年以上	2	

★領域・分野 c 「複合領域」

修了必要単位：2 単位以上

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	アカデミックリテラシー演習（複言語で学ぶ社会文化） 01	2 年以上	2	
2	政経	アカデミックリテラシー演習（ドイツ語で聞いて読むニュース） 01	2 年以上	2	
3	法学	総合講座「ドイツ語圏を知る」	1 年以上	2	
4	グローバル	ドイツ語テレビ会議（言語・文化）	1 年以上	2	
5	グローバル	ドイツ語テレビ会議（生活・社会）	1 年以上	2	
6	グローバル	ドイツ人の環境意識を探る	1 年以上	2	

★領域・分野 d 「言語」

修了必要単位：2～4 単位

※領域・分野 d は 4 単位までしか算入されません。

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	各学部	各学部提供ドイツ語科目			
2	留学	海外語学・文化研修プログラム（夏季）A 01	1 年以上	2	
3	留学	海外語学・文化研修プログラム（春季）A 01	1 年以上	2	
4	留学	海外語学・文化研修プログラム（春季）B 01	1 年以上	4	
5	留学	海外語学・文化研修プログラム（夏季）B 01	1 年以上	4	
6	留学	海外語学・文化研修プログラム（春季）C 01	1 年以上	1	
7	留学	海外語学・文化研修プログラム（夏季）C 01	1 年以上	1	
8	グローバル	ドイツ語総合基礎 A 1-1 01	1 年以上	2	
9	グローバル	ドイツ語総合基礎 A 1-1 02	1 年以上	2	
10	グローバル	ドイツ語総合基礎 A 1-2 01	1 年以上	2	
11	グローバル	ドイツ語総合基礎 A 1-2 02	1 年以上	2	
12	グローバル	ドイツ語総合基礎 A 2-1	1 年以上	2	
13	グローバル	ドイツ語総合基礎 A 2-2	1 年以上	2	
14	グローバル	ドイツ語コミュニケーション（基礎）	1 年以上	1	
15	グローバル	ドイツ語コミュニケーション（応用）	1 年以上	1	
16	グローバル	ドイツ語文法（入門）	1 年以上	1	
17	グローバル	ドイツ語文法（初級）	1 年以上	1	
18	グローバル	ドイツ語コミュニケーション（上級）	1 年以上	1	
19	グローバル	ドイツ語コミュニケーション（続基礎）	1 年以上	1	

※領域・分野 d については、4 単位を超えて 2 副専攻の修了要件に算入することができません（領域分野 a・b・c の修得単位数を合算して 12 単位以上修得することが必要）ので、注意してください。

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

都市・地域研究

Urban and Regional Studies

設置概要

都市とは人間の高度な文明社会を支える器（うつわ）です。2030年、世界人口の2/3以上が都市に住むようになります。グローバル化とともに、社会・政治・経済が変化し、複雑化、ネットワーク化し、アジア・アフリカ地域が台頭し、巨大都市やインフォーマルシティと呼ばれる移動都市が出現しつつあり、一方で西欧や先進国では縮退都市化が進んでいます。都市に期待される役割、意味、かたち、しくみ、表象、課題、政策、計画等も刻々と変わっていきます。

都市・地域研究（Urban and Regional Studies）は、巨大な社会経済システムを理解し、制御するための固有の領域です。成熟社会化、持続可能な都市・地域づくりが大きな課題です。そのための政治・経済・法律・社会・文化の現状理解と政策デザインを学際的・臨床的に学ぶ体系であり、また都市計画、都市社会デザイン等の専攻を目指す学生の専門的・先端的カリキュラムです。

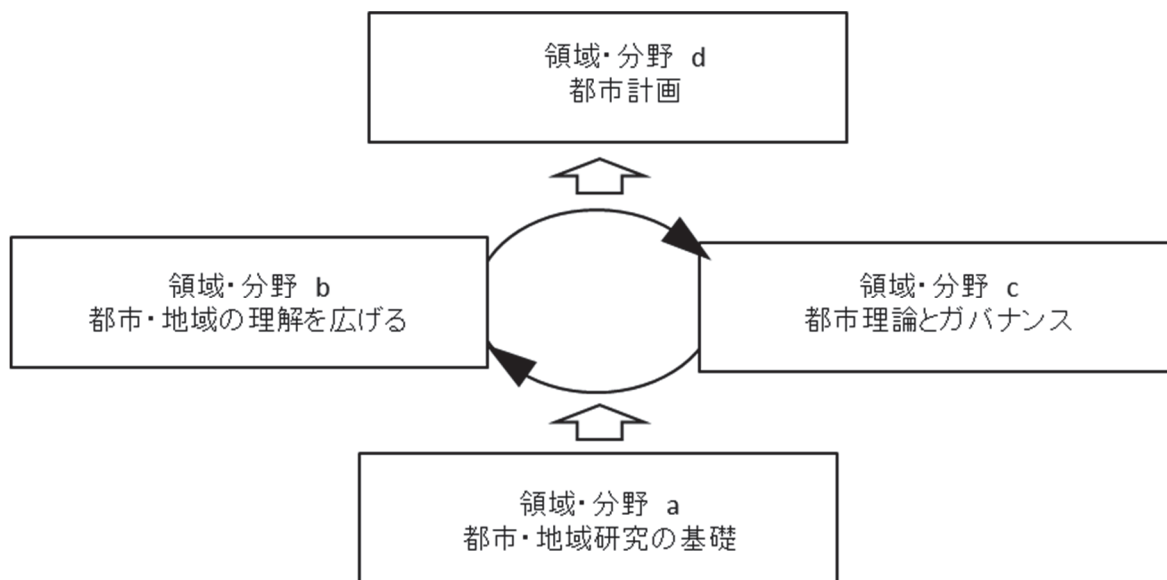
早稲田大学は日本・アジアにおいて都市・地域研究の分野を切り開いた大学であり、学際的な学問的基礎、グローバルな都市の理解の拡大、理論と官民連携など都市ガバナンスの深化、都市計画の応用・実践を体系的に学びます。

到達点（学習成果）

以下の4つの学習成果を目標の到達点とします。

- (1) グローバル社会においている典型的な都市・地域の問題・論点を概ね理解できることとします（テーマや 이슈を見て、それぞれについて最低限理解できることを目指します）。
- (2) 世界の多様な都市・地域のあり方を理解し、深めることができることとします。
- (3) 都市・地域の現状と未来の課題を分析・理解し、都市のガバナンスを考察できることとします。
- (4) 都市・地域計画による総合的な課題解決能力の向上を図ります。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

都市・地域研究は、確立された一つの専門的な学術分野で、海外では専門の学部や大学院も多く存在しますが、日本ではまだ多くありません。早稲田の都市・地域研究の科目や教員は、各学部、大学院などに目下散在していますが、その垣根を越えて総合的に連携する体制を構築しています。都市・地域研究は、伝統ある分野であると同時に、時代や社会の変化に応える視点が重要です。将来重要性を増す社会現象や学問的課題を見つけながら、既存の学問体系にとらわれずに新たな知的考察を加えていくマインドや学習態度が求められます。それだけにやりがいのある分野ですので、チャレンジしてください。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：4 単位 領域・分野 b：4 単位 領域・分野 c：4 単位 領域・分野 d：4 単位）以上

★領域・分野 a 「都市・地域研究の基礎」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	教育	都市地理学	2 年以上	2	
2	社会学	社会デザインの思考と技法 1〔他者と関わりを持つということ〕	2 年以上	2	
3	社会学	社会デザインの思考と技法 2〔フィールドでの技術〕	2 年以上	2	
4	国際教養	Introduction to Urban Studies 01	1 年以上	2	
5	文構	芸術と社会	1 年以上	2	
6	創造	現代都市・地域論 A	2 年以上	2	2020 年度以前 GEC 設置「都市・地域概論」と同一科目
7	創造	現代都市・地域論 B	2 年以上	2	2020 年度以前 GEC 設置「現代都市・地域論」と同一科目

★領域・分野 b 「都市・地域の理解を広げる」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	法学	地域研究（アフリカ）	3 年以上	2	
2	社会学	環境表現論 I	1 年以上	2	
3	社会学	観光学	2 年以上	2	
4	社会学	都市復興デザイン論	2 年以上	2	
5	社会学	イタリアの都市づくり	3 年以上	2	
6	人科	都市社会学	1 年以上	2	
7	国際教養	Urban Studies	3 年以上	2	

★領域・分野 c 「都市システムのデザイン」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	社会学	地理情報システム論 I	1 年以上	2	
2	社会学	地理情報システム論 II	1 年以上	2	
3	社会学	コミュニティデザイン	1 年以上	2	
4	社会学	地域計画システム論 I	2 年以上	2	
5	社会学	地域計画システム論 II	2 年以上	2	

★領域・分野 d 「都市計画」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	国際教養	Social Design & Design Thinking for Urban Change 01	2 年以上	2	
2	国際教養	Social Design & Design Thinking for Urban Change 51	2 年以上	2	
3	創造	都市計画	2 年以上	2	
4	創造	景観設計	3 年以上	2	
5	創造	景観工学	2 年以上	2	
6	創造	都市計画	3 年以上	2	
7	創造	交通まちづくり	3 年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

Conflict Resolution: From Asia's Perspective

＜日本語版＞

設置概要

現在そして未来における地球規模の課題解決を担う人材を育成するべく、早稲田大学にて提供されている豊富な科目群を体系的に結び付け、学生の問題解決実践力を養う学びを展開することが、当副専攻の主たる趣旨である。

早稲田大学ではこれまで社会科学部を中心に、理論と実践をつなぐ多くのユニークな科目群を有した平和学副専攻を開設してきた。また、『WASEDA-EDGE 人材育成プログラム～共創館イノベーション・エコシステムの構築～（以下、EDGE プログラム）』においては、科学技術シーズを社会ニーズに適合させたり未来の社会ニーズを発見し解決策を生み出すことのできる、文理融合のアントレプレナー人材を育成してきた。加えて、共に東アジアのリーディングスクールである北京大学と高麗大学校と協力し、『多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム（以下、キャンパス・アジア・プログラム）』を実施し、紛争解決と社会変革に情熱とスキルをもつ次世代アジアのリーダーの育成にも注力してきた。

当副専攻では、これまでの平和学の理念を踏まえ、EDGE プログラム及びキャンパス・アジア・プログラムで醸成されてきた知と実践経験をもとに、自ら主体的に問題解決に携わることのできるグローバルリーダー人材を育成することを目指す。グローバル化が進む世界においてアジアのプレゼンスが高まっていることを受け、当副専攻では課題先端社会である日本を含むアジア地域の諸課題と解決策を重点的に取り上げ、急速に変化するグローバル課題に対応しうる学術的・実践的な力を養う。また、課題発見に重点を置くことで、既存の学問体系にとらわれない学際的な学びを可能とする。こうしたカリキュラム設計により多様な学部から科目を選択することが可能となり、早稲田キャンパス、西早稲田キャンパス、戸山キャンパスをまたいだ交流が加速することで、大学横断的な学びのエコシステムが創造されることも期待される。基本的には日本語および英語での科目履修が望ましいが、英語もしくは日本語のみで修了することも可能である。

到達点（学習成果）

当副専攻を履修する学生は、紛争解決および社会変革について、理念・理論面での理解のみならず、自ら問題解決をする機動力・実践力をつけることを目指す。

当副専攻カリキュラムの学習行程「①基礎レベル：課題を見つける、②発展レベル：課題を深く理解する、③実践レベル：課題解決力をつける」を通じ、履修学生は自ら課題を発掘する力を養い、自身が関心を持つ課題について座学や演習、自由研究などによって理解を深め、実践的な科目を通じて課題解決力を身につける。各レベルにおいて異なる分野にまたがる科目を履修することで、分野横断的な問題に対し学際的な思考を養う。さらに、日本語に加え英語開講科目を数多く設置することで、英語（日本語）での学びを促進することで、「英語（日本語）」を“学ぶ”のではなく、「英語（日本語）」で“学ぶ”体験を重ね、日本語および英語による実践的コミュニケーション能力を習得する。

カリキュラムマップ

修了必要単位: 18 単位 / The total number of required credits: 18 credits

 領域・分野a. 課題を見つける/ Exploring Issues 基礎レベル/Basic Level 必要単位: 6単位/ Required credits: 6 credits	現在そして将来の地球、人類が直面する課題を、紛争解決学、平和学、イノベーションなど多角的な視点から発見・検討する Exploring challenges in the world today and in the future various perspectives including peace and conflict studies and innovation. →日本語・英語の科目を最低1つずつ履修することが望ましい / It is desirable to take at least one Japanese AND English course.
 領域・分野b. 課題を深く理解する/ Understanding Issues 発展レベル/Intermediate Level 必要単位: 6単位/ Required credits: 6 credits	- 分野①/Area 1「政治・経済 / Politics and economy」 →最低1科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course. - 分野②/Area 2「社会・文化・環境 / Society, culture and environment」 →最低1科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course.
 領域・分野c. 課題解決力をつける/ Equipping with problem-solving capacities 実践レベル/Advanced Level 必要単位: 6単位/ Required credits: 6 credits	- 分野①/Area 1「平和構築・開発 / Peacebuilding & Development」 →最低1科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course. - 分野②/Area 2「イノベーション / Innovation」 →最低1科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course.

履修を希望する学生へのメッセージ

当副専攻では学習到達度に応じて、基礎・発展・実践レベルの3つのレベルで科目を用意している。履修の際には、学際的に展開している基礎レベル科目を履修し、更に発展、実践レベルにおいてそれぞれ異なる分野の科目を履修することで、より深く高度な学際的な学びが可能となる。

「課題を見つける」：基礎レベル。日本語・英語での提供科目をそれぞれ1科目以上履修することが望ましい。複数言語で思考とコミュニケーションを重ねることで複眼的視野を獲得し、多様な社会において自らを表現し他者を理解する力を養う機会となるためだ。

「課題を深く理解する」：発展レベル。「政治・経済」カテゴリーでは、この副専攻の重要な視座であるアジアに主軸を置きながら、安全保障や国際法を含む多岐にわたる学びを深める。「社会・文化・環境」のカテゴリーでは、アジアおよび世界で重要性が加速的に増している喫緊の問題について、ジェンダー、環境など多角的な視座から学ぶ。既存の学問領域を超えた現実の事象に対する学びを進めるため、履修学生は、2つのサブ・カテゴリー双方から、最低1科目以上を履修することが望ましい。既に関心を持つ分野一方を集中的に履修することも可能だが、より幅広い課題への視座を獲得するために、多岐にわたる科目の履修が望ましい。

「課題解決力をつける」：実践レベル。「平和構築・開発」カテゴリーでは（副専攻テーマ「Conflict Resolution」との関連に触れながら、これまで長きにわたって蓄積された平和構築と開発の分野で蓄積された学び及び実践知を習得する。加えて、地球規模の課題やグローバル化した地域社会における多様な課題の解決には、イノベティブな発想法、実践法を身に付けておくことが不可欠だ。よって、「イノベーション」カテゴリーでは、イノベーションに必要なデザイン思考、起業家的発想を実践的に学ぶ。当レベルにおいても、2つのサブ・カテゴリー双方から、最低1科目以上履修することが望ましい。なお、「イノベーション」で提供される科目は集中授業形式が多いため、履修登録の際は十分に注意すること。

Conflict Resolution: From Asia's Perspective

<English>

Overview

This minor provides students with an opportunity to develop their capacities to solve a wide range of problems the world is facing today and in the future. Waseda University has offered a number of programs bridging theory and practice in the field of peace studies, innovation and conflict resolution. The minor "Peace Studies", EDGE Program and CAMPUS Asia ENGAGE Program are among the examples. Being based on these programs, the minor aims to develop global leaders who can take their own initiatives and engage in solving problems that Earth is facing today and in the future. The minor focuses on Asia, the area showcasing some unprecedented challenges as well as potential solutions to these challenges.

This minor is highly interdisciplinary and expose students to a wide range of subjects. Students are required to learn proactively so that they can develop their capacities to explore, identify and find innovative solutions. The minor strongly encourages students to take courses in both English and Japanese, although it is possible to complete the minor by taking courses only in either of the languages.

Learning Outcomes

By completing the minor, students are expected to have not only deepened their understanding of conflict resolution and social innovation theoretically but also developed practical problem-solving capacities. At each level in the learning process, i.e., Basic Level, Intermediate Level and Advanced Level, students choose subjects from various disciplines so that they obtain an interdisciplinary approach to understanding complex, intertwined and cross-cutting challenges. The minor offers courses in English and Japanese.

In this minor, students are encouraged to take courses in Japanese (English) so that they have an opportunity to learn in Japanese (English) and enhance their Japanese (English) communication skills.

Curriculum

修了必要単位: 18 単位 / The total number of required credits: 18 credits

 領域・分野a. 課題を見つける/ Exploring Issues 基礎レベル/Basic Level 必要単位: 6単位/ Required credits: 6 credits	現在そして将来の地球、人類が直面する課題を、紛争解決学、平和学、イノベーションなど多角的な視点から発見・検討する Exploring challenges in the world today and in the future various perspectives including peace and conflict studies and innovation. →日本語・英語の科目を最低1 つずつ履修することが望ましい / It is desirable to take at least one Japanese AND English course.
 領域・分野b. 課題を深く理解する/ Understanding Issues 発展レベル/Intermediate Level 必要単位: 6単位/ Required credits: 6 credits	- 分野①/Area 1 「政治・経済 / Politics and economy」 →最低1 科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course. - 分野②/Area 2 「社会・文化・環境 / Society, culture and environment」 →最低1 科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course.
 領域・分野c. 課題解決力をつける/ Equipping with problem-solving capacities 実践レベル/Advanced Level 必要単位: 6単位/ Required credits: 6 credits	- 分野①/Area 1 「平和構築・開発 / Peacebuilding & Development」 →最低1 科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course. - 分野②/Area 2 「イノベーション / Innovation」 →最低1 科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course.

Message from Coordinators

The minor consists of three levels: Basic Level, Intermediate Level and Advanced Level.

At Basic Level, students are encouraged to take at least one Japanese course and one English course, so that students can develop a multi-layered approach to understanding complex issues.

At Intermediate Level, it is encouraged that students take at least once course from each of the subject areas: Area 1) Politics and economy and Area 2) Society, culture and environment. Area 1 offers courses including international security and international law, with a special focus on Asia. Area 2 include courses on acute issues in Asia, in particular, gender and environment.

Advanced Level offers courses that enable students to equip with practical knowledge and skills for solving problems. Students are encouraged to take at least once course from each of the areas: Area 1) Peacebuilding and development and Area 2) Innovation. Many courses under Area 2 (Innovation) are intensive programs.

指定科目一覧

修了必要単位

18 単位（領域・分野 a：6 単位、領域・分野 b：6 単位、領域・分野 c：6 単位）以上

★領域・分野 a 「課題を見つける／Exploring Issues」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	アカデミックリテラシー演習（キャンパス・アジアへの誘い：歴史・和解・変革） 01	2 年以上	2	
2	政経	History of Political Thought 01	2 年以上	4	
3	社会学	ディーセント・ワーク 1	1 年以上	2	
4	社会学	ディーセント・ワーク 2	2 年以上	2	
5	社会学	War and Japan	1 年以上	2	
6	社会学	Contemporary Social Affairs 1	1 年以上	2	
7	社会学	Contemporary Social Affairs 2	1 年以上	2	
8	社会学	Foreign Affairs	1 年以上	2	
9	社会学	Development Studies	1 年以上	2	
10	国際教養	Introduction to Peace and Conflict Studies 01	1 年以上	2	
11	国際教養	Introduction to Peace and Conflict Studies 51	1 年以上	2	
12	国際教養	Introduction to International Relations 01	1 年以上	2	
13	国際教養	Introduction to International Relations 03	1 年以上	2	
14	国際教養	Introduction to International Relations 51	1 年以上	2	国際教養学部生のみ履修可
15	国際教養	Introduction to International Relations 52	1 年以上	2	国際教養学部生のみ履修可
16	グローバル	イノベーション概論 1：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1 年以上	1	
17	グローバル	イノベーション概論 2：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1 年以上	1	

★領域・分野 b 「課題を深く理解する／Understanding Issues」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	政経	日本政治史 01	2 年以上	4	Area 1
2	政経	国際機構論 01	2 年以上	2	Area 1
3	政経	比較民主化論 01	3 年以上	2	Area 1
4	政経	Japanese Political History 01	2 年以上	2	Area 1
5	政経	Comparative Democratization 01	3 年以上	2	Area 1
6	政経	Japanese Political Thought A 01	2 年以上	2	Area 2
7	政経	Japanese Political Thought B 01	2 年以上	2	Area 2
8	政経	International Organization 01	2 年以上	2	Area 1
9	法学	国際関係法 I A	2 年以上	2	Area 1
10	法学	International Law	3 年以上	2	Area 1
11	教育	ジェンダー・スタディーズ I（身近なことを視座にして）	1 年以上	2	Area 2
12	社会学	国際政治理論	2 年以上	2	Area 1
13	社会学	Trans-Pacific Perspectives on Race, Ethnicity, and Migration	1 年以上	2	Area 2
14	社会学	Contemporary Japanese Foreign Policy	1 年以上	2	Area 1
15	社会学	Critical Development Studies	1 年以上	2	Area 1
16	国際教養	Gender Studies 01	2 年以上	4	Area 2
17	国際教養	Gender Studies 02	2 年以上	4	Area 2
18	国際教養	The Pacific in the 21st Century World 51	2 年以上	4	Area 2
19	国際教養	Pacific Perspectives on Empire, War, and Globalization 01	2 年以上	4	Area 2
20	国際教養	Pacific Perspectives on Empire, War, and Globalization 51	2 年以上	4	Area 2
21	国際教養	Introduction to Peace and Human Rights	1 年以上	2	Area 1
22	文構	国際協力・人間の安全保障論	1 年以上	2	Area 1
23	グローバル	環境問題と持続可能な社会	1 年以上	2	Area 2
24	グローバル	海外・在日コリアンを考える	1 年以上	2	Area 2
25	グローバル	国際政治学と平和 1	1 年以上	1	Area 1
26	グローバル	国際政治学と平和 2	1 年以上	1	Area 1

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

★領域・分野 c 「課題解決力をつける／Equipping with Problem-solving Capacities」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科 目 名	配当年次	単位	備 考
1	社会学	紛争解決論実習 1	2 年以上	2	Area 1
2	社会学	Trans-Pacific Perspectives on Work, Culture, and Society	1 年以上	2	Area 2
3	社会学	Japan and Peacebuilding : Asian Policies	1 年以上	2	Area 1
4	社会学	Professionals Innovating Work 1 : Exploring New Work and Life Styles in the Changing World	2 年以上	2	Area 2
5	社会学	Professionals Innovating Work 2 : Getting to Know the World of Work	2 年以上	2	Area 2
6	社会学	Synthesis of Conflict Resolution and Social Innovation	1 年以上	2	Area 1
7	社会学	Social Innovation in Global Asia	1 年以上	2	Area 2
8	国際教養	Culture and Law 51	2 年以上	2	Area 2
9	国際教養	Human Security 51	2 年以上	2	Area 1
10	国際教養	Minorities and the Law in the United States 01	2 年以上	2	Area 2
11	国際教養	Conflict Resolution 01	3 年以上	4	Area 1
12	国際教養	Conflict Resolution 51	3 年以上	4	Area 1
13	国際教養	Peacebuilding and Humanitarian Assistance 01	3 年以上	4	Area 1
14	国際教養	War and Peace	2 年以上	4	Area 1
15	グローバル	国際協力の実践と理論 1	1 年以上	1	Area 1
16	グローバル	国際協力の実践と理論 2	1 年以上	1	Area 1
17	グローバル	インターンシップ入門	1 年以上	1	
18	グローバル	起業特論 A : トップリーダーマネジメント	1 年以上	1	Area 2
19	グローバル	Advanced Course on Entrepreneurship	1 年以上	1	Area 2
20	グローバル	CSR マネジメント実践	1 年以上	1	Area 2
21	グローバル	Examining Corporate Social Responsibility from a Global Perspective	1 年以上	1	Area 2
22	グローバル	デザインシンキング	1 年以上	1	Area 2
23	グローバル	Design Thinking	1 年以上	1	Area 2
24	グローバル	イノベーション人材になるためのコーチング研修 (ベーシック)	1 年以上	1	Area 2

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。